

皇軍聯隊旗写真帖
森本富藏編



0056976-000

419-209

皇軍聯隊旗写真帖

皇徳奉賛会高輪分会・編

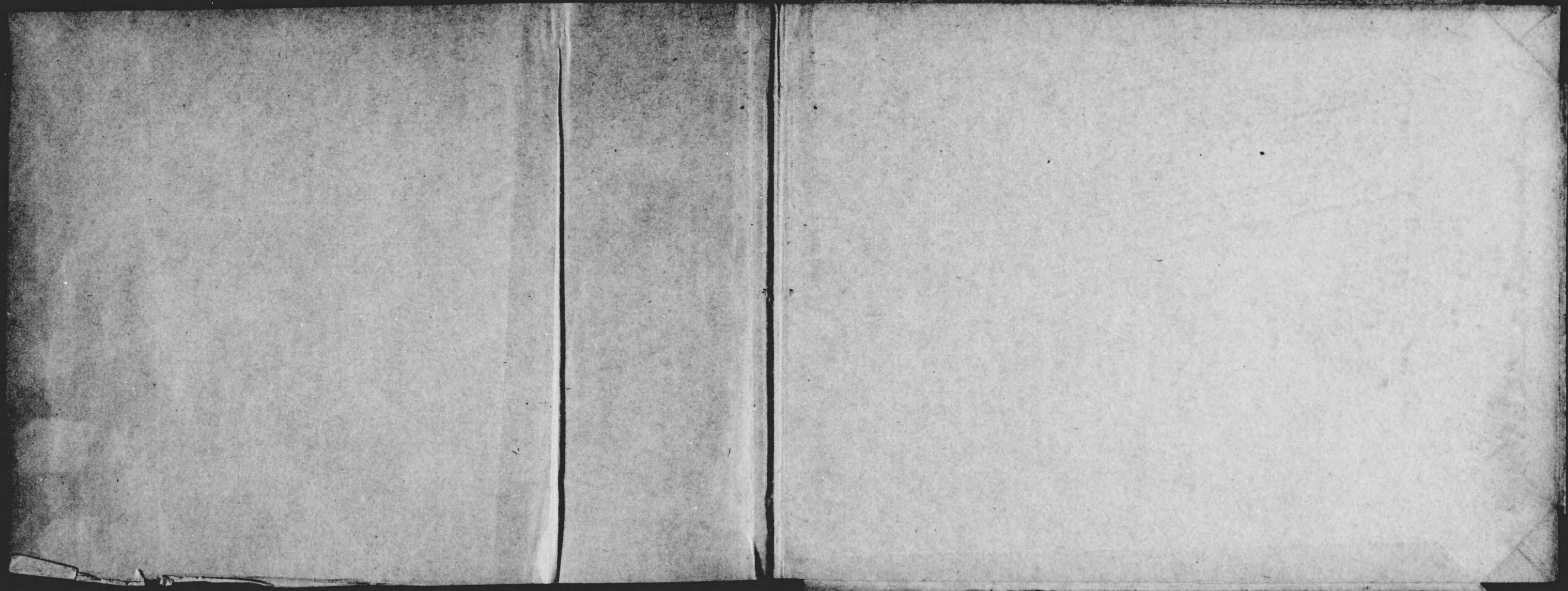
皇徳奉賛会高輪分会

昭和7

AJE

皇軍聯隊旗寫真帖

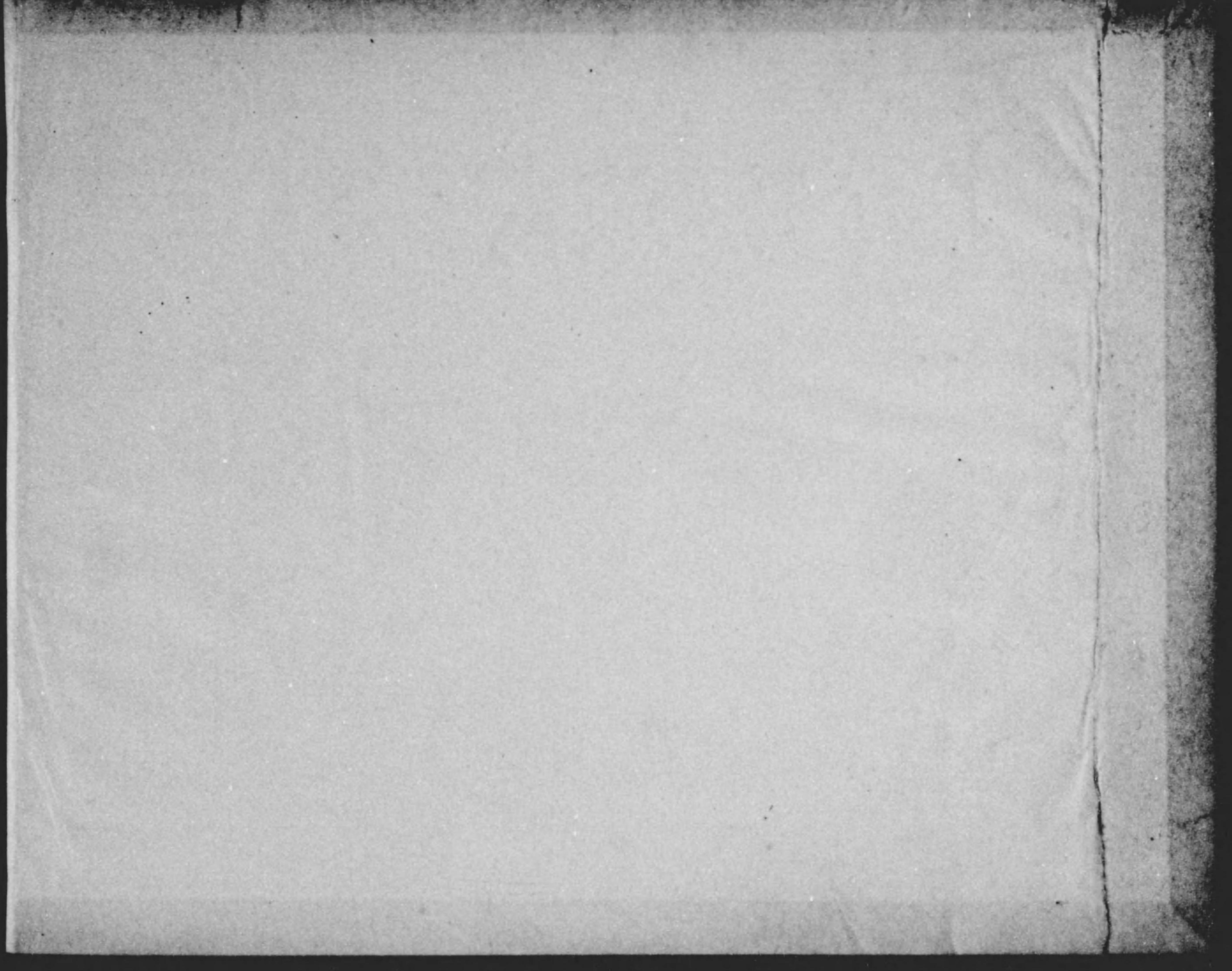
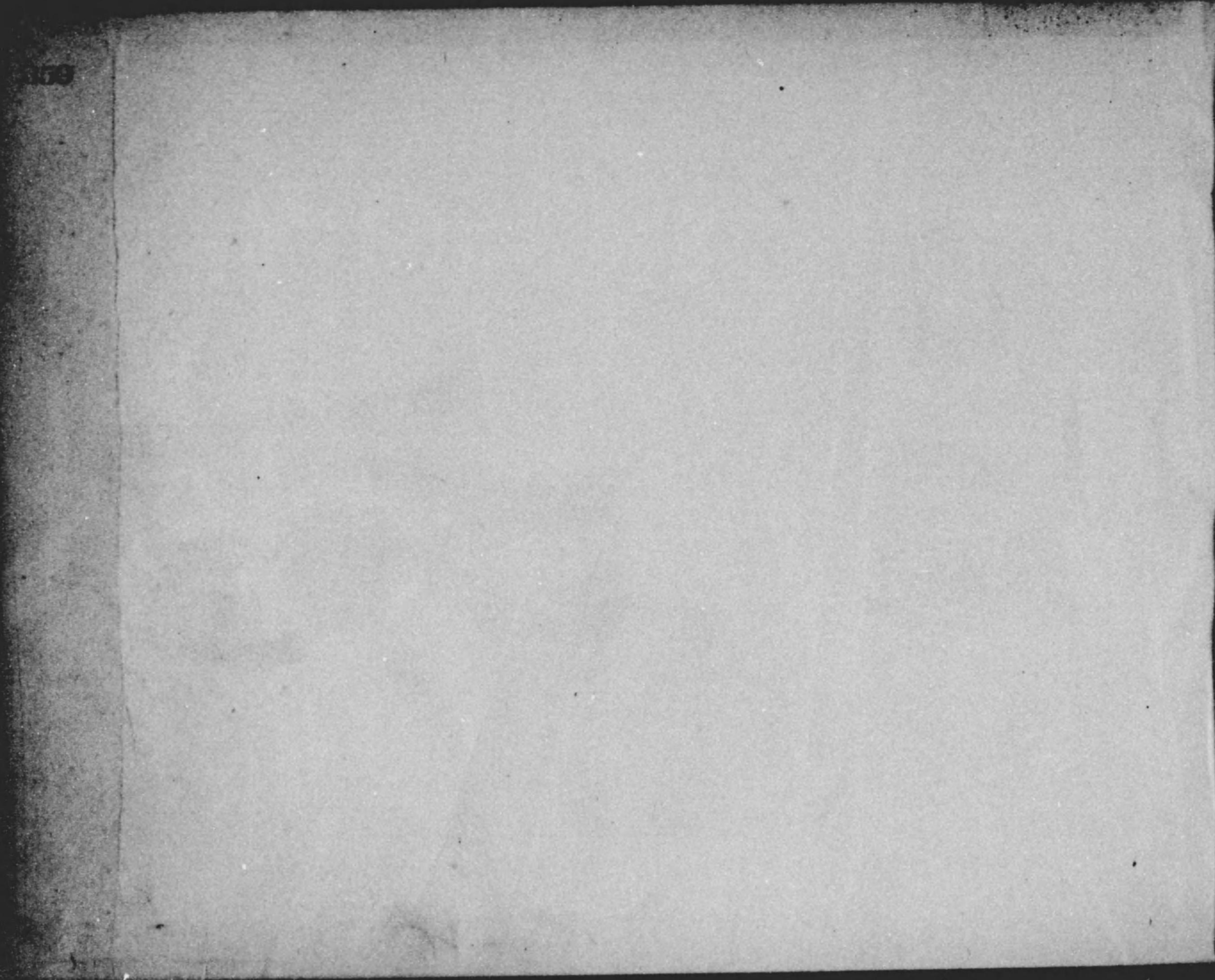
森本富藏編



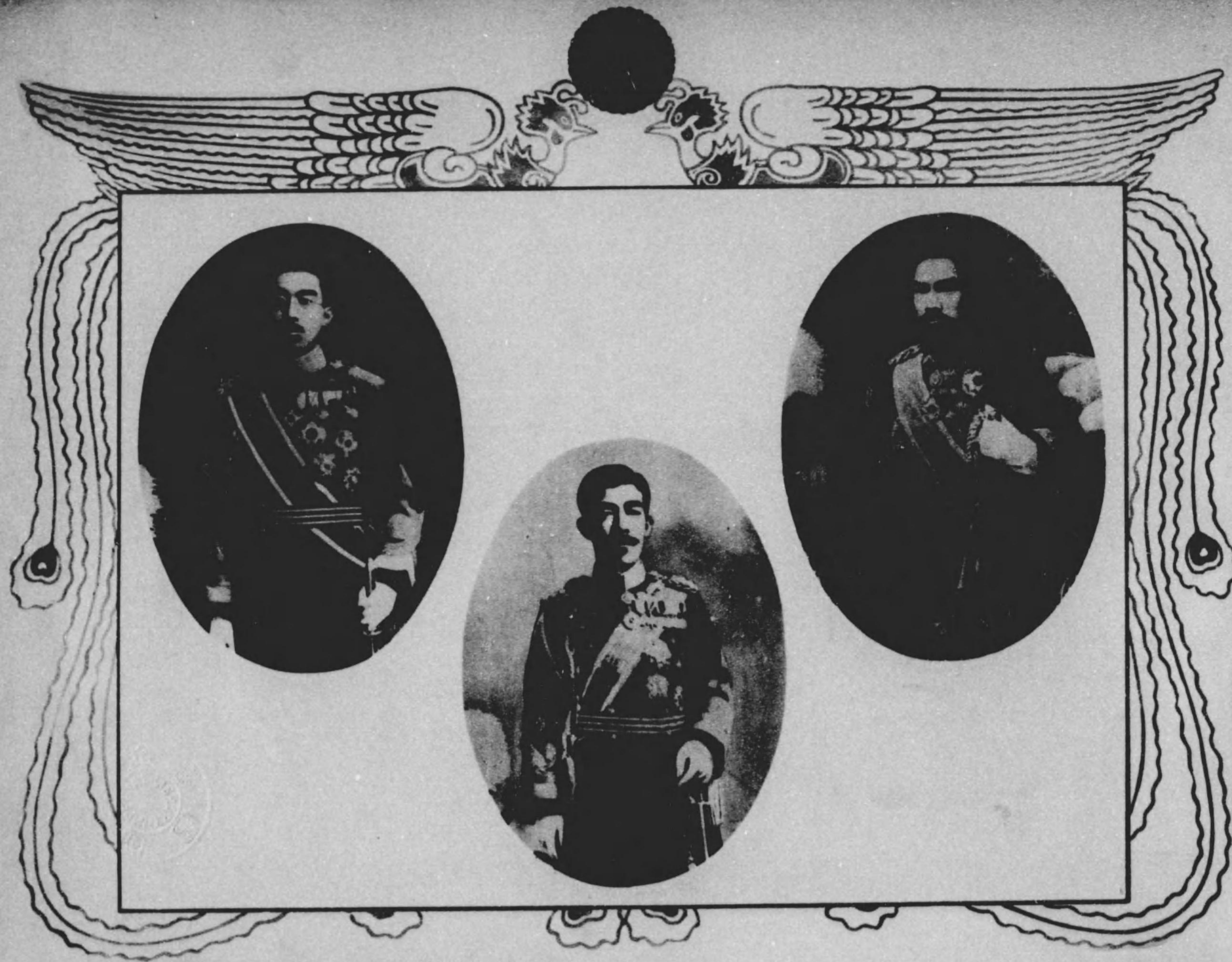
419

209

皇軍聯隊旗寫真帖









忠義



忠義

皇軍 皇太子 皇太后 皇親 皇族 皇宮 皇親王 殿下 御誅筆 (用印) 御親筆

載仁親王



忠誠

載仁親王



慶二親王

忠誠

皇朝御製
開元宮簿
縣王親王
不齊
永平

明治天皇御製
侍從武官長 奈良武次閣下謹書
陸軍大将

明治天皇御製
まはらうたふ不替
はつととこいあまの
日のあはれ名と
あゝ大のま
昭
侍從武官長 奈良武次閣下謹書
[Seal] [Seal]

忠
誠

卷二 殿上

神武天皇
中興
是木貞夫閣下題字

神武天皇
八紘一宇

神武天皇
中興
是木貞夫閣下題字

日本書道
大正
武庫信長閣下題字

光園

信義書屋

光園

鐘水在六閣下題字

武 報

在六閣

武 報

大角海相

大角海相

大角海相

勅語

皇祖考特ニ明勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒシヨリ茲ニ五十年汝等克ク五條ノ大綱ヲ守リ皇考ノ遺訓ヲ奉シ朕カ意ヲ體シテ日夜軍人精神ヲ養ヒ力ヲ協セ心ヲ一ニシテ報效ノ實ヲ舉ケ忠良ノ誠ヲ擢ツ朕ハ切ニ汝等ヲ股肱ト頼ミ先朝ノ愛撫シ給ヘル軍政ニ情愜シテ國基ヲ恢弘シ國光ヲ宣揚シ以テ列聖ノ照鑒ニ對ヘムコトヲ庶幾フ汝等軍人益職分ヲ勵ミ彌節操ヲ固クシ其重任ヲ全クセムコトヲ期セヨ

昭和七年一月四日は、明治天皇が陸海軍人に勅諭を下賜されて滿五十年に相當するのでそれ／＼勅諭下賜五十周年記念式を舉行されたが荒木陸相、大角海相は午前十時中官中に参内、表内謁見所に参進天皇陛下には陸軍通常御禮装にて出御、兩相に親しく拜謁仰付られ奈良侍從武官長侍立、參謀總長元帥閑院宮殿下御参列（東郷、上原兩元帥拜辭）先づ大角海相は恭しく御前に進み力をこめて誓詞を捧讀して捧呈すれば、陛下には長くも別項優渥なる勅語を陸海軍人に賜ひ大角海相、荒木陸相をそれ／＼奉答文を捧讀し兩相は有難き勅語を拜し同四十五分官城を退下した。

誓詞

臣 岑 生
臣 貞 夫

海軍大臣奉答文

勅諭拜受ノ五十周年ニ値リ優渥ノ聖旨ヲ賜ハリ恐懼措ク所ヲ知ラス臣等殊遇ニ感激シ情愜愈重キヲ念ヒ心力ヲ竭シテ忠節ヲ勵ミ股肱ノ本分ヲ全クセムコト期ス
昭和七年一月四日
海軍大臣 大角岑生

陸軍大臣奉答文

勅諭拜受ノ五十周年ニ値リ優渥ノ聖旨ヲ賜ハリ恐懼措ク所ヲ知ラス臣等殊遇ニ感激シ情愜愈重キヲ念ヒ心力ヲ竭シテ忠節ヲ勵ミ股肱ノ本分ヲ全クセムコト期ス
昭和七年一月四日
陸軍大臣 荒木貞夫

誠懇懐德ヲ奏ス

陛下聖訓ノ初特ニ聖勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒ先朝ノ訓諭ニ導由シ字内ノ大勢ト時世ノ推移トニ鑒ミ操守ヲ固クシ至誠ヲ擢ツヘキヲ訓ヘ給フ臣等感激ノ至ニ勝ヘス奉奉服膺シテ夙夜懈ラス唯及ハサランコトヲ恐ル謹テ按スルニ明治十五年一月四日勅諭ヲ陸海軍人ニ下シテ五條ノ大綱ヲ示シ給ヒシヨリ慈育愛撫ノ恩光ニ浴スルコト愛ニ五十年臣等乏シキヲ股肱ノ重任ニ承ケ深ク聖旨ヲ肝銘スル者此ノ記念日ヲ迎ヘテ區々ノ微忱自ラ止ムヘカラス益志氣ヲ振作シ意報效ニ精進シ先士ノ志ヲ繼キテ後人ニ矜式スル所ヲ知ラシメ終始一貫上下力ヲ協セテ以テ

陛下ノ信倚ニ對ヘ國體ノ精華ヲ顯揚シ宏猷ヲ翼賛シ奉ラムコトヲ誓フ伏シテ希クハ
聖鑒ヲ垂レ給ハムコトヲ臣等生臣貞夫誠懇懐德ヲ奏ス

昭和七年一月四日

海軍大臣 臣 大角岑生
陸軍大臣 臣 荒木貞夫

陸軍大臣 荒木貞夫

勅語

皇祖考特ニ明勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒシヨリ茲ニ五十年汝等克ク五條ノ大綱ヲ守リ皇考ノ遺訓ヲ奉シ朕カ意ヲ體シテ日夜軍人精神ヲ養ヒ力ヲ協セ心ヲ一ニシテ報效ノ實ヲ舉ケ忠良ノ誠ヲ擢ツ朕ハ切ニ汝等ヲ股肱ト頼ミ先朝ノ愛撫シ給ヘル軍隊ニ信倚シテ國基ヲ恢弘シ國光ヲ宣揚シ以テ列聖ノ照鑒ニ對ヘムコトヲ庶幾フ汝等軍人益職分ヲ勵ミ彌節操ヲ固クシ其重任ヲ全クセムコトヲ期セヨ

昭和七年一月四日は、明治天皇が陸海軍人に勅諭を下賜されて滿五十年に相當するのでそれ／＼勅諭下賜五十周年記念式を舉行されたが荒木陸相、大角海相は午前十時少官中に参内、表内謁見所に参進天皇陛下には陸軍通常御禮装にて出御、兩相に親しく拜謁仰付られ奈良侍從武官長侍立、參謀總長元帥閣院宮殿下御参列（東郷、上原兩元帥拜辭）先づ大角海相は恭しく御前に進み力をこめて誓詞を捧讀して捧呈すれば、陛下には長くも別項優渥なる勅語を陸海軍人に賜ひ大角海相、荒木陸相それ／＼奉答文を捧讀し兩相は有難き勅語を拜し同四十五分宮城を退下した。

誓詞

海軍大臣奉答文

臣 岩 生
臣 貞 夫

勅諭拜受ノ五十周年ニ値リ優渥ノ聖旨ヲ賜ハリ恐懼措ク所ヲ知ラス臣等殊邁ニ感激シ信倚愈重キヲ念ヒ心力ヲ竭シテ忠節ヲ勵ミ股肱ノ本分ヲ全クセムコト期ス

昭和七年一月四日

海軍大臣 大角岩生

陸軍大臣奉答文

陸下登福ノ初特ニ聖勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒ先朝ノ訓諭ニ遵由シ字内ノ大勢ト時世ノ推移トニ鑒ミ操守ヲ固クシ至誠ヲ擢フヘキヲ調ヘ給フ臣等感激ノ至ニ勝ヘス奉奉腹胸シテ夙夜懈ラス唯及ハサランコトヲ恐ル謹テ按スルニ明治十五年一月四日勅諭ヲ陸海軍人ニ下シテ五條ノ大綱ヲ示シ給ヒシヨリ慈育愛撫ノ恩光ニ浴スルコト愛ニ五十年臣等乏シキヲ股肱ノ重任ニ承ケ深ク聖旨ヲ肝銘スル者此ノ記念日ヲ迎ヘテ區々ノ微忱自ラ止ムヘカラス益志氣ヲ振作シ報效ニ精進シ先士ノ志ヲ繼キテ後人ニ矜式スル所ヲ知ラシメ終始一貫上下力ヲ協セテ以テ

勅諭拜受ノ五十周年ニ値リ優渥ノ聖旨ヲ賜ハリ恐懼措ク所ヲ知ラス臣等殊邁ニ感激シ信倚愈重キヲ念ヒ心力ヲ竭シテ忠節ヲ勵ミ股肱ノ本分ヲ全クセムコト期ス

昭和七年一月四日

陸軍大臣 荒木貞夫

海軍大臣 臣 大角岩生
陸軍大臣 臣 荒木貞夫

千載に輝く

近衛歩兵第一聯隊軍旗親授式の御模様

近衛歩兵第一聯隊創設

明治七年一月二十日、近衛歩兵第一大隊、第二大隊を以て近衛歩兵第一聯隊を編成せられ、陸軍中佐野崎貞澄聯隊長に補せらる。〔註〕野崎中佐は戊辰西南兩役に武勳を顯し中將に累進、明治二十年男爵を授けらる。當主男爵野崎貞義閣下はその嫡孫也。〕

軍旗親授

明治七年一月二十三日、明治天皇日比谷練兵場に行幸あらせられ、近衛歩兵聯隊の爲めに親しく軍旗を授與せらる。この日午前十一時、天皇 宮城を御出門ありて日比谷練兵場に臨御あらせらる。是に先だちて、聯隊長野崎中佐は、第一、第二大隊を率ゐて式場に至り、玉座をさること三十歩の地に整列す。やがて天皇は御正装にて、帷舎より壇上の玉座に出御あれば、各親王、宮内卿、侍從長及び陸軍卿等扈從して、玉座の左右に侍立し、式部長官軍旗を執つて傍に立つ、乃ち聯隊長は故參の大中尉各一名及び旗手上田少尉（護衛下士四名附す）を率ゐて玉座の前前十歩の地に進み、聯隊長のみは式部官に導かれて、猶も玉座近く進めば、この時親王以下壇を下つて前面左右に並列す。次で天皇壇を下り給ひて、

勅語

近衛歩兵第一聯隊編成ルヲ告ク 仍テ今軍旗一旒ヲ授ク
汝軍人等協力同心シテ益々威武ヲ宣揚シ以テ國家ヲ保護セヨ

との優渥なる勅語を賜ひ、式部長官の捧る所の軍旗を執つて授け給ふ。

聯隊長はこれを拜授して、誠恐誠惶謹んで奉答して曰く、

敬テ明勅ヲ奉ス 臣等 死力ヲ竭シ誓テ國家ヲ保護セン

聯隊長御前を退きて、軍旗を旗手に授け、大尉以下廻れ右して其の隊に面す

天皇此の時既に玉座に復し給ふ。

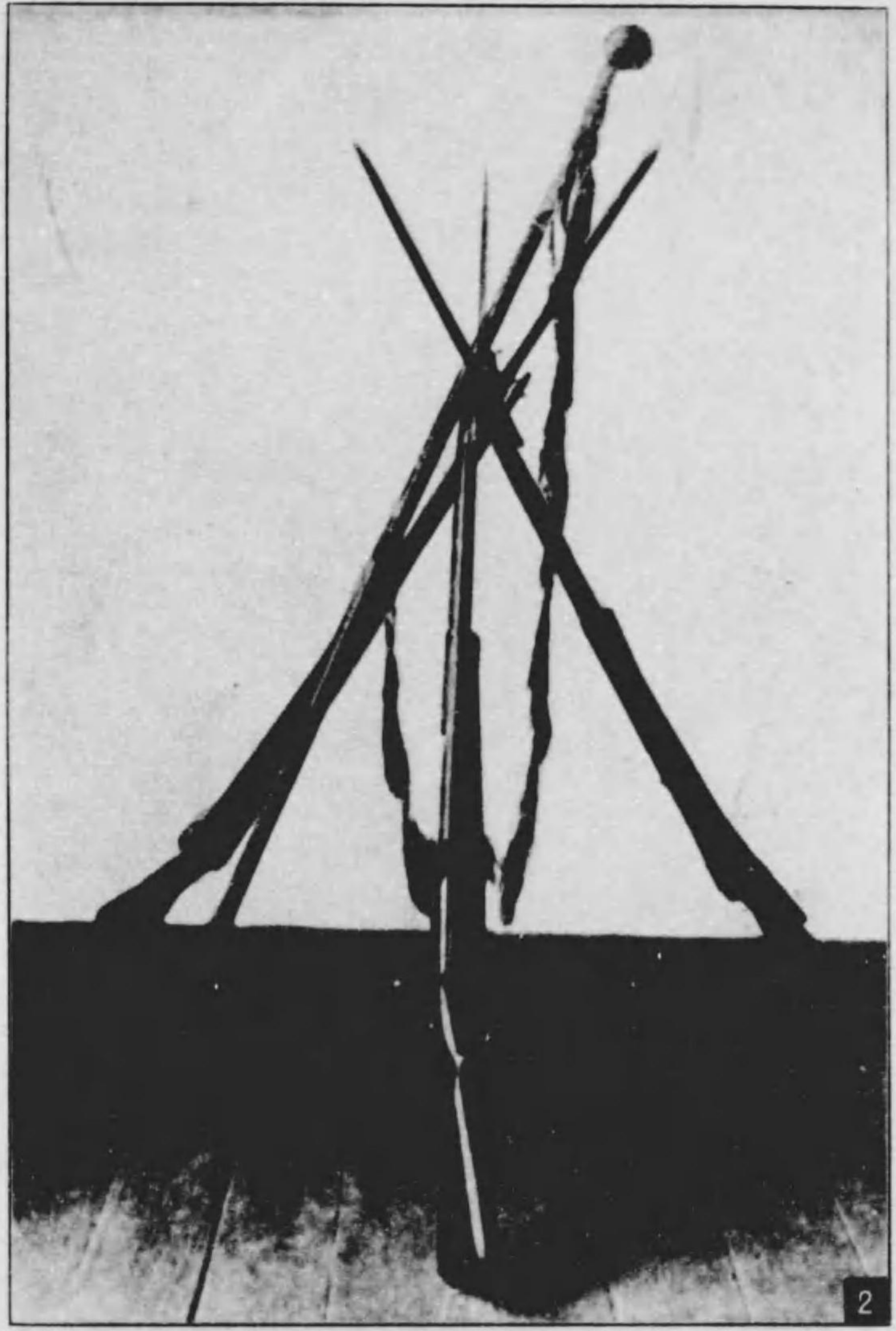
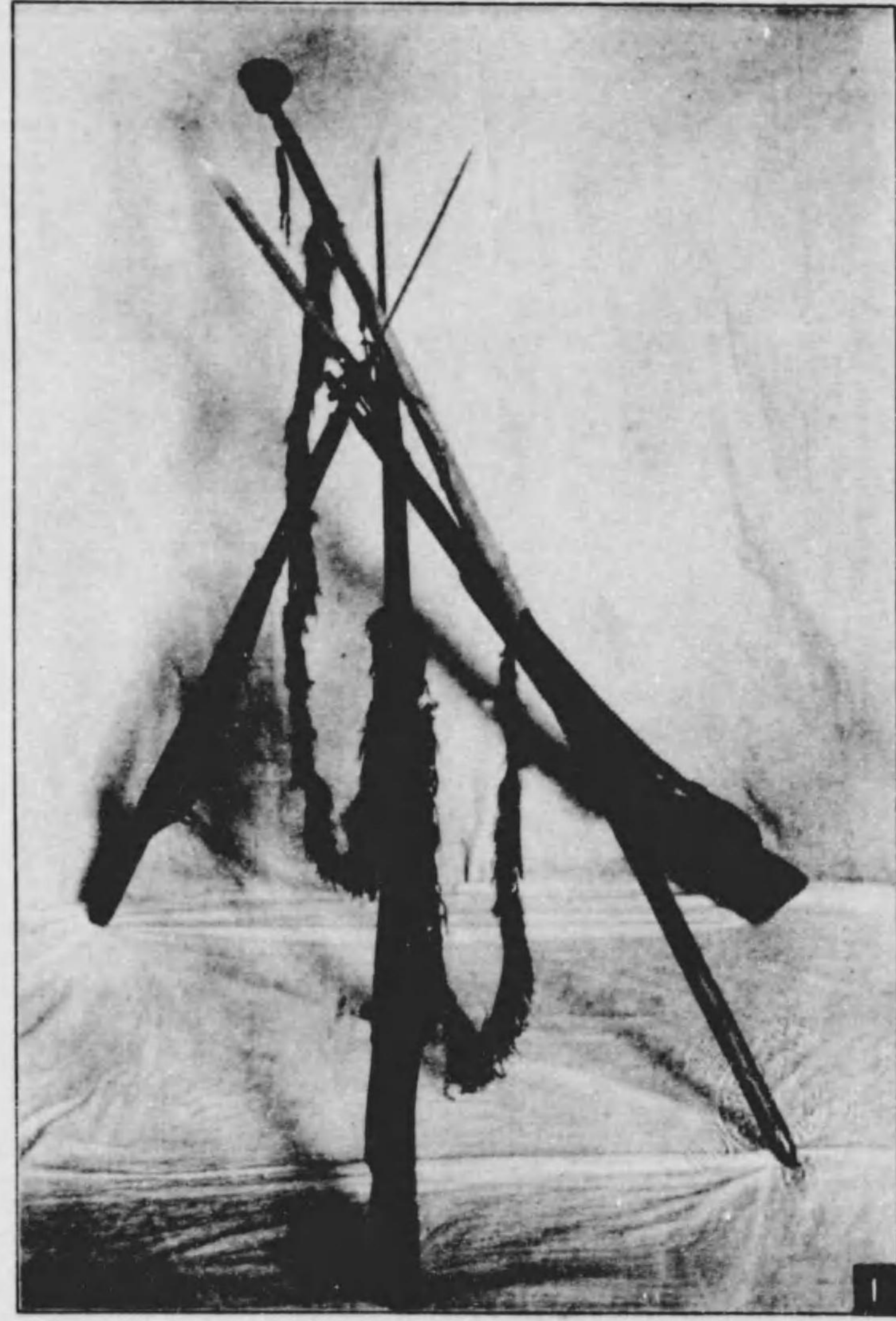
聯隊長は馬に乗り抜劍して、捧統を令すれば、喇叭は劉吡として「足曳の曲」を吹奏す。

「あしびきの山邊どよもす砲の火の 煙の中に著るく きはへる旗はかこしや 我大君の御手づから 授け給へる御軍の 印の旗ぞ我が輩の 軍の神ぞ我輩の 軍の神と仰ぎつゝ、進めや進め 丈夫の輩」

終つて聯隊長以下隊列に復し、この時乗馬し給へる 明治天皇陛下に對し奉り分列式を施行す



式終つて 陛下には龍顏殊の外麗しく宮城に還幸あらせられたのである。
本書巻頭龍藏奈良侍従武官長謹書による御製を拜しても、實に軍旗は國體精神の根源にして、
これを拜すること、大元帥陛下の御尊影を拜し奉ると同じく、其のさしまねく所は、水火と雖
も辭せず、死生を顧るの逸もなく、勇往邁進すること、恰も、陛下の御馬前に各自の貴重なる
任務を盡すと毫も異らぬのである。



(1) 近衛歩兵第一聯隊軍旗略歴

(所在地) 東京市麹町區代官町
(所属) 東京近衛師團

一、軍旗親授 明治七年一月二十三日
 一、移 轉 明治七年二月十日竹橋に新築成り移轉す。
 一、西南役参加 明治十年二月十九日鹿兒島賊徒征討仰出され、聯隊は征討第二旅團に編入す。同年の二月二十一日神戸出帆、二十三日博多着、二月二十六日高瀬及山鹿口に戦ふ、三月四日吉次越に奮戦同三十日植木及田原坂を陥落す。四月十五日熊本に入り、八月二十七日細島を獲し、海路鹿兒島灣に至り二十八日重富に上陸す。九月二十四日城山總攻撃に偉功を奏す。十月十六日東京に凱旋す。皇太子殿下隊下に補せらる(大正天皇) 明治二十二年十一月三日陸軍歩兵少尉皇太子嘉仁親王殿下當隊付に補せらる。皇太子殿下隊下に補せらる(今上陛下) 陸軍歩兵少尉皇太子裕仁親王殿下當隊付に補せられ給ふ。
 明治二十七年八月一日清國に對し宣戰布告、九月二十五日勅令下る。翌二十八年三月二十三日東京出發廣島集會、四月九日宇品出帆十三日大連灣到着、四月二十一日柳橋屯上陸す。
 五月十八日臺灣守備のため出發、五月二十七日渡底六月七日臺北城に入る、各處轉戦の後八月二十八日八卦山砲臺攻略十月二十二日臺南城に入る十一月十一日凱旋の途につき十八日歸營す。
 十八日八卦山砲臺攻略十月二十二日臺南城に入る十一月十一日凱旋の途につき十八日歸營す。鐵嶺出發十二月二日凱旋す。

一、皇太子殿下御轉出(大正天皇) 明治三十二年八月三十日陸軍歩兵少佐皇太子嘉仁親王殿下近衛師團司令部附として轉出せらる。

一、日露戰役参加 明治三十七年二月五日勅令下る、同十日露國に對し宣戰布告、同十七日東京出發同十九日廣島集會、三月十四日鎮南浦上陸、同二十八日定州を攻略す、五月一日九連城攻撃に参加す、同十一日鳳凰城占領す、六月八日岫巖攻略、同二十七日分水嶺占領す、八月一日様子嶺を奪ひ、八月二十六日九連陽陽戰に参加、同十五日鐵嶺を占領附近に滞在す。十月十六日平和克復、十一月二十二日鐵嶺出發十二月二日凱旋す。

(陸軍省藏書披露)

(2) 近衛歩兵第二聯隊軍旗略歴

(所在地) 東京市麹町區代官町
(所属) 東京近衛師團

一、軍旗親授 明治七年一月二十三日
 一、移 轉 明治七年二月十日竹橋に新築兵營成り移轉す。
 一、佐賀暴徒討伐 明治七年三月一日勅令を拜して屯營出發途中鎮定、三月十日歸營す。
 一、西南役参加 明治十年二月十九日鹿兒島賊徒征討令下り翌二十日聯隊本部及第一大隊は東京出發神戸を経て戦地に向ふ。同二月二十一日第二大隊は東京出發京都に至り行在所警護す。三月十日第二大隊京都出發戦地に向ひ、爾後聯隊は山鹿口及田原坂に激戦を交ふ、四月十五日熊本城に入り、九月二十四日城山總攻撃参加、十月十七日東京に凱旋す。
 一、日清戰役参加 明治二十七年八月一日清國に對し宣戰布告、九月二十五日勅令下る。翌二十八年三月二十四日出征の目的にて東京出發、四月十二日大連灣到着二十一日上陸待命。
 一、臺灣守備 五月十八日臺灣守備の命を受けて出發、五月二十七日渡底上陸、六月十一日臺北城に入る、爾後各地に轉戦、匪賊徒討伐任務遂行にす。十一月十三日凱旋の途につき二十二日東京歸還。
 一、日露戰役参加 明治三十七年二月五日勅令下る、二月十日宣戰布告、同月二十日東京出發、廣島に集會す。三月十七日鎮南浦上陸、五月一日岫巖江を渡りて九連城攻撃に参加、六月八日岫巖攻略、六月二十七日分水嶺占領、八月一日激戦二日子嶺を奪取す、八月二十六日九連陽陽戰参加、九月五日遼陽會戰参加十月七日沙河會戰参加、翌年二月二十四日三月十二日奉天大會戰参加、三月十六日鐵嶺に入る、十月十六日平和克復、十一月二十二日鐵嶺出發十二月四日凱旋す。

(陸軍省藏書披露)



(3) 近衛歩兵第三聯隊軍旅略歴

(所成地 東京市赤坂區一ツ木町
所屬 東京近衛師團)

- 一、軍旗親授 明治十八年十月二十七日。
- 一、移 轉 明治二十六年五月二十日霞ヶ關より赤坂區一ツ木町新築營舎へ移轉す。
- 一、日清戦役参加 明治二十七年九月二十五日動員令下る、翌年の三月二十四日東京出發征途に上る。四月十三日大連灣上陸
- 一、臺灣守備 七月三日臺灣守備として基隆上陸、七月十四日龍潭坡の匪徒を撃攘す、七月二十六日潭子乾占領、八月二十八日八卦山占領、九月二十一日臺南府に入る、十月二十七日東京に凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年二月五日動員令下る、同年二月二十一日屯營出發征途に上る、三月十七日鎮南浦に上陸、五月一日鴨綠江援河、九連城北方高地占領、八月一日様子嶺占領、九月一日徐家溝占領、翌三十八年二月二十五日奉天攻撃の運動を起す、三月八日唐家屯占領、三月十日瀋陽附近の追撃戦にて軍旗を高擡し滿洲軍司令官より感状を受く、十月十六日平和克復、十二月八日東京に凱旋す。
- 一、震災警備 大正十二年九月二日戒嚴令下り、同九月四日聯隊本部は小石川徳川公邸に出勤市内西北部警備に服務、同年の十一月十五日服務終了。

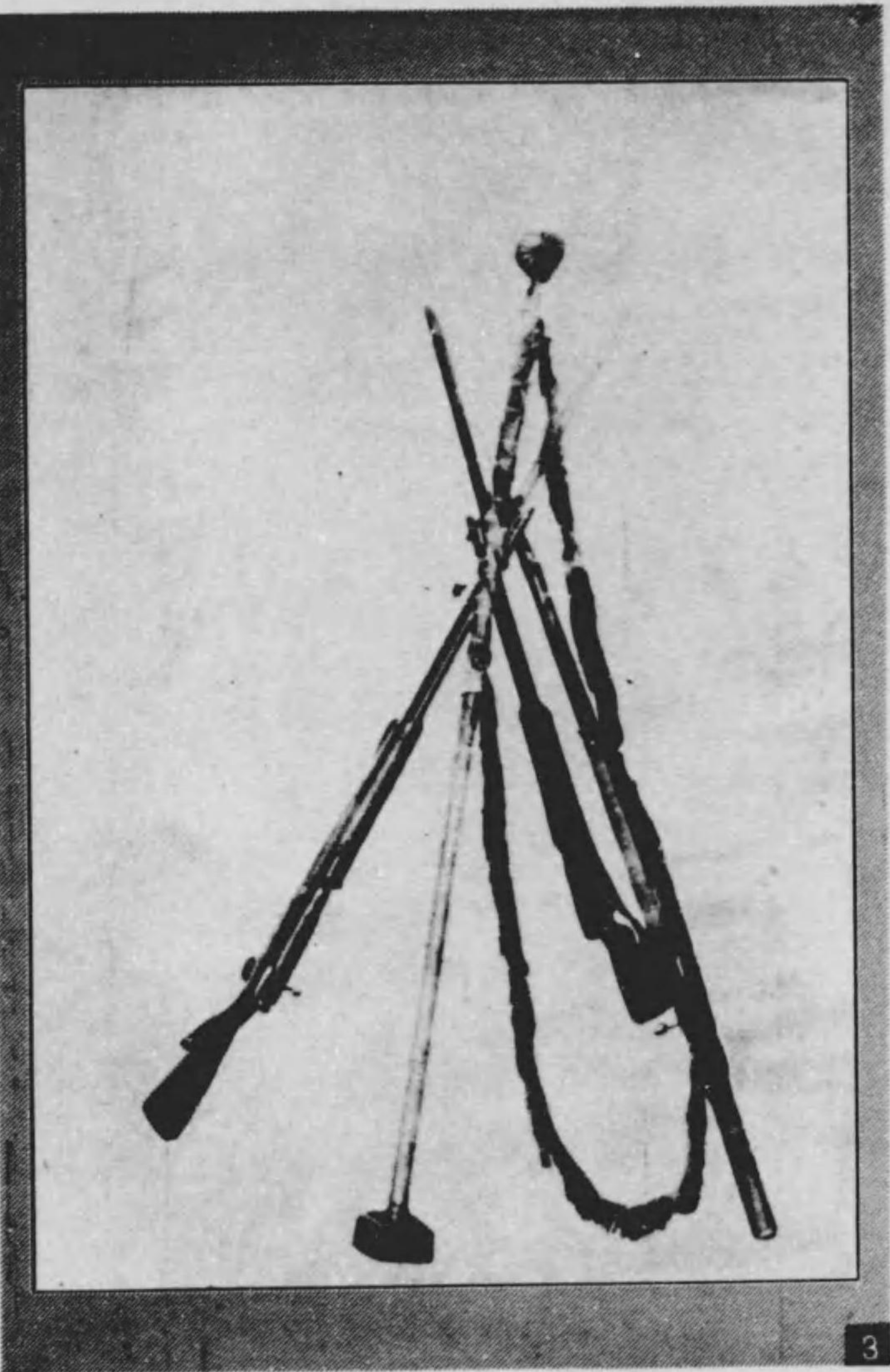
(陸軍省蔵書抜萃)

(4) 近衛歩兵第四聯隊軍旅略歴

(所成地 東京市赤坂區青山北町
所屬 東京近衛師團)

- 一、軍旗親授 明治二十年五月二十四日。
- 一、移 轉 明治二十四年五月三十一日四谷區霞ヶ丘町へ轉營。
- 一、日清戦役参加 明治二十七年九月二十五日動員令下る、翌二十八年三月二十五日青山軍用停車場發出征す、四月九日廣島出帆同十三日大連灣到着、四月二十一日柳樹屯上陸、爾後同地附近に宿營、四月二十一日平和克復。
- 一、臺灣守備 明治二十八年六月十四日旅順を發して臺灣に向ふ、同月二十一日基隆着、七月四日同地上陸海山口附近に滞在、七月十三日打類坑附近に賊を撃つ、八月二十八日八卦山砲臺を攻略彰化を占領す、十月九日嘉義城を陥る、同月二十二日臺南を占領し全島を平定、十一月二十一日東京に凱旋す。
- 一、轉 營 明治三十年三月二十三日佐倉に轉營し、明治三十二年三月三十一日再び東京に歸還青山兵營に入る。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年二月五日動員令下る、同月二十二日東京出發征途に上る、三月十五日宇品出帆、二十日鎮南浦上陸、四月二十六日鴨綠江九里島を占領す、五月一日九連城を攻略蛤蜊塘に敵を粉砕す、八月一日激戦二日様子嶺を占領す、八月二十六日より遼陽戦に参加大相屯徐家溝附近に奮闘す、九月四日遼陽城占領す、十月十一日—十六日沙河會戦に参加、翌年三十八年二月二十五日五金勾附近に激戦、三月二日より奉天會戦に参加す、三月十一日三窪附近にて敵の軍旗一旗を高擡す、十月十六日平和克復、十一月二十六日鐵嶺出發十二月十日凱旋す。

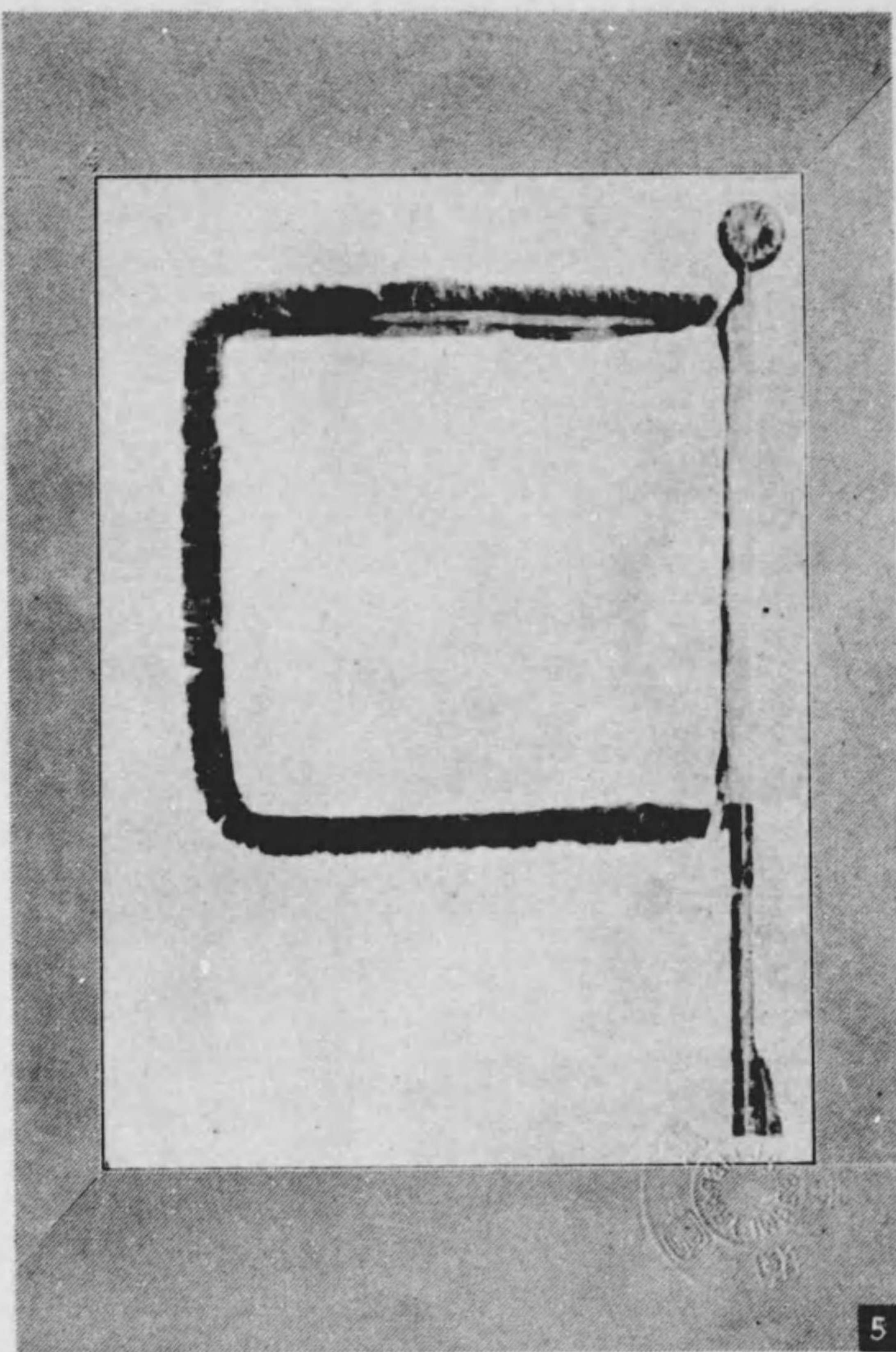
(陸軍省蔵書抜萃)



3



4



5



6

(5) 近衛騎兵聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治二十九年十一月二十日、
- 日露戦役参加 明治三十七年二月十六日出征、明治三十七年三月二十八日定州戦後鳳凰城、岫巖城、様子嶺、遼陽、沙河、奉天の諸戦闘に参加、明治三十八年十二月十一日凱旋。
- 一、戸山新兵營移轉 明治四十五年四月十二日。
- 一、大正御即位大典南緯並大禮觀兵式参列 大正四年十一月。
- 一、昭和御即位大典南緯並大禮觀兵式参列 昭和三年十一月。

(鑄成地 東京市牛島區戸塚町
所屬 東京近衛師團)

(近衛騎兵聯隊副官 片野卯之助氏報)

(6) 騎兵第十三聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治三十四年十二月十九日。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年四月九日勅旨下令、同四月二十九日戦役の爲屯營出發、該戦役間軍旗の參與したる戦闘左の如し。
- イ 明治三十七年五月三十日始めて砲を有する優勢なる敵の騎兵と曲家店附近に於て遭遇し激戦の後之を激退せり。
- ロ 同年六月十五日得利寺附近の會戦に於て第二軍の右側に行動し猛烈に敵を攻撃して敵の逆襲を挫折せしめ軍司令官より賞状を授與せらる。
- ハ 同年六月二十一日熊岳城を占領し爾後蓋平、大石橋、鞍山站、首山堡及遼陽の諸戦闘に参加す。
- ニ 遼陽戦闘後太子河を浮泳渡河して西北方に前進し沈且堡に在りて敵情を搜索し續て沙河會戦に参加し軍の左側を掩護し再び沈且堡に至りて沙河對陣となり常に優勢なる敵と相對して越年す。
- ホ 明治三十八年一月二十五日より同年同月三十日に亘る黑溝臺會戦中は沈且堡を死守して屢々優勢なる敵武兵の攻撃を受けしも常に之を擊退せり當時敵の重砲彈の爲同地は彈巢と化するの慘狀を呈し惡戦苦闘具に辛酸を嘗め新に編成せられたる立見軍の行動を容易ならしめ我が滿洲軍をして危機より脱するを得しめたる此の記念すべき會戦を終りし後滿洲軍司令官より感状を授與せらる。
- ヘ 同年二月二十七日以來奉天會戦の爲行動を開始し三月三日大房身附近に至るや當時新民屯地方向よりする優勢なる諸兵連合の敵と遭遇し激戦數時の後逆襲して是を北方に擊退して北進を繼續し遂に遠く軍の正面を離れて敵中に入り雲霧樹に停止して敵情を搜索す。
- ト 同年六月十六日第七師團と共に遼陽高棚に至る「ミシチエンコ」騎兵團を攻撃して該地を占領す。

(鑄成地 千葉縣千葉郡津田町
所屬 東京近衛師團)

一、其 他 特別大演習に参加すること前後六回、特別騎兵演習に六回参加し今日に及へり。以上
(騎兵第十三聯隊副官八谷剛一氏報)

(7) 騎兵第十四聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治三十四年十二月十九日。

(所成地 千葉県千葉郡津田沼
所屬 東京近衛師團)

(陸軍省文書課蔵書寫)

(8) 歩兵第一聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治七年十二月十九日。

(所成地 東京市赤坂區松町
所屬 東京第一師團)

一、西南役參加 明治十年二月十九日西南賊徒征討を命ぜられ征進に上る、同二十五日第三大隊高瀬口に戦ひ二十七日高瀬を攻略す、三月三日高瀬第二第三大隊田原山麓に奮闘し二十日之を破り植木に戦ふ。同月十五日熊本城連絡成り同二十一日大津を、六月一日人吉を、八月七日延岡を攻略、十七日可愛嶽に奮闘す、九月二十四日賊徒城山に滅ぶ、十月二十八日凱旋歸京す。

一、警備

明治十一年八月二十四日竹橋事件にて宮城附近を警備す。明治十七年四月四日第一大隊第一中隊韓國日本公使館警備のため京城に派遣十一月三十一日歸還す。

一、日清戦役參加

明治二十七年八月三十日日清役動員下令、九月二十四日出發、十月二十四日花園河口に上陸す、十一月五日金州城攻撃に參加同月二十一日旅順攻撃に參加、翌二十八年一月十日蓋平城を占領す、二月二十四日太平山の敵を破り三月六日營口を占領す、平和克復五月二十六日より六月九日に互りて東京に凱旋す。

一、朝鮮守備

明治二十九年五月五日第一大隊は朝鮮守備のため出發、三十年五月二十日歸營す。

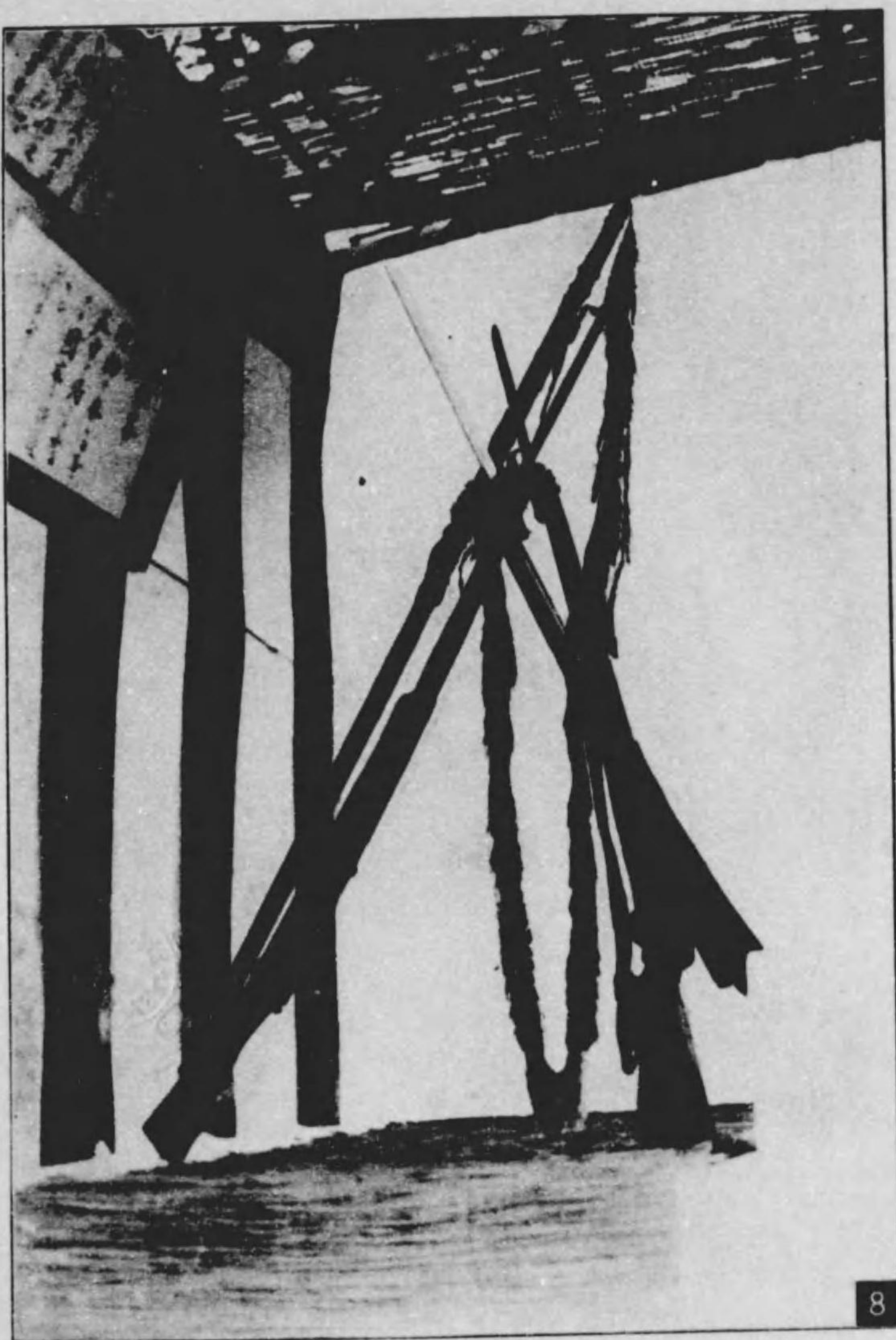
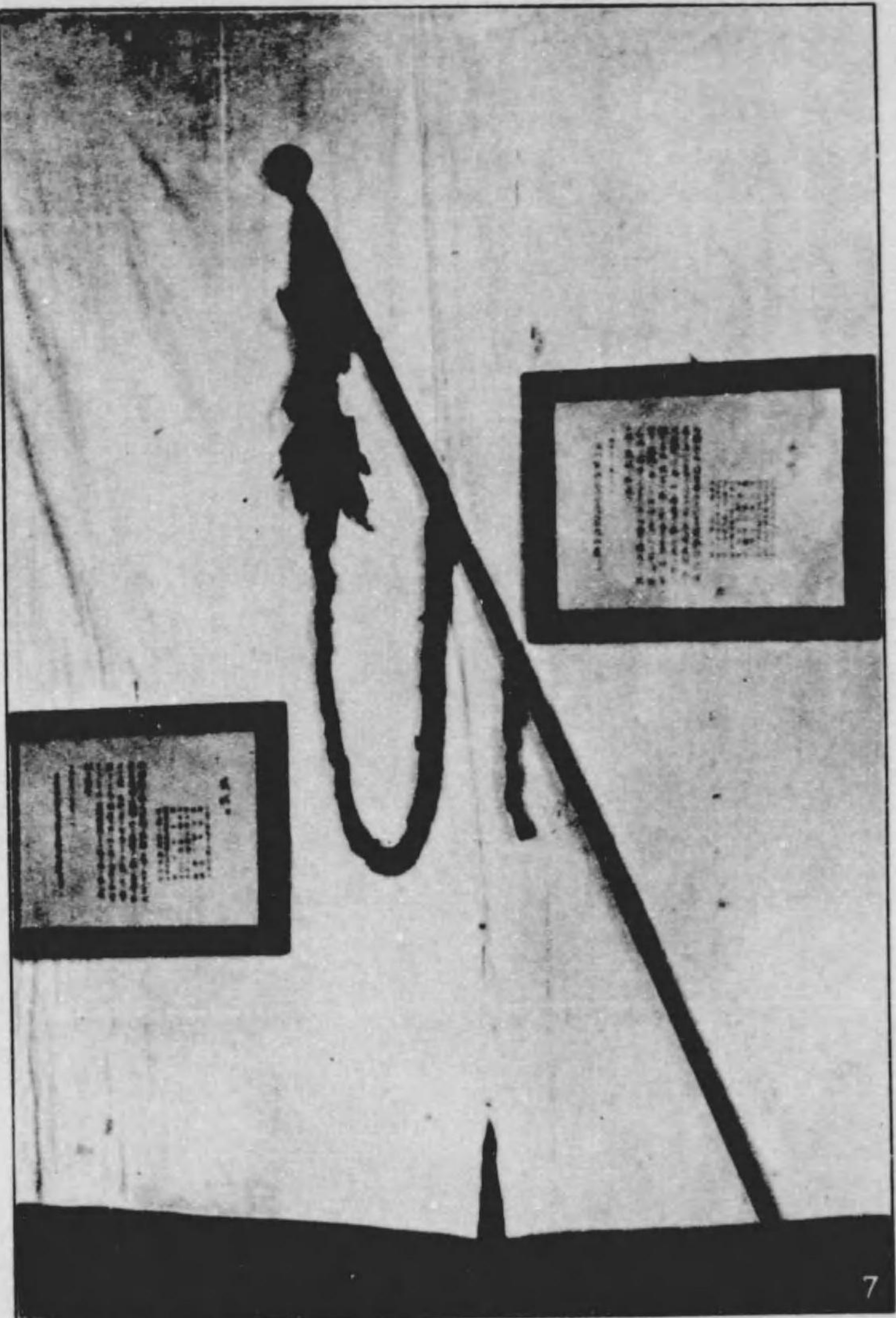
一、日露戦役參加

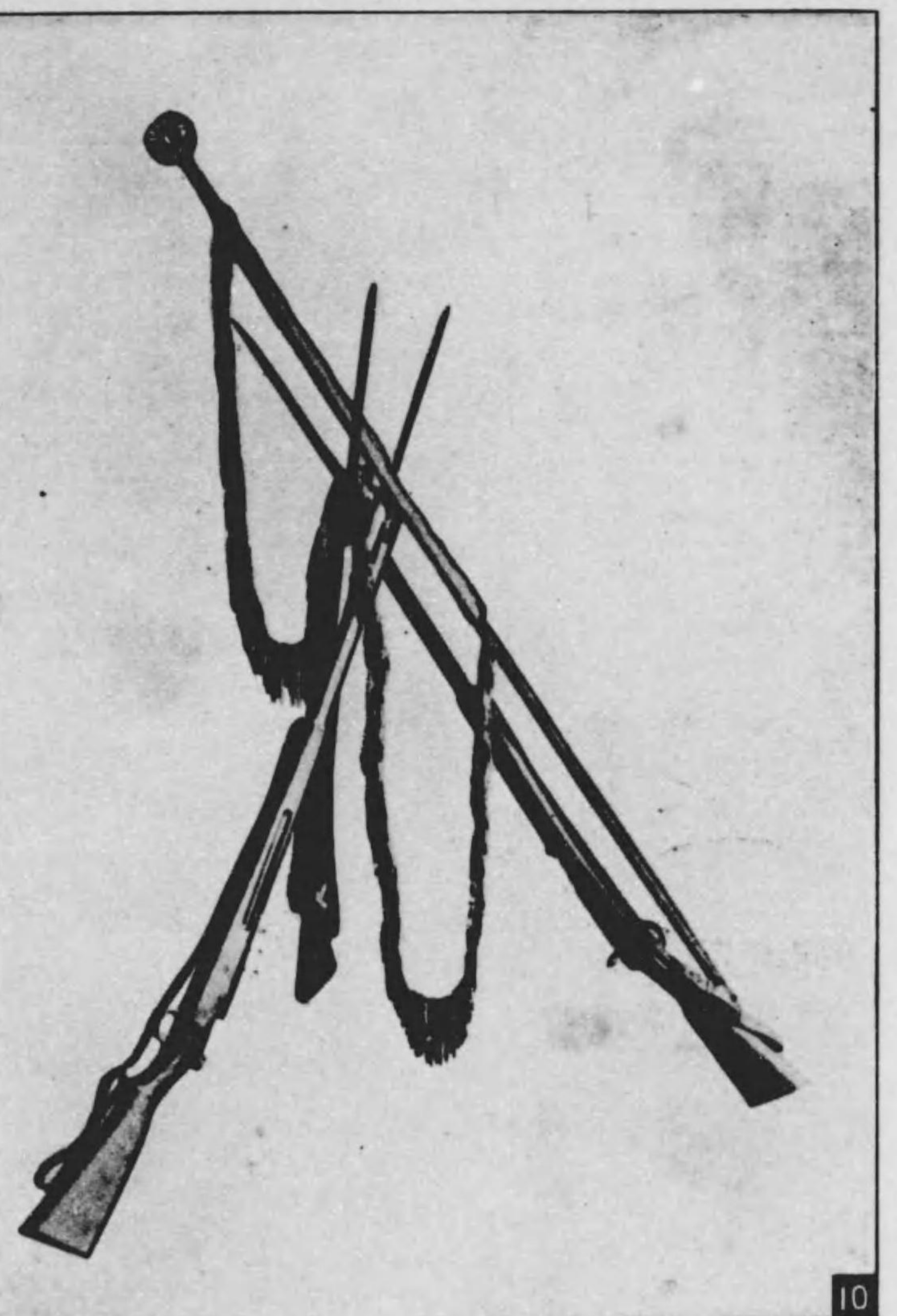
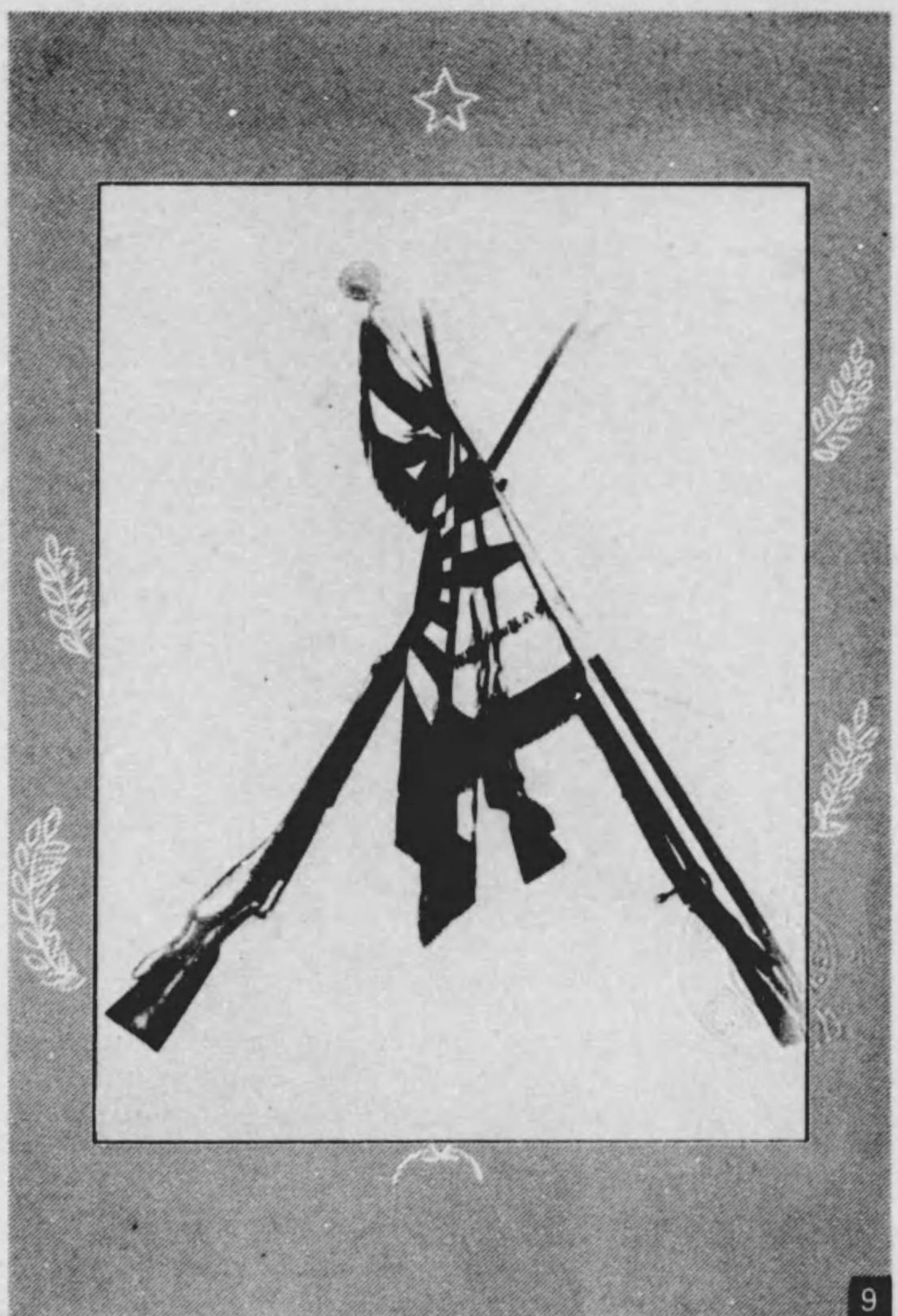
明治三十七年三月六日動員下令、同月十九日東京出發征進に上る、五月七日孫家咀子に上陸、五月二十五日金州城夜襲、二十六日南山攻略す、七月三十日泥河子高地占領、八月十三日子大山口奮闘、八月二十二日鉢巻山奪取、九月十九日海泉山奪取し以後惡戦苦闘事日なし、十一月二十七日二十八日爾蓋山及び赤坂山に奮闘し聯隊殆んど全滅す。翌年三十八年一月一日旅順開城、一月二十日奉天方面へ北進す、二月二十七日——三月十日まで奉天會戦に參加す、四月九日——二十四日まで昌圖に敵を撃退す、九月十六日休戦條約成り、十月十六日平和克復、翌年三十九年一月十七日鐵嶺出發一月三十一日東京に凱旋す。

一、洪水救護

明治四十三年八月十五日——二十日まで東京市内洪水のため救護隊を派遣す。

(陸軍省蔵書拔萃)





(9) 歩兵第四十九聯隊軍旗略歴

一、軍旗 親 授 明治三十八年四月十五日。

(備成地 山梨縣西山梨郡相川村
所屬 東京第一師團)

(陸軍省文書課蔵書)

(10) 歩兵第三聯隊軍旗略歴

一、軍旗 親 授 明治七年十二月十九日
一、西南役参加 明治十年二月十九日西南討伐令下る、三月十八日第一第三大隊討伐の途に上り後各地に轉戦す、九月二十八日賊徒平定凱旋す。

(備成地 東京市麻布區新電土町
所屬 東京第一師團)

一、移 轉 明治二十二年一月二十三日麻布電土町の兵營に新築移轉す。
一、日清戰役参加 明治二十七年八月三十日動員下令、九月二十四日出發征途に上る、十月十八日宇品港出帆、二十六日清國花園河口に上陸す、十一月七日金州城を攻略す、十一月十八日双臺溝の激戦に参加、十一月二十一日旅順攻略戦に奮闘す、翌二十八年二月二十四日大平山攻略に参加、二月二十八日海城、三月九日田庄寨の各攻撃に参加、平和克復、五月十九日李家屯出發六月十日東京に凱旋す。

一、威海衛守備 明治二十九年五月二十三日威海衛占領軍事交代のため渡清、(第一大隊)翌三十年六月一日守備隊衛戍地より歸還す。
一、日露戰役参加 明治三十七年三月六日動員下令、四月十一日出發征途に上る、五月十一日張家屯に上陸、五月十三日十三里臺占領、五月二十六日南山を攻略、七月二十八日凹字形山を占領、八月十六日十一日までに旅順第一回總攻撃に参加、九月二十日第二回總攻撃に玉保壘を攻略す、十一月二十六日第三回總攻撃開始され、激戦數日、十二月五日三里橋北方高地を占領す、一月一日旅順開城、一月二十二日奉天方面へ北進、三月八、九日田義屯に敗敵と激戦し死傷實に九百に達す、十月十六日平和克復令到る、三十九年一月十八日宿營地發二月四日電營に凱旋す。

(陸軍省蔵書拔萃)

(11) 歩兵第五十七聯隊軍旗略歴

(鑄成地 千葉縣印旛郡佐倉町 所屬 東京第一師團)

- 一、軍旗 親授 明治三十八年八月八日。
- 二、占領地守備の爲各屯營地出發廣島に集合、明治三十八年八月二十八日。
- 三、遼陽到着第二軍の戦斗序列に入り青山堡附近に駐留、明治三十八年九月十一日。
- 四、第二軍戦斗序列を脱し韓國駐劄軍司令官の隷下に入る、明治三十八年十月十八日。
- 五、習志野假營に凱旋す、明治四十年三月二十八日。
- 六、佐倉兵營に入る、明治四十二年三月三十日。
- 七、皇太子殿下(大正天皇)行啓、明治四十四年五月二十一日。
- 八、明治天皇御大葬全員堵列、大正元年九月十三日。
- 九、昭憲皇太后御大葬代表者参列、大正三年五月二十四日。
- 十、大禮親兵式全員参列、大正四年十二月二日。
- 十一、東久通宮殿下御來營、大正五年四月二十八日。
- 十二、大震災の際救援及警戒の目的を以て東京横濱へ出動す、大正十二年九月自一日至二十五日。
- 十三、大禮親兵式全員参列、昭和三年十二月二日以上。

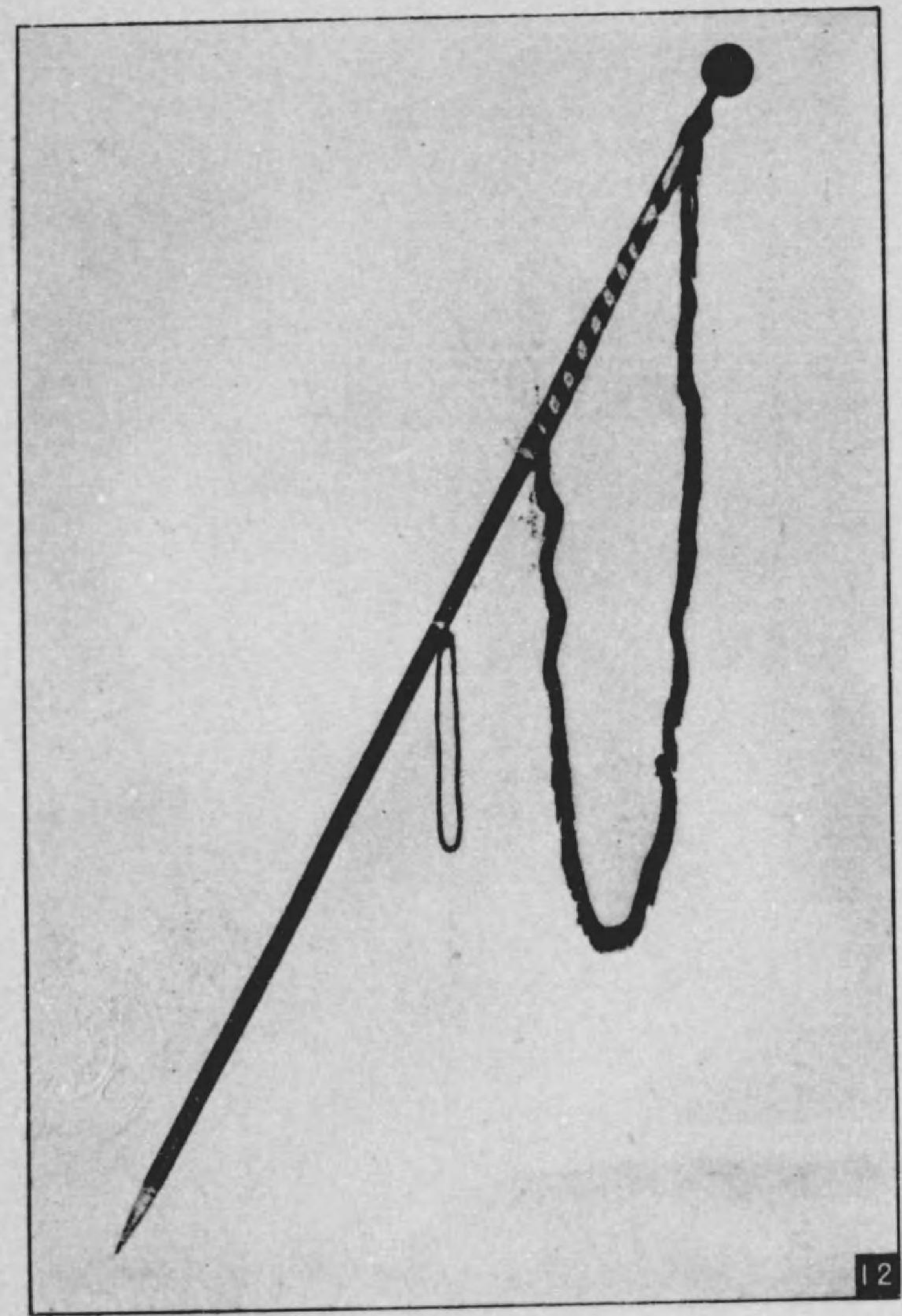
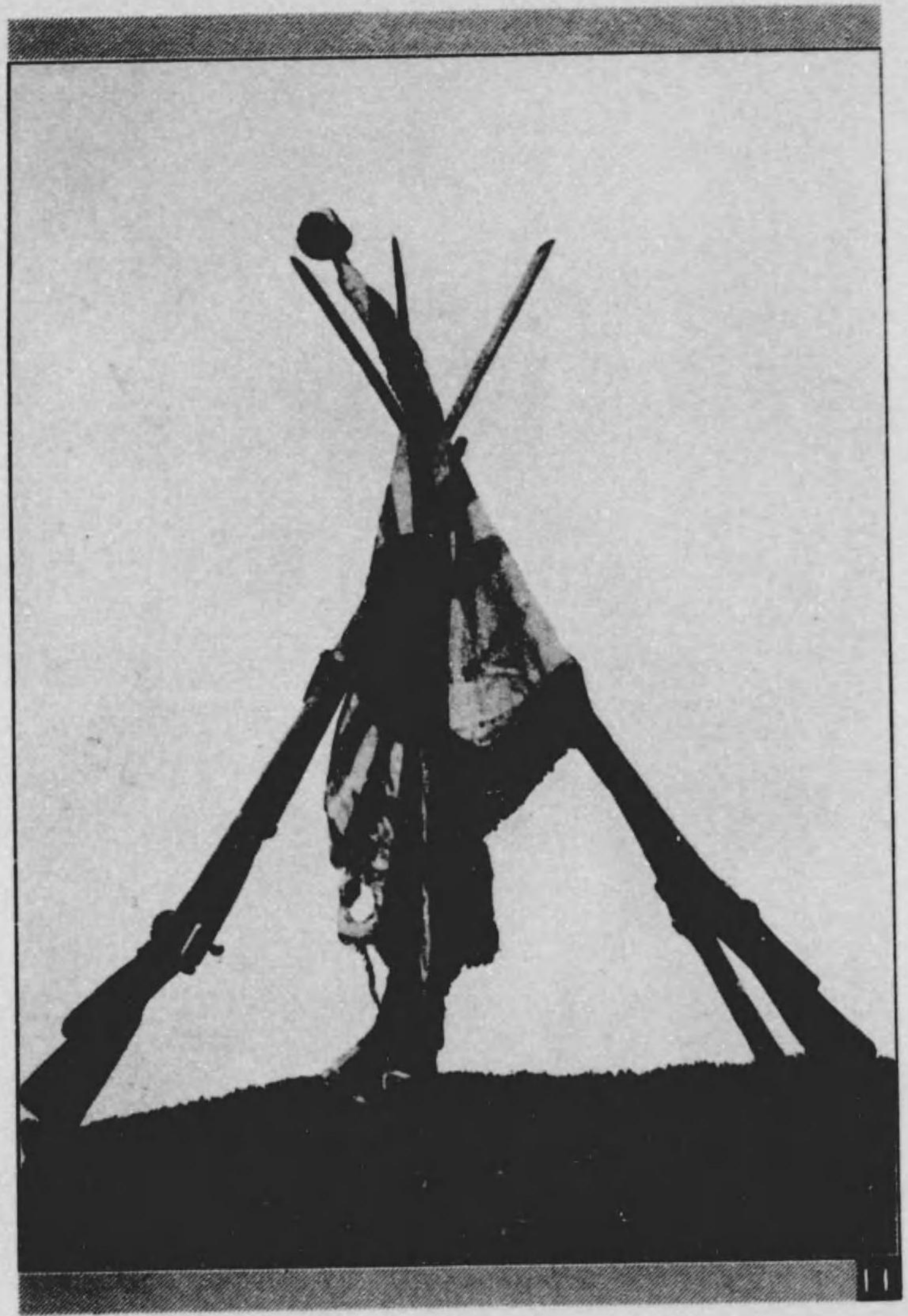
(歩兵第五十七聯隊旗手陸軍歩兵少尉 中塚清吉氏報)

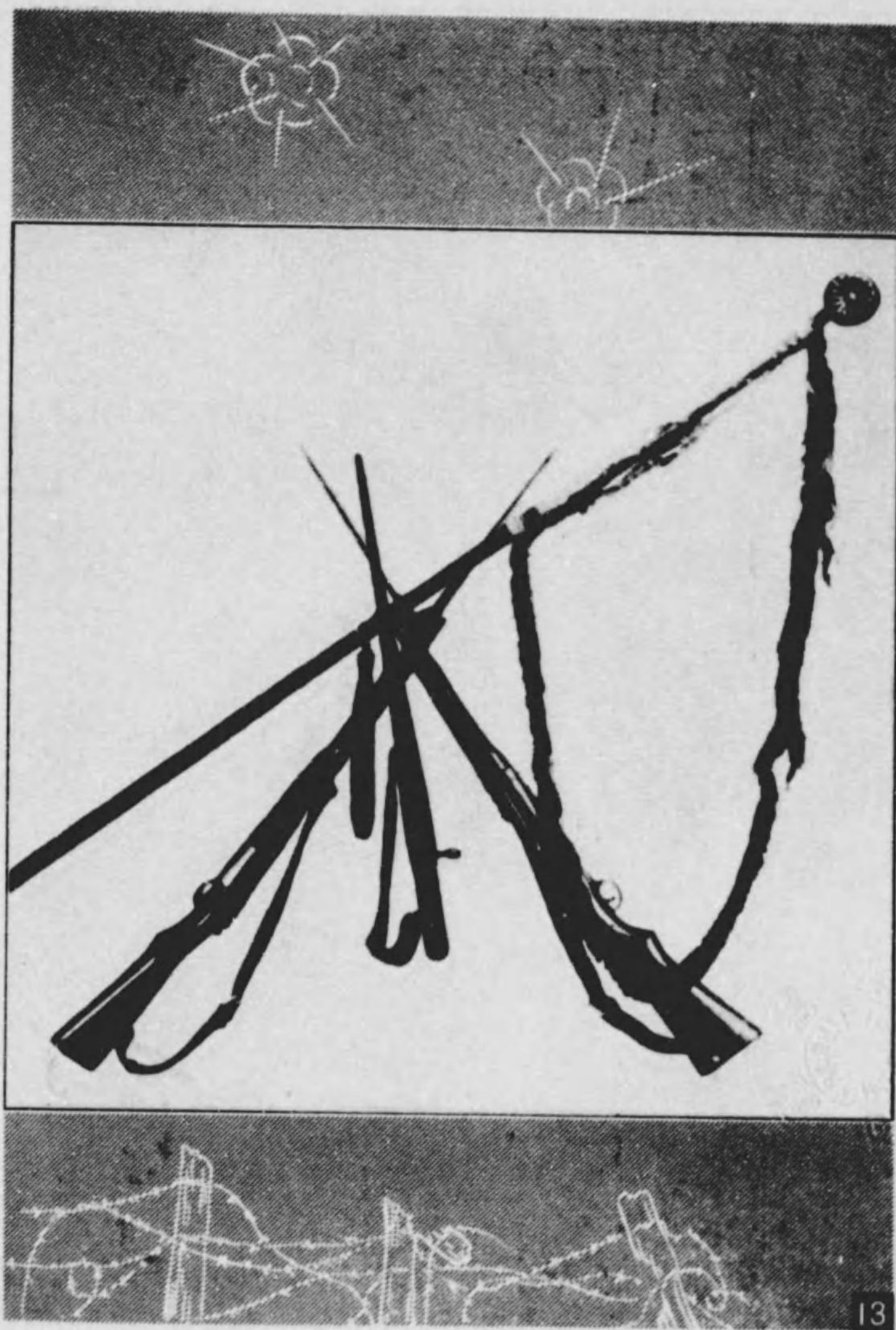
(12) 騎兵第一聯隊軍旗略歴

(鑄成地 東京府荏原郡世田谷町 所屬 東京第一師團)

- 一、軍旗 親授 明治二十九年十一月二十日。時の聯隊長閑院宮親王殿下。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年三月二十三日出征、金州、南關嶺、ダルニー、奉天、(郭三屯)戦に参加、明治三十九年一月三十一日凱旋。
- 一、特別騎兵演習参加 明治四十年九月二十五日ヨリ同年十月四日迄。
- 大正四年十月六日ヨリ同月十八日迄。
- 大正十年十月七日ヨリ同月十六日迄。
- 昭和五年十月八日ヨリ同月十五日迄。
- 明治四十年十一月四日ヨリ同月二十二日迄。
- 明治四十五年十一月十三日ヨリ同月二十日迄。
- 大正七年十一月十二日ヨリ同月二十日迄。
- 大正十年十一月十四日ヨリ同月二十日迄。
- 昭和二年十一月十三日ヨリ同月十九日迄。
- 昭和四年十一月十三日ヨリ同月十八日迄。

(騎兵第一聯隊報)

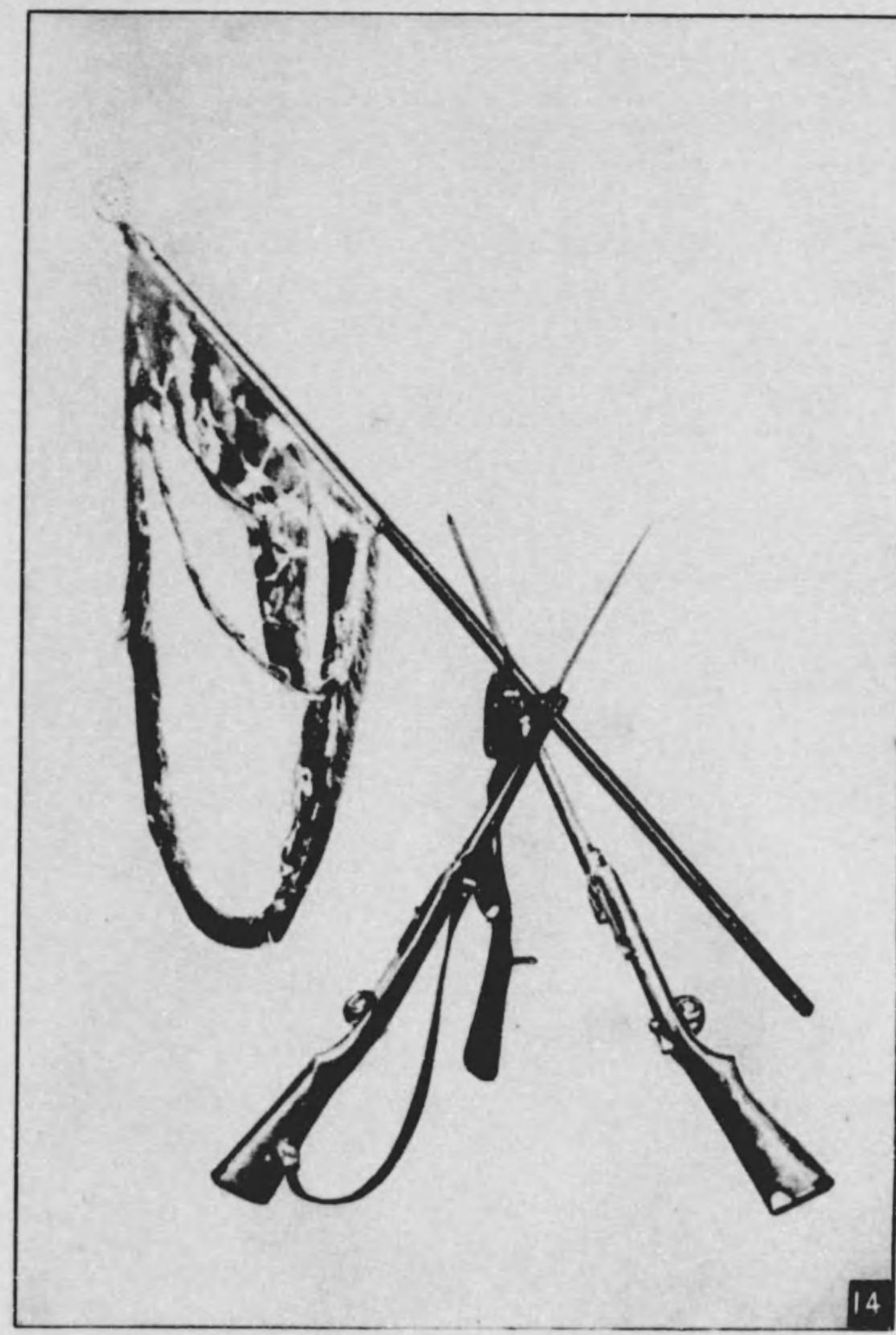




(13) 騎兵第十五聯隊軍旗略歴
一、軍旗 製 授 明治三十四年十二月十九日。

(備成地 千葉縣千葉郡津田沼
所屬 東京第一師團)

(陸軍省文書課藏書)



(14) 騎兵第十六聯隊軍旗略歴
一、軍旗 製 授 明治三十四年十二月十九日。

(備成地 千葉縣千葉郡津田沼
所屬 東京第一師團)

(陸軍省文書課藏書)

(15) 歩兵第四聯隊軍旗略歴

(所在地 仙臺第二師團)

- 一、明治八年九月九日優渥なる勅語と共に軍旗一旒を授けらる。
- 一、同十年西南戦争に於て赫々たる武功を奏す。
- 一、同二十七年日清戦争に従ひて赫々たる武功を奏す。
- 一、同三十七年日露戦争に従ひて宇内に冠たる武功を奏す。本戦争に於て二回名譽の感状を受く。
- 一、沙河會戰に於て三城子山を攻略したるに依り
 - ① 沙河會戰に於て三城子山を攻略したるに依り
 - ② 王富嶺紅土嶺を攻略したるに依り
- 一、大正十一年「サガレン」に出征赫々たる武功を奏す。
- 一、昭和六年滿洲駐劄師團に屬し支那事變に於て赫々たる武功を奏す。

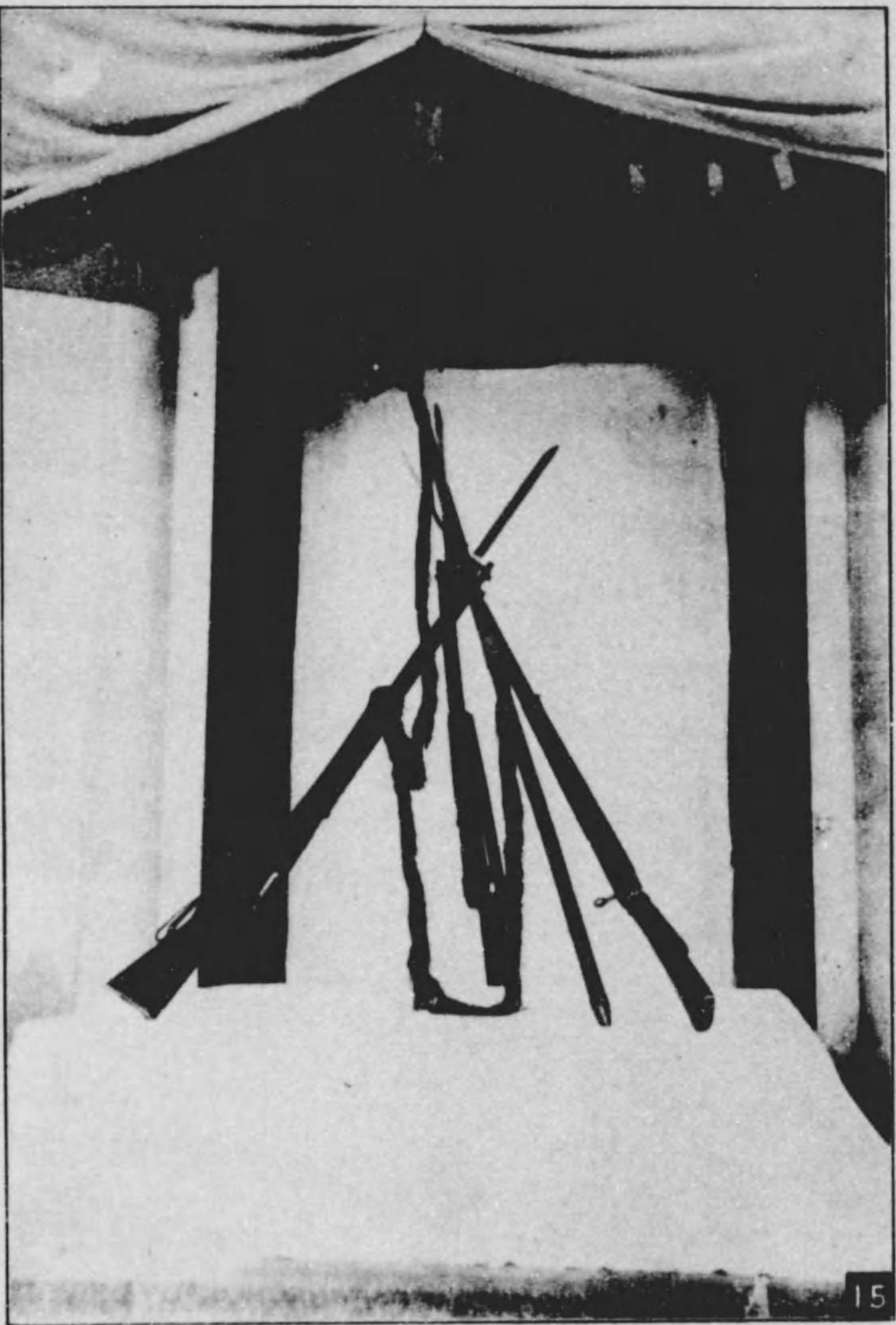
(歩兵第四聯隊駐劄副官 小原晋氏報)

(16) 兵第二十九聯隊軍旗略歴

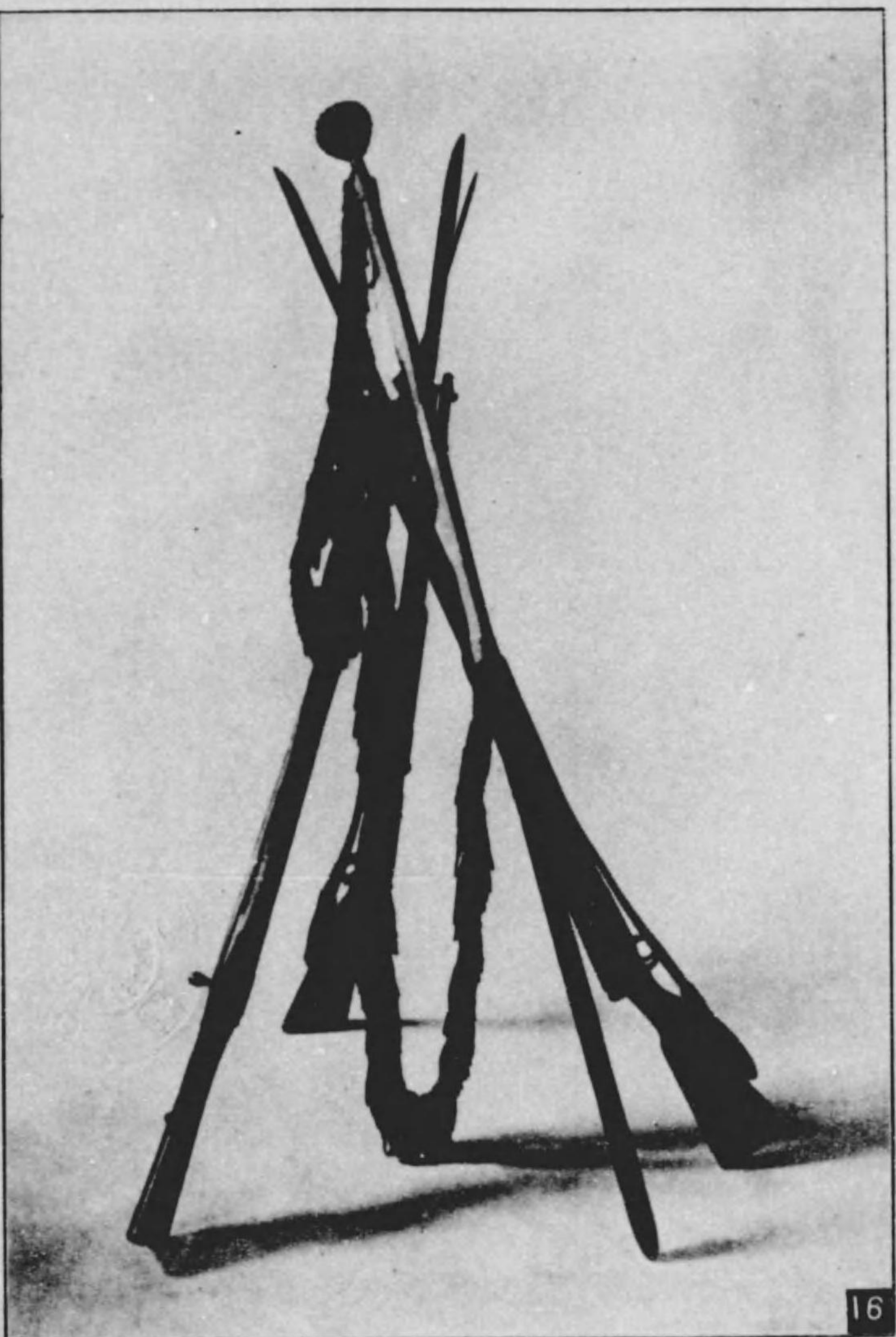
(所在地 會津若松市 仙臺第二師團)

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十五日。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年三月二日出征。韓國嶺南浦上陸、九連城、摩天嶺、遼陽、沙河、奉天の各戰團に參加。同三十九年一月一日凱旋。
- 一、韓國 守備 自明治四十三年四月八日至同四十五年五月九日。
- 一、薩哈連洲守備 自大正十年六月十九日至大正十一年七月十三日。
- 一、關東震災出動 自大正十二年九月三日至同十月六日。
- 一、若松 轉營 大正十四年五月三日。
- 一、滿洲 守備 自昭和六年四月七日至目下駐劄中。

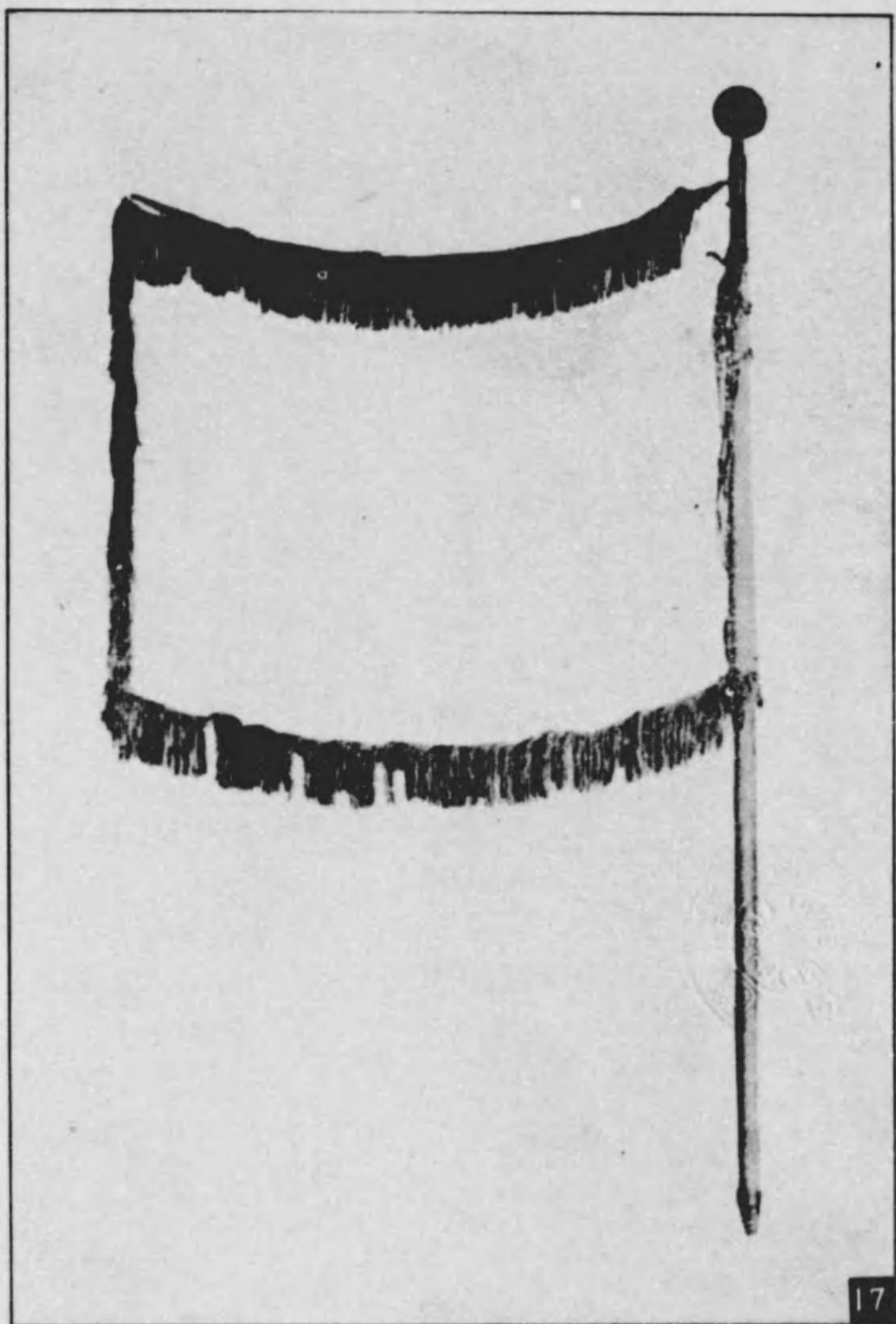
(歩兵第二十九聯隊守隊報)



15



16



(17) 歩兵第十六聯隊軍旗略歴

一、軍旗 親授 明治十七年八月二十四日。

一、日清戦役参加 明治二十七年八月一日宣戦布告、九月二十五日充員下令、十月二十六日出征、二十八年一月十日字品出帆、同月二十日榮城浦上陸、温泉湯、楊家屯、威海衛陸岸砲臺等に戦闘す、四月二十一日平和克復後九連城、岫巖、金州の守備。

一、臺灣 守備 二十九年十月一日大連灣出發臺灣に向ふ、三十年五月一日——四日新發田に凱旋。

一、日露戦役参加 明治三十七年二月五日充員下令、二月二十二日二十三日出征、三月二十一日字品出帆、同月二十六日鎮南浦上陸、九連城、石門嶺、樺子嶺、弓張嶺、黑英臺、三家子、八家子、楊城寨、三尖泡、蓮子盤、蘇牙屯、鐵嶺、開原等各地に奮戦す、三十八年十二月五日宿營地發、十二月二十二日——二十五日屯營に凱旋。

一、滿洲 駐劄 大正二年四月九日十日出發、同十六日十七日柳樹屯上陸、同四年五月二十八日屯營歸還。

一、西伯利亞出征 大正八年九月十五日臨時編成下令、十月三日——五日出發、同月十日——二十二日沿海洲島蘇里鐵道守備に就く、各地戦闘警備の上大正十年五月二十四日新發田歸營。

一、滿洲 守備 昭和六年四月滿洲守備に服務目下駐劄中。

(步兵第十六聯隊留守隊報告抜萃)

(備成地 新潟縣北蒲原郡新發田 所屬 仙臺第二師團)

(18) 歩兵第三十聯隊軍旗略歴

一、軍旗 親授 明治三十一年三月二十四日。

一、日露戦役参加 明治三十七年二月五日動員下令、二月二十四日屯營出發、三月二十一日字品出帆、同月二十六日鎮南浦上陸、翌日北進の途に就く、竜川附近開進、鴨綠江渡河、九連城入城、鳳凰城入城、連山關、摩天嶺占領、遼陽會戰参加、饒頭山奪取、沙河會戰参加、寺山激戦、楊城寨攻撃、黑溝臺、奉天會戰参加、蘇牙屯東方高地強襲、三十八年十月十六日平和克復、十二月二十七日——三十日凱旋完了。

一、滿洲 守備 大正二年四月十八日營出發、同月二十二日旅順上陸以後旅順駐劄南滿洲守備に任ず。同四年六月一日旅順出發、同月六日屯營歸着。

一、西伯利亞出征 大正八年九月十五日臨時編成下令、同月二十六日主力屯營出發、十月一日浦湖上陸派遣軍司令官の隸下に入る、同日以後北部島蘇里地方守備に任ず、爾後各地に轉戦六月十三日尼市に集結其後尼市附近の守備服務、同十年四月三日——七日尼市出發、五月十八日屯營に歸還す。

一、震災 救援 大正十二年九月三日東京附近大震災に對し出動命ぜらる、同月四日五日出發任地に赴き警備に就く、十月九日屯營歸還。

一、轉 營 大正十四年五月五日村松より高田に轉營す。

一、滿洲 守備 昭和六年四月滿洲守備に服務し目下駐劄中。

(步兵第三十聯隊留守隊報告抜萃)

(備成地 高田 所屬 仙臺第二師團)

(19) 騎兵第二聯隊軍旗略歴

(所在地 仙臺市
所属 騎兵第二師團)

- 一、軍旗親授 明治二十九年十一月二十日。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年二月五日より明治三十八年十二月二十七日に至る日露戦役に参加、義州、九連城、大孤山、岫巖、遼陽、海城、摩天嶺、様子嶺、沙河、奉天、撫順及鐵嶺の大小戦闘に参加す。
- 一、旗杆挫折 明治三十八年三月十日奉天會戦に於て撫順北方高地敵陣地偵察中砲彈を受く。
- 一、韓國守備 明治四十三年四月二十八日仙臺出發、五月三日到着、明治四十五年四月二十七日羅南出發五月三日仙臺歸着。
- 一、滿洲守備 昭和六年三月十八日滿洲駐劄のため仙臺出發、同二十九日駐劄地公主嶺に到着。

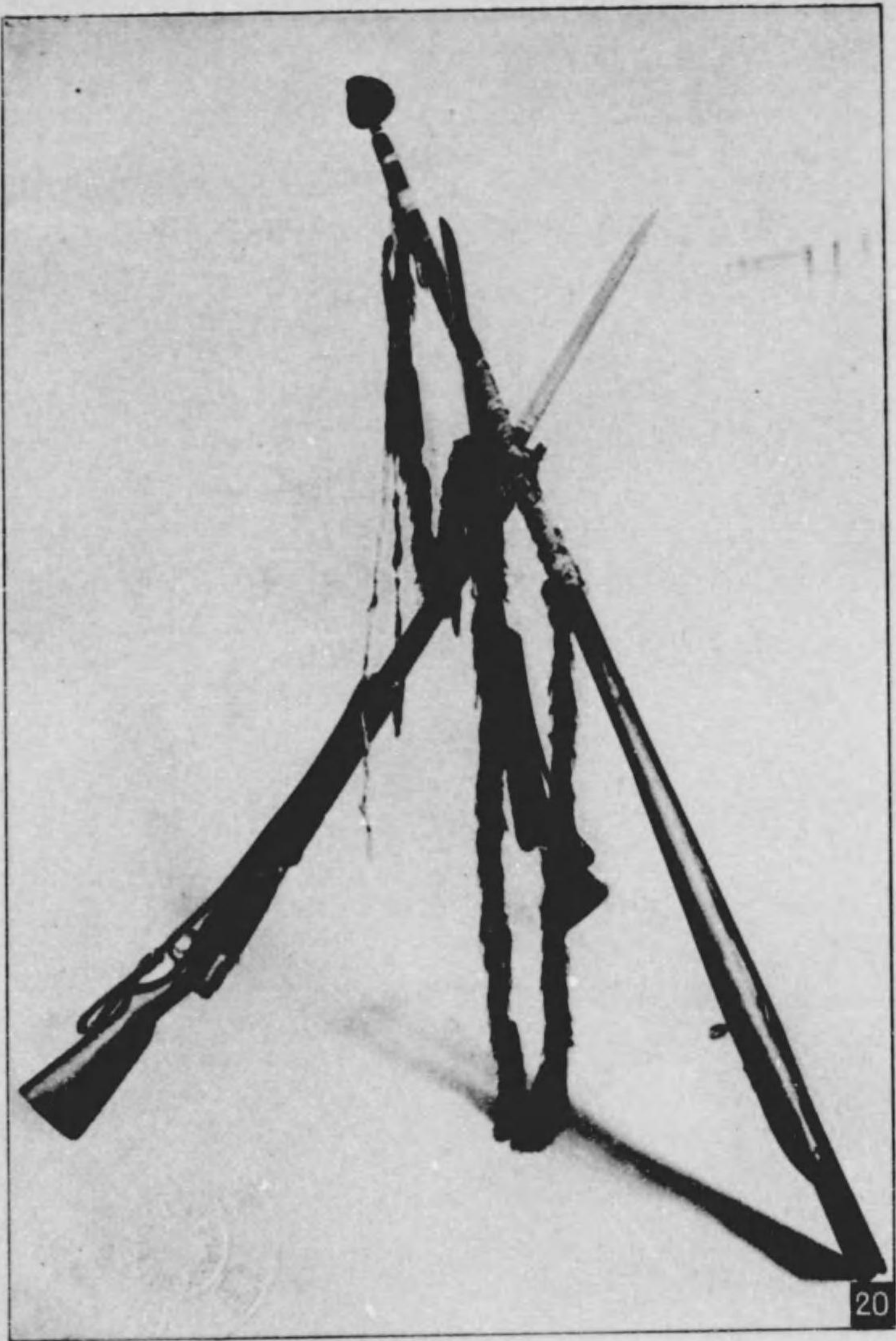
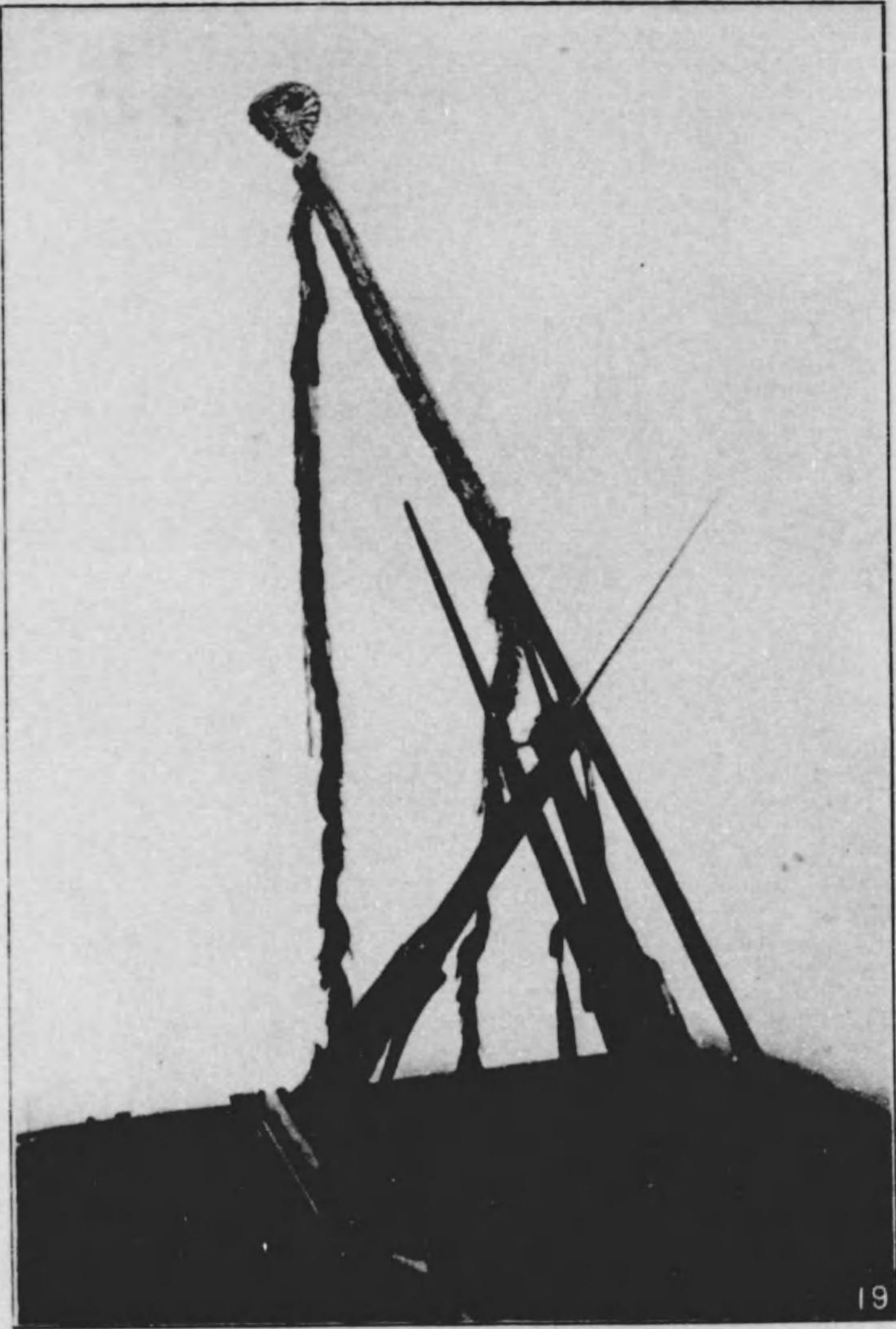
(騎兵第二聯隊報)

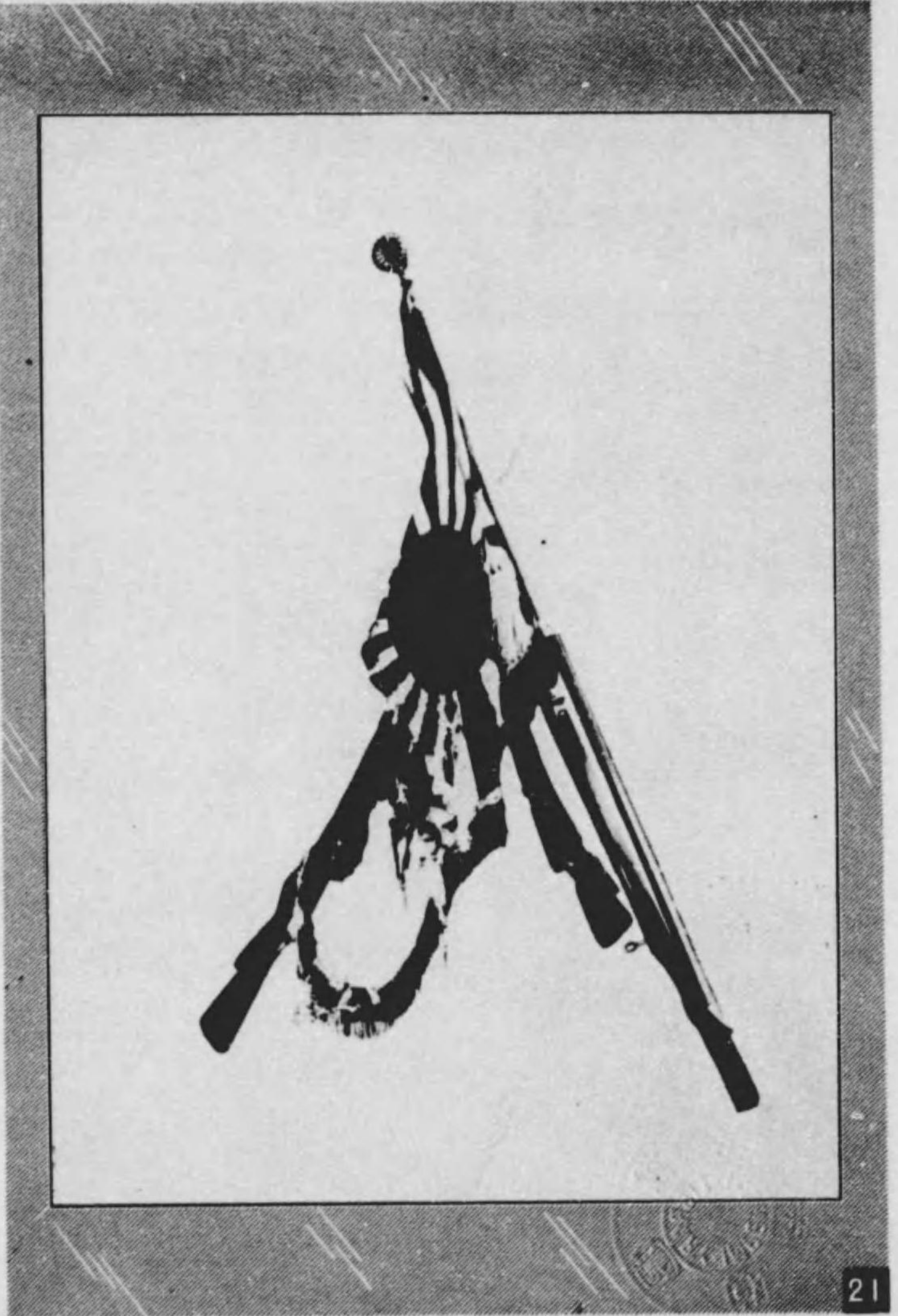
(20) 歩兵第六聯隊軍旗略歴

(所在地 名古屋市西區
所属 名古屋第三師團)

- 一、創 立 明治四年十二月九日。
- 二、軍旗拜受 明治七年十二月二十七日。
- 三、戦 歴
 - 1 西南戦役 明治十年二月十九日出征、明治十年十月一日凱旋。
 - 2 日清戦役 明治二十七年八月二十九日出征、明治二十七年九月十二日元山上陸、虎山、紅瓦寨等の激戦に参加し紅瓦寨の戦闘に殊勳を建つ、明治二十八年六月二十七日凱旋。
 - 3 日露戦役 明治三十七年四月二十一日出征、明治三十七年五月五日猴石上陸、南山、得利寺、大石橋、遼陽、沙河、奉天等の激戦に参加し殊に遼陽會戦に際しては首山堡に於て、奉天會戦に際しては干洪屯に於て殊勳を建つ。
 - 4 西伯利亞出兵 大正七年九月二日出征、後貝加爾州の守備に任ず、大正八年十月二日凱旋。
 - 5 山東出兵 昭和三年五月十三日出征、青島濟南の警備に任ず、昭和四年五月二十五日凱旋。
- 四、皇族 御 在 隊
- 1 久邇宮殿下 明治二十六年十二月一日士官候補生として御入隊、爾後大學校御入校迄聯隊附として御在隊。
- 2 梨本宮殿下 明治四十二年十一月三十日聯隊附として御着任翌四十三年十二月一日聯隊長に補せられ賜ふ。
- 五、各戦役戦死者 將校以下二千百七十七名。

(歩兵第六聯隊旗手 杉村謹三氏報)



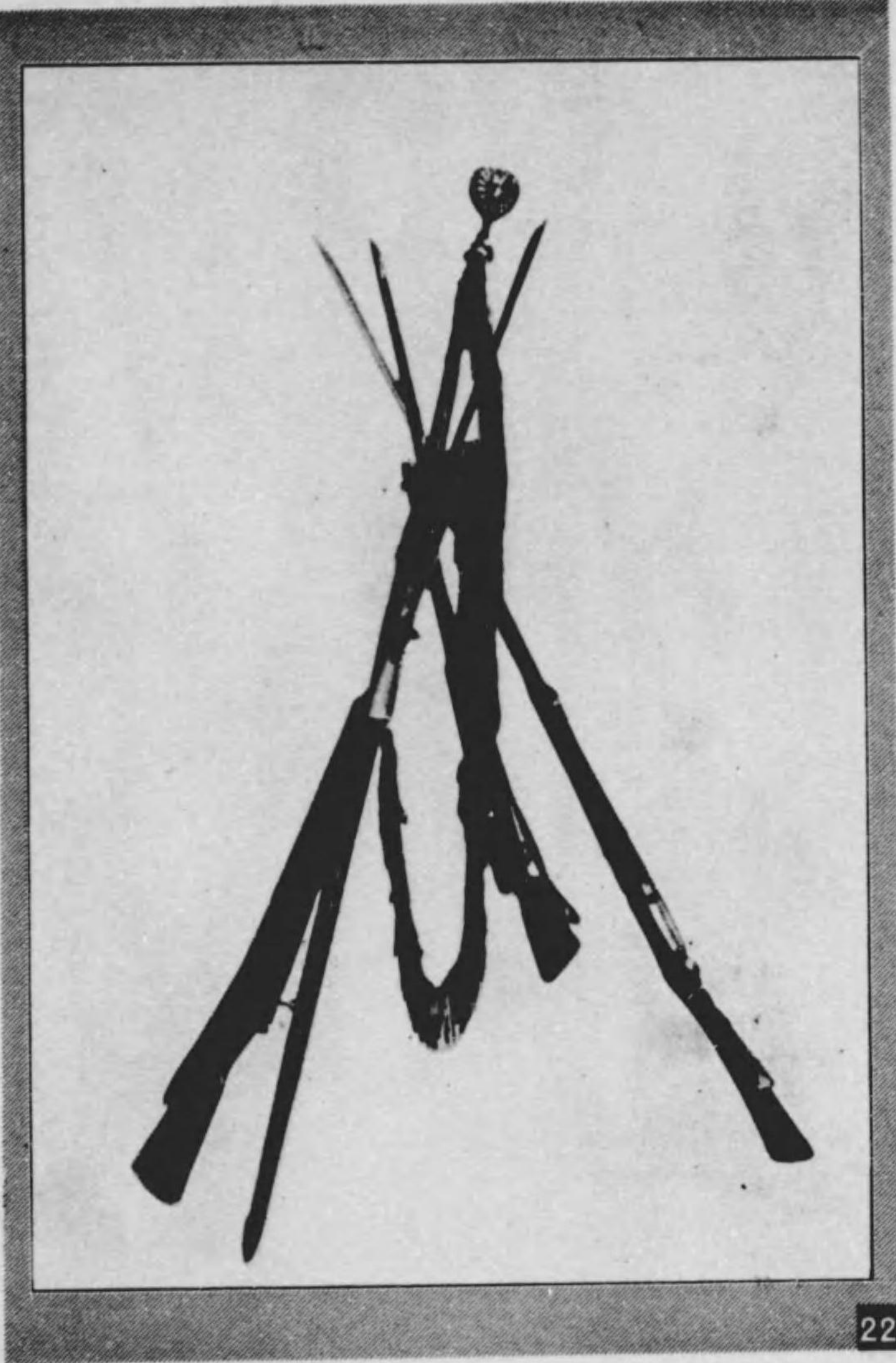


(21) 歩兵第六十八聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治四十一年五月八日。
 一西伯利派遣 大正七年九月二日出征、西伯利チタ附近駐屯、及浦潮沿海洲討伐参加、大正八年十月十二日凱旋。
 一、山東派遣 昭和三年五月十三日出征、滄口駐屯、高密附近戦闘参加、青島、濟南駐屯、昭和四年五月二十一日凱旋。

(所在地 岐阜縣稲葉郡北長森村 所屬 名古屋第三師團)

(歩兵第六十八聯隊報)



(22) 歩兵第十八聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治十七年八月十五日。
 一、日清戦役参加 明治二十七年八月二十三日出征、平壤、鴨綠江、海城、籠蓋堡、大富屯、牛莊、田庄臺の戦闘に参加。同二十八年六月二十七日凱旋。
 一、日露戦役参加 明治三十七年三月二十五日出征、南山、得利寺、蓋平、大石橋、海城、八卦溝、首山堡、遼陽、沙河、黑溝臺、奉天の戦闘に参加、齊家窩棚附近の守備、同三十九年一月十四日凱旋。
 一、北滿守備 自大正十年三月二十五日至大正十二年四月十七日。
 一、昭和三年支那事變出動 昭和三年五月十八日出動、山海關、山東營備、同四年五月二十五日凱旋。

(所在地 豊橋市 所屬 名古屋第三師團)

(歩兵第十八聯隊報)

(23) 歩兵第三十四聯隊軍旗略歴

(所在地) 靜岡市
(所屬) 名古屋第三師團

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年三月二十七日出征，得利寺、蓋平、海城、首山堡、沙河、奉天の戦斗に参加，明治三十九年一月十八日凱旋。
- 一、日獨戰役參加 大正三年十月四日出征，同年十二月二十三日凱旋。
- 一、滿洲守備 自大正十年四月三日至同十二年四月十七日。
- 一、濟南事件出征 昭和三年五月十三日出征，同四年五月二十八日凱旋。

(歩兵第三十四聯隊報)

(24) 騎兵第三聯隊軍旗略歴

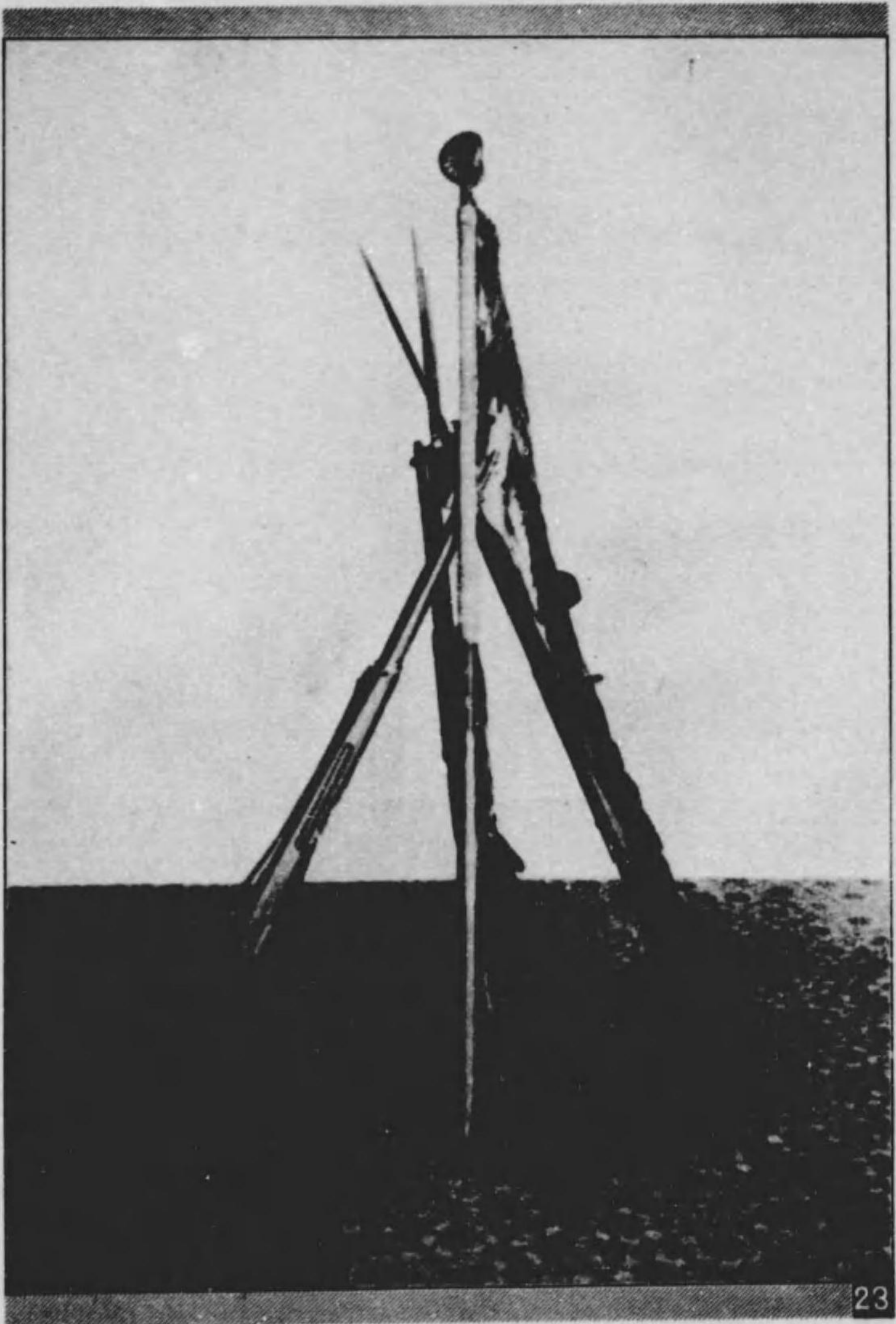
(所在地) 名古屋市外守山町
(所屬) 名古屋第三師團

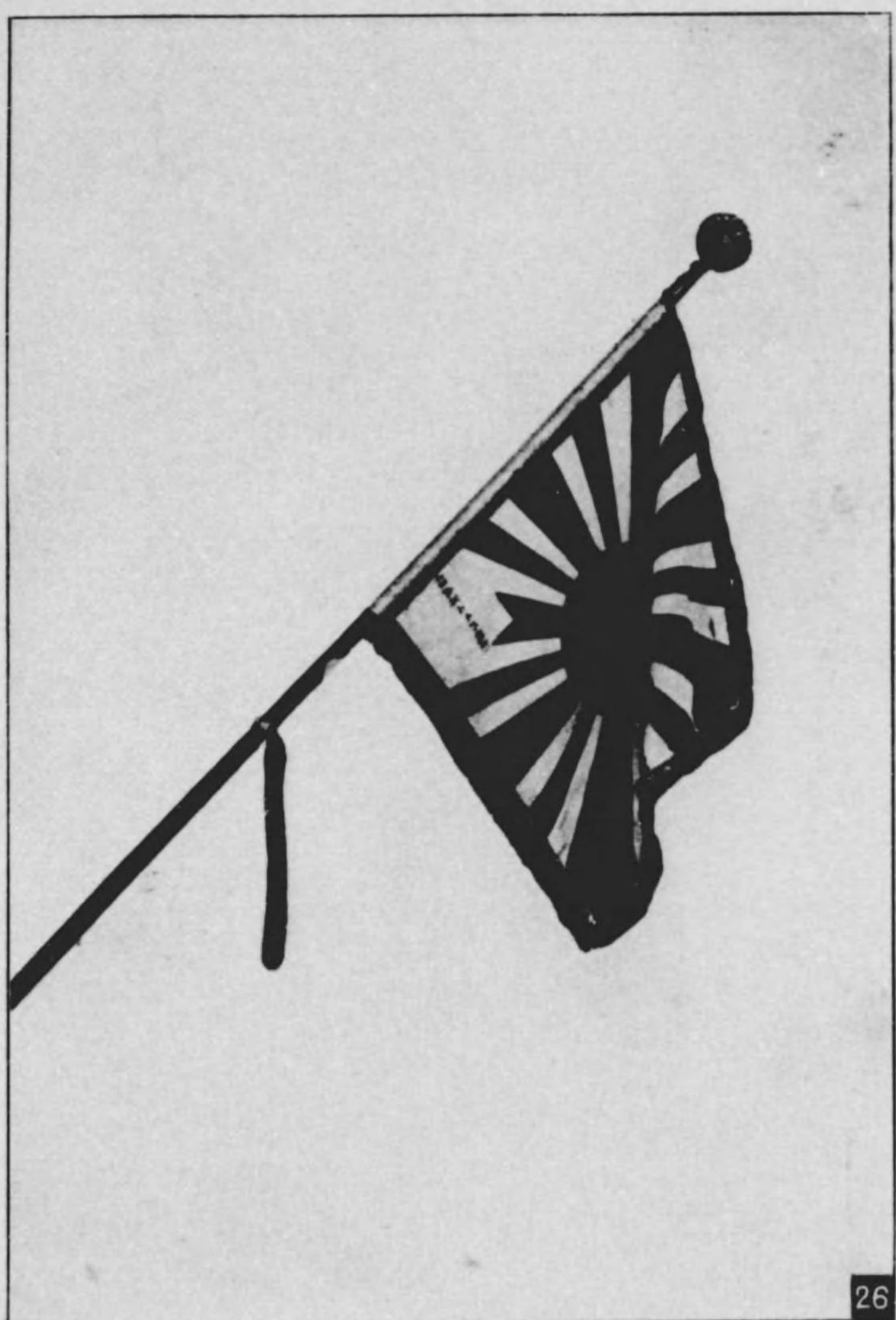
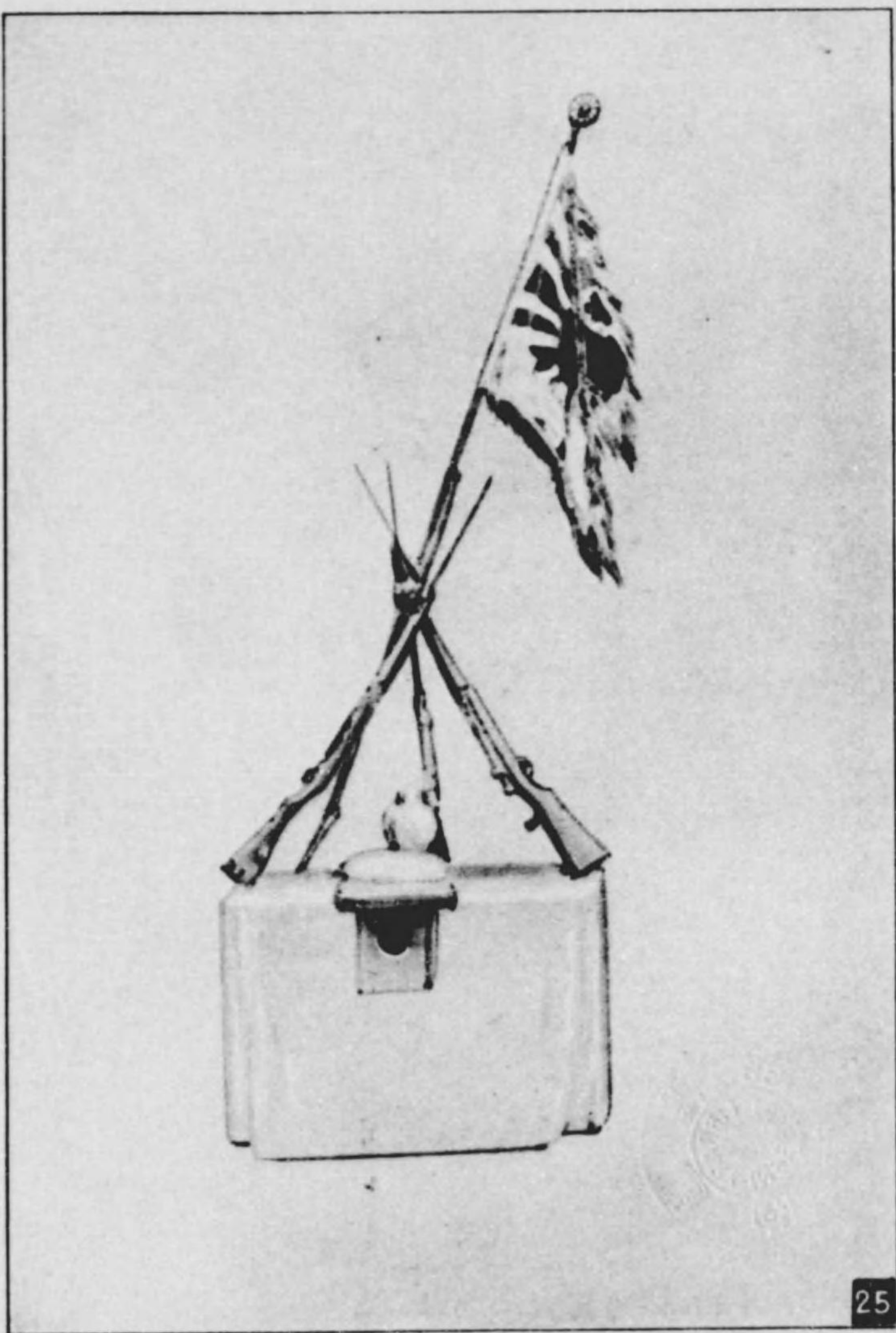
- 一、軍旗親授 明治二十九年十一月十八日。
- 一、創 立 明治二十三年十二月一日。
- 一、日清戰役參加 明治二十七年八月四日動員下令，九月一日屯營出發，同月四日宇品出帆，同月十二日仁川に上陸，第一軍に屬す，海城、團山子、庄臺其他各地激戦に参加す。同二十八年五月二十三日大連灣出帆，六月九日凱旋す。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年三月六日動員下令，四月二十一日宇品出帆，五月十日清國盛京省繁鬼石上陸，瓦房店、城兒山、大石橋、黑溝臺、首山堡、遼陽、沙河、奉天の各地激戦に参加す，同三十八年十月十六日平和克復，三十九年一月二日大連出帆，同五日宇品上陸，同九日凱旋す。
- 一、西伯利亞出征 大正七年八月動員下令，九月四日屯營出發，九月九日宇品出帆，同十一日釜山上陸，同三十日「チタ」に到着す。各地に轉戦掃蕩なし，大正八年十月四日凱旋す。
- 一、支那事變 昭和三年五月九日動員下令，五月二十日大阪港出帆第四回目的征途に就く，同月二十四日青島上陸，膠濟鐵路沿線及濟南の守備に任じ，或は土匪の掃蕩に従事す，同年十月二十五日青島出帆，同三十一日凱旋す。

一轉

營 昭和三年三月二十一日名古屋城廓内より守山町に轉營す。

(騎兵第三聯隊副官 小林拾三氏報告按察)





(25) 騎兵第二十五聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治四十二年九月二十二日。
- 二、陸軍特別大演習参加 大正二年自十一月十二日至十一月十六日。
- 三、同 大正七年自十一月十日至十一月二十日。
- 四、同 昭和二年自十一月十二日至十一月二十日。

(所在地 愛知縣瀬尾郡高師村
所屬 名古屋第三師團)

(騎兵第二十五聯隊副官 小倉氏報)

(26) 騎兵第二十六聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治四十二年九月二十三日。
- 二、其他 演習参加のみにて特記事項なし。

(所在地 愛知縣瀬尾郡高師村
所屬 名古屋第三師團)

(騎兵第二十六聯隊報)

(27) 歩兵第八聯隊軍旗略歴

(所成地 大阪市東區小橋寺町 所屬 大阪第四師團)

- 一、編成 完結 明治七年五月十四日。
- 一、軍旗 拜授 明治七年十二月十八日。
- 一、軍旗竿頭の彈痕の由来 明治三十七年十月十四日午前十時三十分頃張良堡に於て激戦中敵砲彈の彈子竿頭御紋章に命中し其痕を留む。

一、戦歴の概要

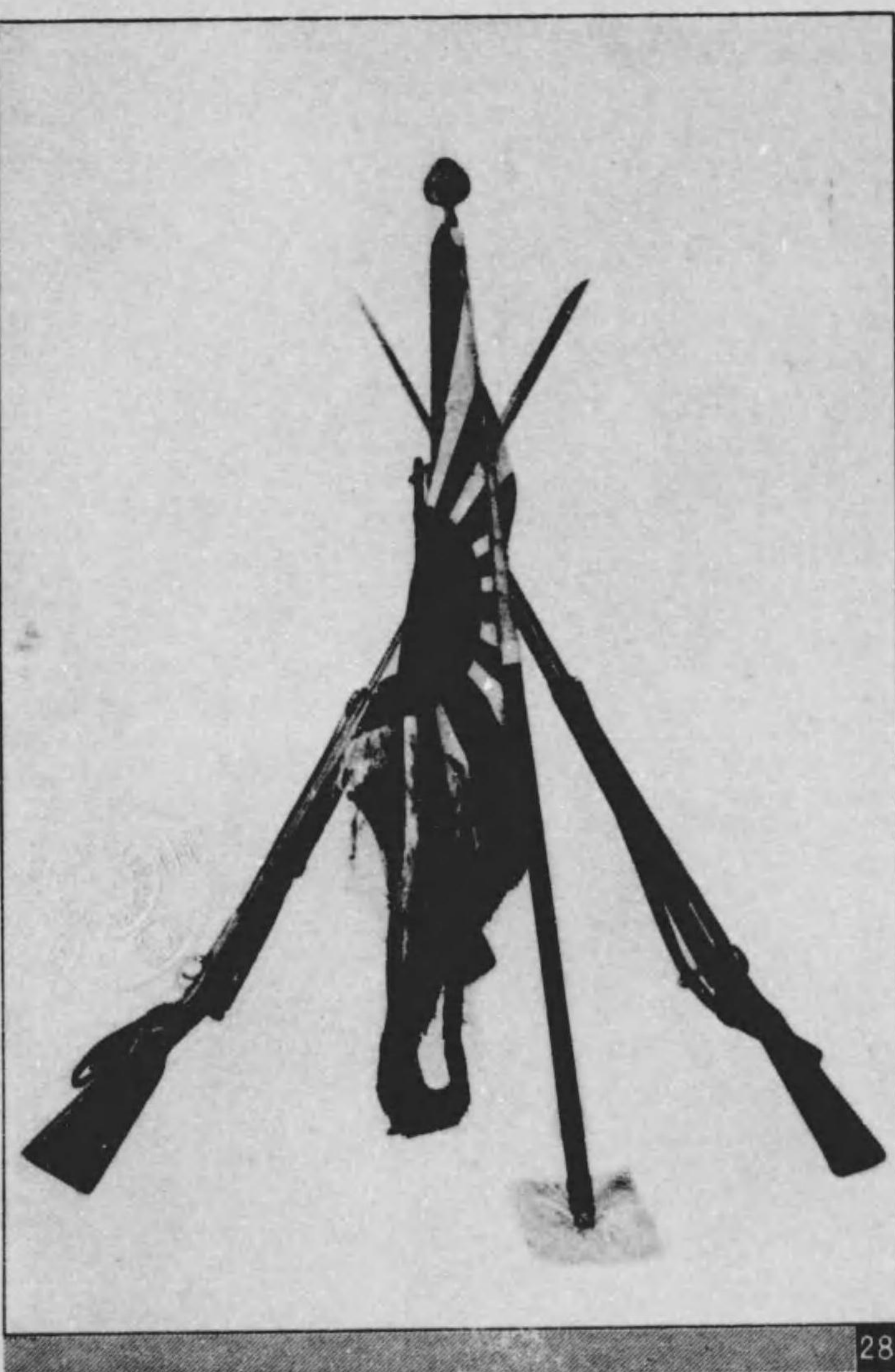
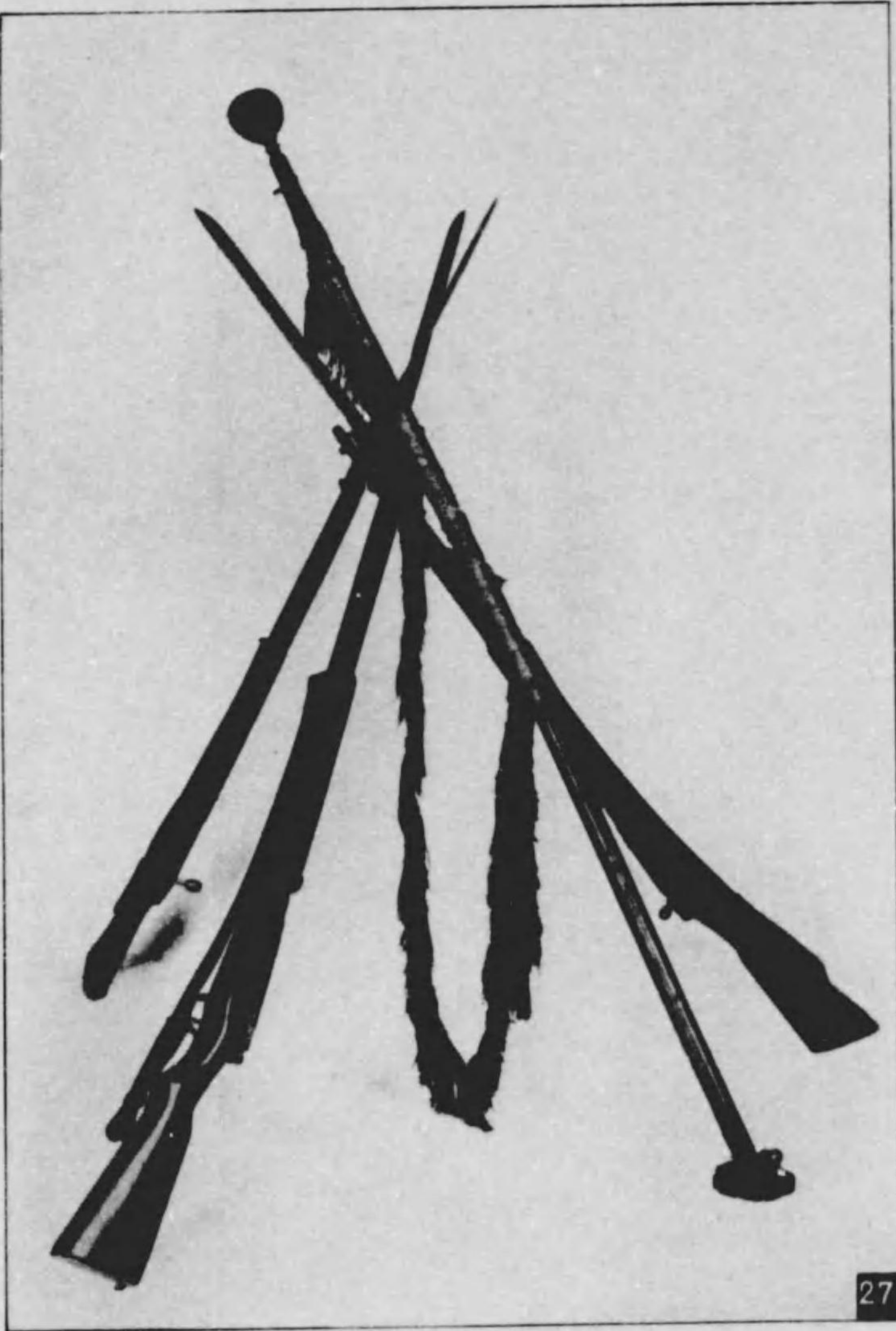
- 1 萩の亂 明治九年十一月一日出征同月末亂平き大阪に凱旋(戦士將校二十一下士以下三百八十五)
- 2 西南 役 明治十年二月出征九月末亂平きて大阪に凱旋(戦士將校二十一下士以下三百八十五)
- 3 明治二十七八年戦役 明治二十七年八月一日宣戰詔勅下る、同年十一月二十六日第一充員召集下令、(聯隊長中佐前田隆禮)、同二十八年三月下旬第二軍の戦斗序列に入り大阪出發、廣島集中同年三月三十日休戦の詔勅下る、四月十一日宇品出帆山海關に向ふ、途次大連灣に投錨休戦期限の満了を待つ、四月十七日平和假條約成る龍樹屯に上陸休養、同四月二十一日平和克復の詔勅下る、五月十七日第二軍の戦斗序列を脱し占領地總督の指揮下に入り海城附近の守備、八月下旬更に鳳凰城附近の守備を命ぜられ同、十月中旬鳳凰城出發十二月下旬大阪に凱旋。(戦死將校一、下士以下百七十七)
- 4 臺灣土匪討伐 明治二十九年一月臺灣北部に蜂起し臺北宜蘭一時危急に迫る其守護隊を救護するために混成第七旅團(歩兵第八第九聯隊)を主力とすを臺灣に差遣せらる、聯隊は一月五日大阪出發、同十二日蘇澳に上陸して先づ該地守備隊を救ひ直に賊を撃攘しつゝ十三日宜蘭に達し其重圍を解かしめ次で礁溪頭附近を掃蕩して宜蘭平野を平定し基隆臺北臺中附近の守備の任を全うし十一月下旬大阪に凱旋す。(戦死將校二、下士以下二十)
- 5 明治三十七八年戦役 明治三十七年二月十日宣戰の詔勅下る三月六日動員下令(聯隊長中佐能美成一) 同年三月十五日第二軍の戦斗序列に入る、五月七日盛京省孫家咀子(乳子高の西南約二里)附近に上陸す、五月十六日第二軍の最右翼となりて南山の陣地を攻撃す該陣地は工事極めて堅固なりしを以て其守兵の微少なるにも拘はらず其抵抗頑強なりしか聯隊は海水中を前進し勇躍突進、日没頃に至り全軍に先して敵陣地の最高部に在りし堡壘を奪取し以て全軍に勝利の道を啓きたり。
其後聯隊は(得利寺六月十五日)蓋平(七月九日)大石橋(七月二十四日)海城(八月四日)及遼陽(八月二十六日)より九月四日迄)の諸戦斗に参加し又十月十日より十六日に至る沙河の會戦に於て感狀を授與せらる。次て三月一日より十一日に亘り全戦役の勝敗を確定せる奉天附近の會戦に參與し至る處に偉功を奏す。(戦死將校藤岡少佐以下二十一、下士以下六百十九、病死下士以下九十三)
- 6 日獨戰役 大正三年八月二十一日獨立歩兵第一大隊編成下令(大隊長少佐金澤末作) 同年九月十一日宇品出帆、同月十五日支那山東省龍口に上陸、主として山東鐵道の押收及之れが警備に任じ大正四年三月二日新守備隊たる歩兵第四十聯隊と交代同月十四日内地歸還の命を受け同十六日青島出港大阪に凱旋す。
(歩兵第八聯隊副官報)

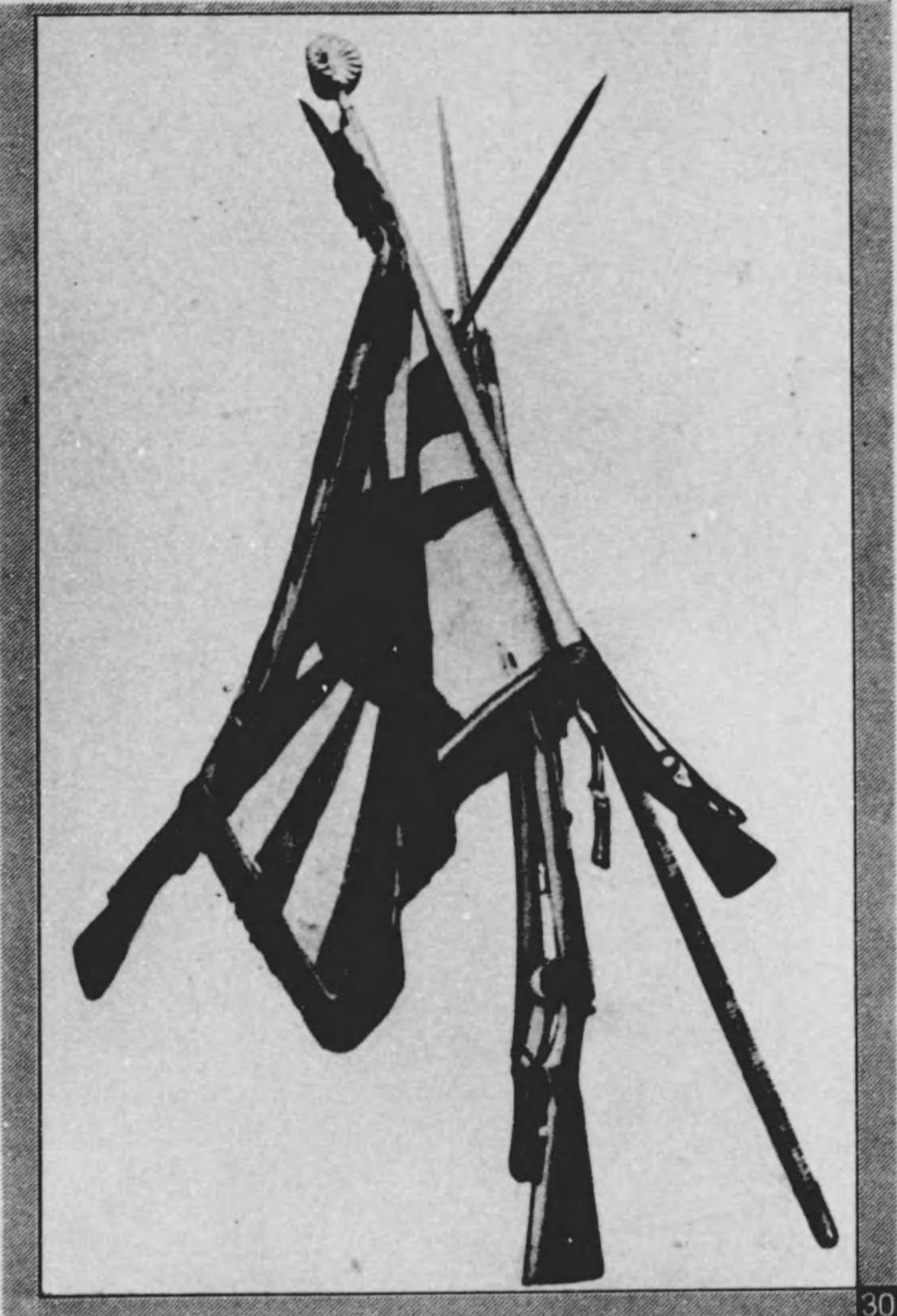
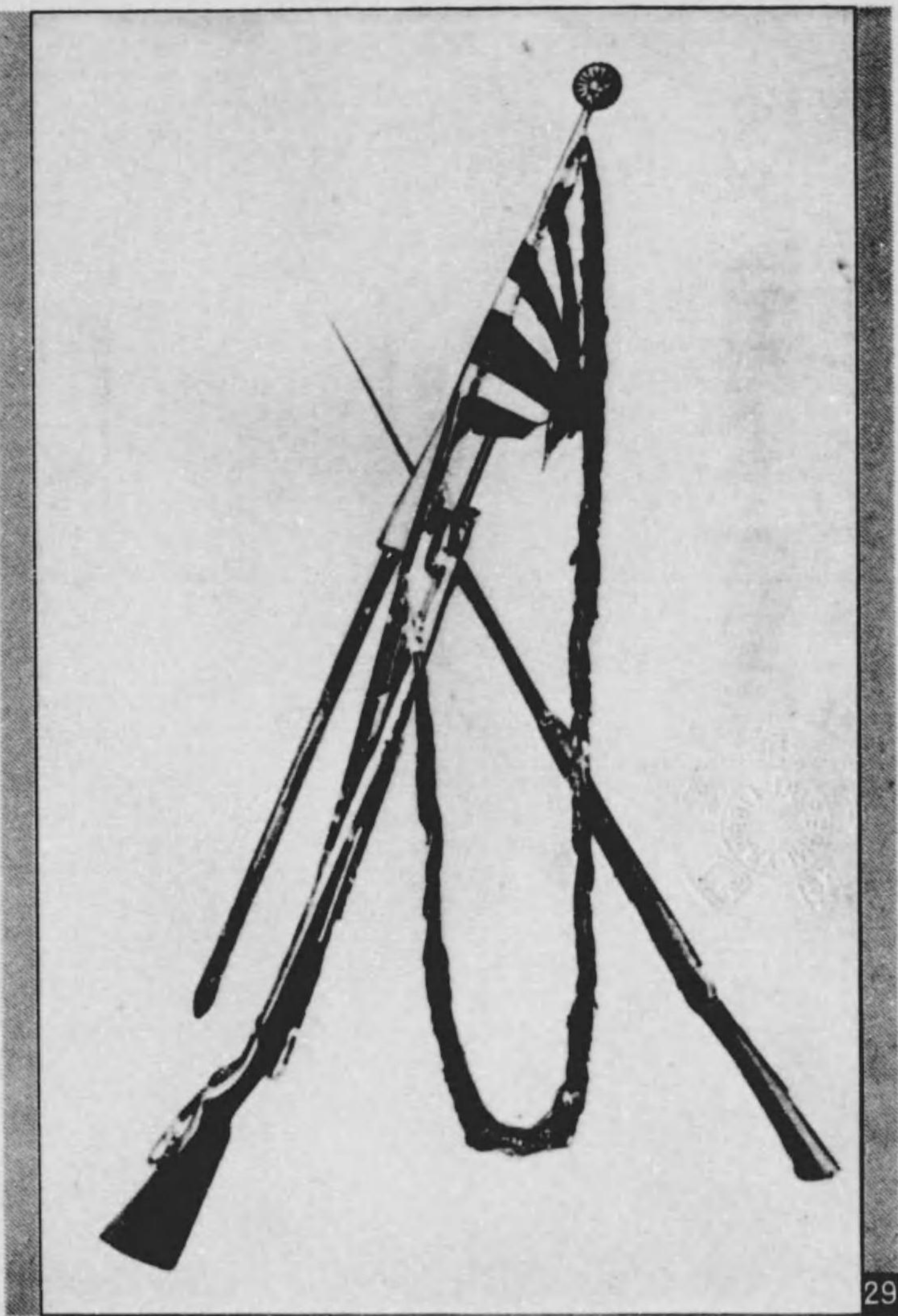
(8) 歩兵第七十聯隊軍旗略歴

(所成地 兵庫縣多紀郡野村 所屬 大阪第四師團)

- 一、軍旗 拜授 明治四十一年五月八日。

(陸軍省藏書抜萃)





(29) 歩兵第三十七聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年四月二十三日出征、南山、蓋平、大石橋、沙河、黒溝、奉天の戦闘に参加。明治三十八年十二月十六日凱旋。

(備成地 大阪市東區法橋坂町)

(所屬 大坂第四師團)

(歩兵第三十七聯隊旗手 佐藤忠雄氏報)

(30) 歩兵第六十一聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治三十八年八月八日。
- 一、滿州出征 明治三十八年八月十三日。
- 一、戦後滿洲守備 自明治三十八年十月至明治四十年三月 同年三月十七日内地歸還。
- 一、濱寺駐在 自明治四十年三月至同四十二年三月。
- 一、所屬變更 明治四十一年十月二十八日(第十六師團ヨリ第四師團ニ)
- 一、和歌山移轉 明治四十二年三月十七日。

(備成地 和歌山市)

(所屬 大坂第四師團)

(歩兵第六十一聯隊旗手 田中少尉報)

(31) 騎兵第四聯隊軍旗略歴

(編成地 大阪市東區小橋寺町)
(所屬 大坂第四師團)

- 一、軍旗親授 明治二十九年十一月十九日。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年四月十日出征、得利寺、大石橋、海城、遼陽、沙河、黑溝臺、奉天の戦闘に参加。明治三十八年十月十六日凱旋。
- 一、堺へ移轉の豫定 昭和七年三月。

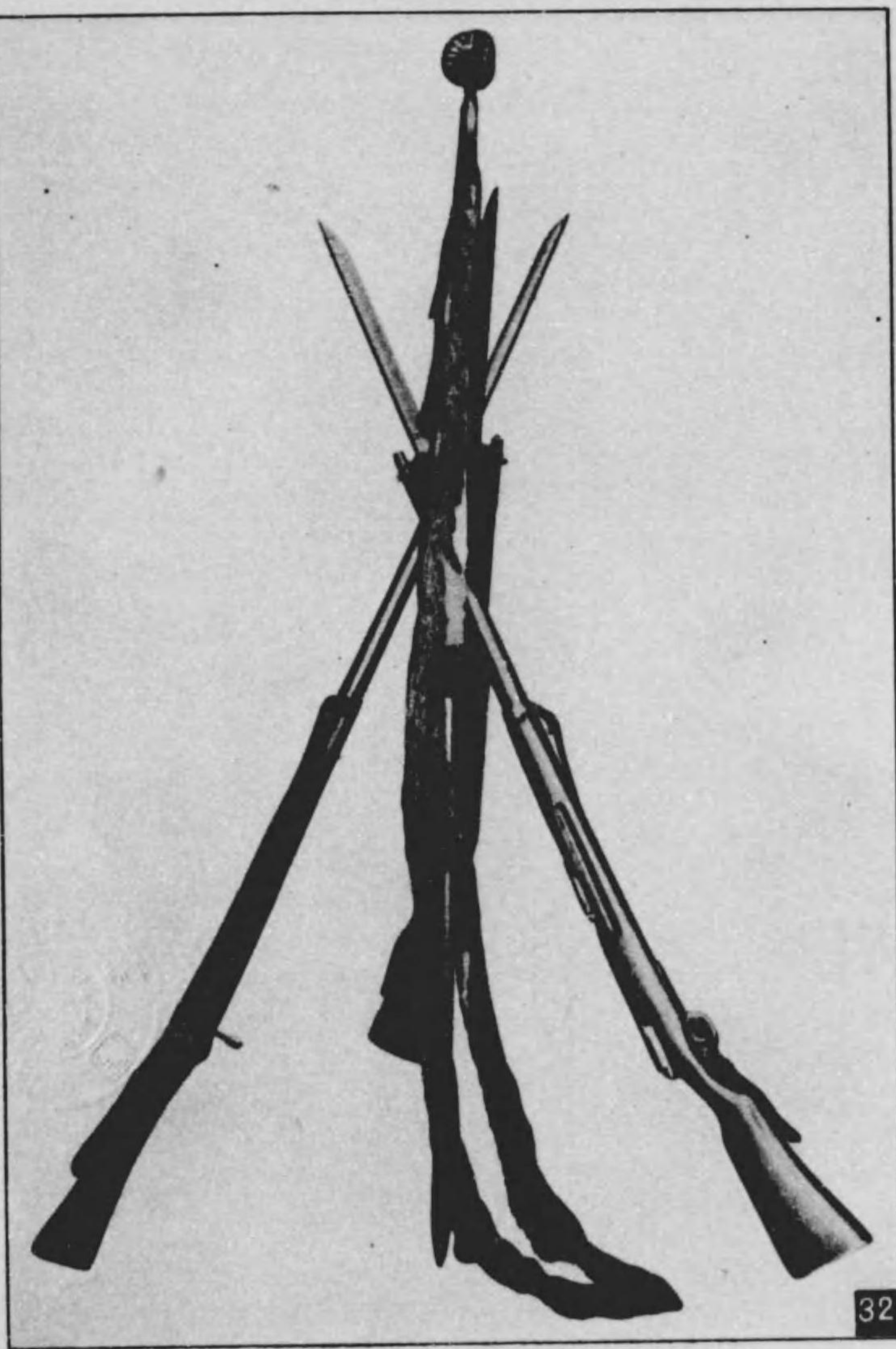
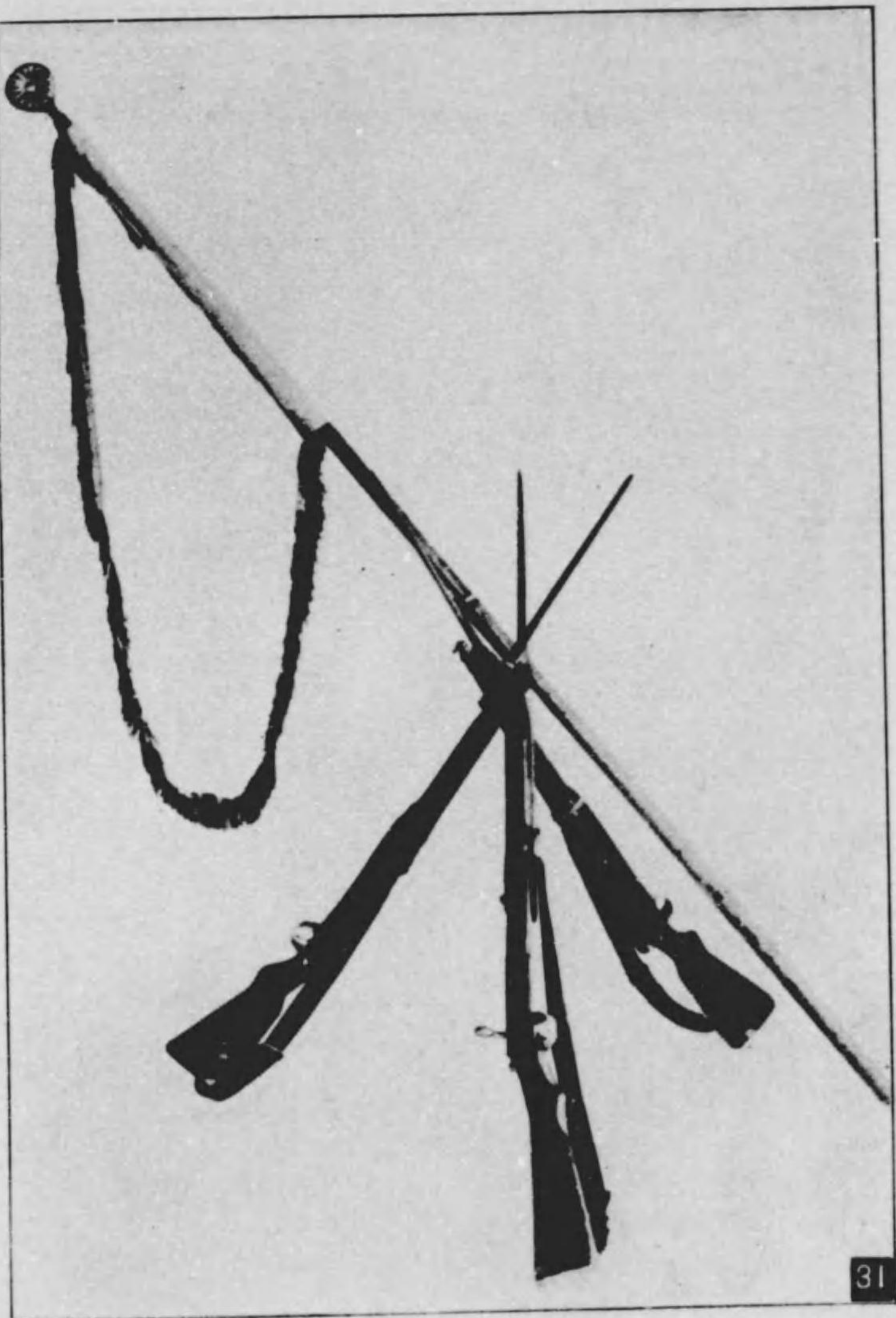
(騎兵第四聯隊副官 西 次郎氏報)

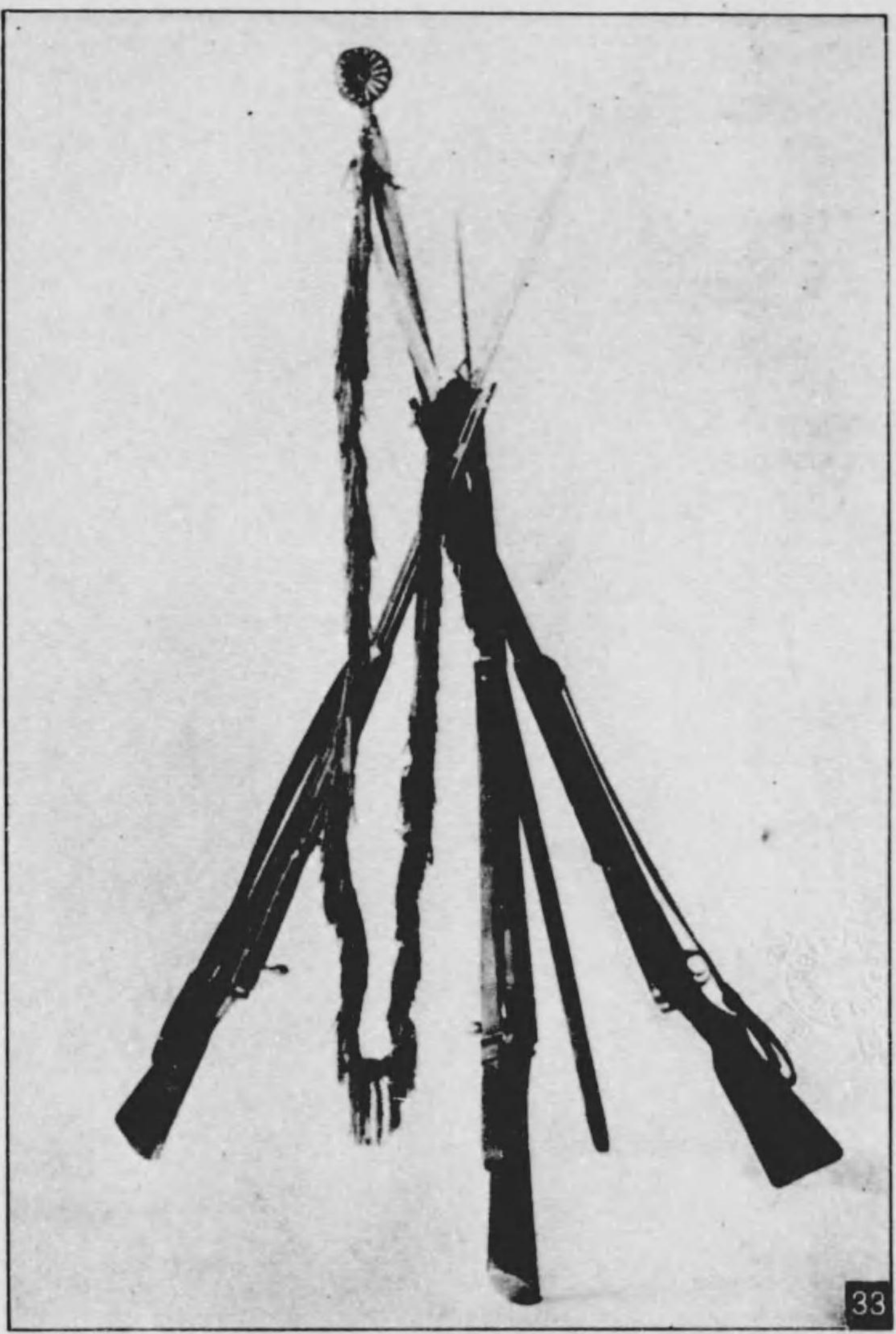
(32) 歩兵第十一聯隊軍旗略歴

(編成地 廣島市)
(所屬 廣島第五師團)

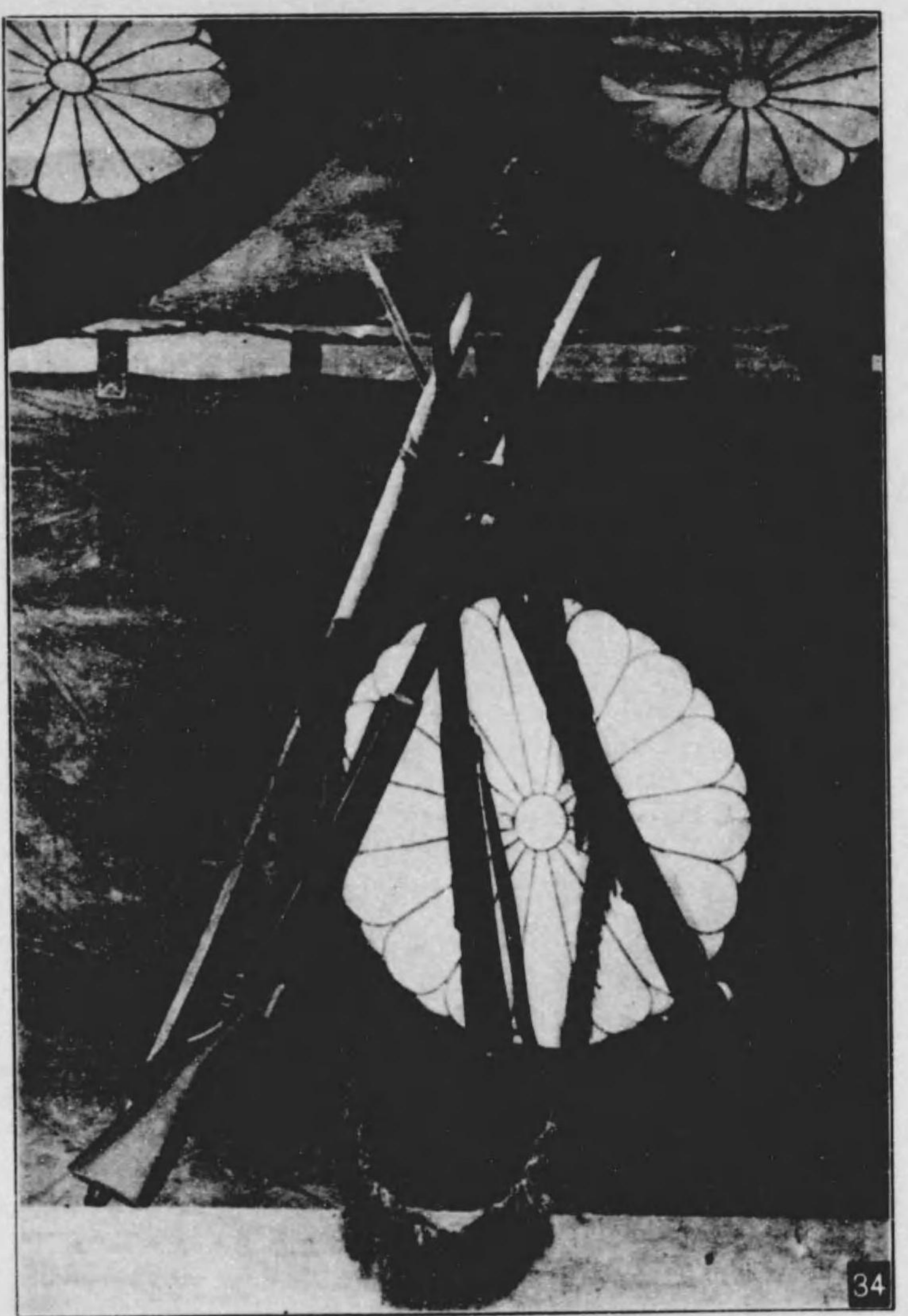
- 一、軍旗親授 明治八年九月九日。
- 一、萩の亂参加 明治九年十月二十九日出動、同年十一月十八日平定。
- 一、西南の役参加 明治十年二月十四日出動、同年三月二十日田原坂の激戦、同年三月二十一日植木の戦闘、同年九月二十四日平定、同年十月六日凱旋。
- 一、日清戦役参加 明治二十七年六月五日出動、同年七月二十九日威敷占領、同年七月三十日牙山占領、同年八月四日京城に凱旋、同年九月十二日土器店南方高地占領、同年九月十五日船橋里の戦闘、同年九月十六日平壤占領、同年十月二十五日九連城の戦闘、明治二十八年三月七日田庄臺の攻撃、同年三月十一日香爐溝嶺戦闘、同年六月七日凱旋の途に就く、同年七月二十日復員完結。
- 一、北清事變参加 明治三十三年六月十九日出發、同年十月十七日廣島に凱旋、同年十月三十日復員を令せらる。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年四月十九日動員下令、同年五月十八日出發、同年五月二十七日金州、南山の戦斗、同年六月十四日得利寺附近の戦闘、同年七月二十三日大石橋附近の戦斗、七月三十一日橋木城附近の戦斗、同年八月三十一日鞍山站附近の戦闘、同年九月三日遼陽附近の戦斗、自同年九月一日至同年九月二十日沙河會戦、明治三十八年一月二十八日黑溝臺附近の會戦、同年三月一日王家窩棚の戦闘、同年三月五日沙沱子の戦斗、同年三月九日奉天占領、同年十二月三十一日凱旋。
- 一、滿洲守備 明治四十四年四月十日出發、大正四年四月二十二日歸着、明治四十五年三月三日北清擾亂の爲出動。
- 一、西伯利亞事變参加 大正八年七月三日出發、同年七月十二日クノリング附近の掃蕩、同年七月十九日ムチナヤの戦闘、同年七月二十六日ムチナヤの戦斗、同年八月十六日アントノフカ討伐、同年九月六日ベスチャンカ着、同年八月九日十日ボクダツトスカヤの戦斗、同年十月十二日カベタタの戦斗、大正九年三月十二日ドムノクリューチエフスカヤの戦斗、同年三月二十六日チタ河右岸の戦闘、同年三月二十六日ブリツボウラの戦闘、同年三月二十七日シリチエ河の戦闘、同年九月三日廣島に凱旋。

(歩兵第十一聯隊副官 深田榮壽氏報)





33



34

(33) 歩兵第四十一聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗拜授 明治三十一年三月二十七日。
- 一、北清事變参加 明治三十三年七月十一日字品港發、楊村、南蔡村、張家灣、北京の戦闘に参加、明治三十四年七月十七日凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年五月十五日字品港發、大石橋、遼陽、沙河、黑溝臺、奉天の戦闘に参加、特に明治三十七年十月十六日沙河高寶山の戦闘に於ては聯隊長以下全滅の激戦に際しよく危地を脱し聯隊の名譽を磐石の重きに置く、同三十九年一月三日凱旋。
- 一、福山移轉 明治四十一年七月二十日。
- 一、滿州守備 自大正四年四月四日至大正六年五月十二日。

(備成地 福山 山吉)
(所屬 廣島第五師團)

(歩兵第四十一聯隊旗手 長谷川壽雄氏報)

(34) 歩兵第二十一聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治十九年八月二十五日。
- 一、日清戦役参加 明治二十七年六月二十四日出征、成歡、平壤、九連城、鳳凰城の戦闘に参加、(明治二十七年九月十五日軍旗桿頭に敵弾命中)
- 一、北清事變参加 明治二十八年牛莊、田庄臺攻撃に参加、同年六月二十二日凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十三年七月十七日出征天津附近に集結、北倉附近韓家樹の攻撃及北京總攻撃に参加(聯合軍の先頭となつて北京城に突入す) 明治三十四年七月十日凱旋す。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年五月十九日出征、得利寺、太平嶺附近、揭陽溝、上汪家附近、向陽寺附近、遼陽、五里臺子、遼陽山附近の各戦闘に参加、明治三十八年黑溝臺附近、李家窩棚二臺子附近、奉天附近の各戦闘に参加同年十二月二十六日凱旋す。
- (明治三十七年七月二十四日軍旗を而に敵弾を受く)
- 一、凱旋大觀兵式参列 明治三十九年四月三十日。
- 一、所管 換 明治四十一年十月十七日第五師團を脱し第十七師團に入る。
- 一、滿洲駐劄 自大正四年三月二十五日至大正六年五月二十六日。
- 一、所管 換 大正十四年五月一日第十七師團廢止、第五師團隷下に入る。
- 一、轉 營 明治三十一年七月二十四日廣島より濱田に轉營。

(備成地 島根縣那賀郡石見村)
(所屬 廣島第五師團)

(歩兵第二十一聯隊副官 近澤義美氏報)

(35) 歩兵第四十二聯隊軍旗略歴

(備成地 山口縣山口市
所屬 廣島第五師團)

明治二十九年十二月一日聯隊の基幹は聯隊本部及第一大隊は廣島舊臨時國會議事堂跡に編成せらる。同三十八年八月山口衛戍地に轉營す。同三十一年三月二十四日東京宮城に於て明治天皇より優渥なる勅語と共に軍旗を拜授し同二十八日營内に於て軍旗受與式を行はる。

勅語

歩兵第四十二聯隊ノタメ軍旗一旒ヲ授ク汝軍人等協力同心シテ益々威武ヲ宣揚シ我帝國ヲ保護セヨ

依て聯隊長は左の如く奉答す

明勅ヲ奉ス 臣等死力ヲ竭シ誓テ國家ヲ保護セン

爾來軍旗の外征に隨へること、北清事變日露戰役及西伯利亞事件の三回にして、毎に赫々の偉勳を奏し其光彩實に陸軍たるものあり。即ち明治三十三年清國に義和團蜂起し兇暴の威を逞しふするや、聯隊長歩兵大佐渡邊章指揮の下に同年七月直隸省太沽に上陸し炎暑を冒し疫癘に堪へ、唐軍湖北倉州北京の各地に於て連戰連勝し徒匪を鎮壓し公使急接臣民保護の任を全くし能く帝國軍隊の名譽を列強の間に發揚せり。

明治三十七年日露戰役起るや聯隊長歩兵大佐本郷房太郎指揮の下に同年五月征露の途に登り清國盛京省張家灣に上陸し直に南山の戰鬪に於て第二軍背後警戒の任を全うしたるを始として得利寺蓋平大石橋折木城鞍山店遼陽に轉戦し同年十月沙河會戰に際しては五里寨子歪頭山の要害を奪取し、越て三十八年一月嚴寒積雪を冒して黑溝臺に急進し能く優勢の敵に當り之を驅逐し、又同年三月奉天會戰の際聯隊長歩兵中佐堀江不可止指揮の下に所々敵の堅壘を突破し、特に沙沱子に於ては數倍の敵に對し猛烈なる攻撃を繼續し惡戰苦闘聯隊長以下殆ど全滅の悲境に陥り軍旗亦數彈を蒙るに至りしも終に敵を激破し威武を宇内に宣揚せり。明治四十四年より大正二年に至り滿洲駐劄の任に當る。時恰清國第一革命に際し不穩騷擾相次て起りしも此間能く其任を全うして歸還せり。

大正八年八月、西伯利亞出征の大命下り、聯隊長歩兵大佐石川忠治指揮の下に浦鹽港に上陸し日ならずしてボグダツトスカヤ附近過激派討伐に従事し奮闘よく數十倍の敵に熾滅的打撃を與へ遂に其根據を覆滅し翌年四月下旬チエルノフスキーの夜襲及ドムノノ平地の戰鬪に参加し一舉敵を粉碎し全く其企圖を挫折せしめたる等終始健闘能く其任を全うせり日清日露西伯利亞事件に於て聯隊將校以下死傷左の通り

北清事變 中尉山澄清三以下百五十餘名。日露戰役 大佐堀江不可止以下二千八百餘名(内陣没者九百五十一名)

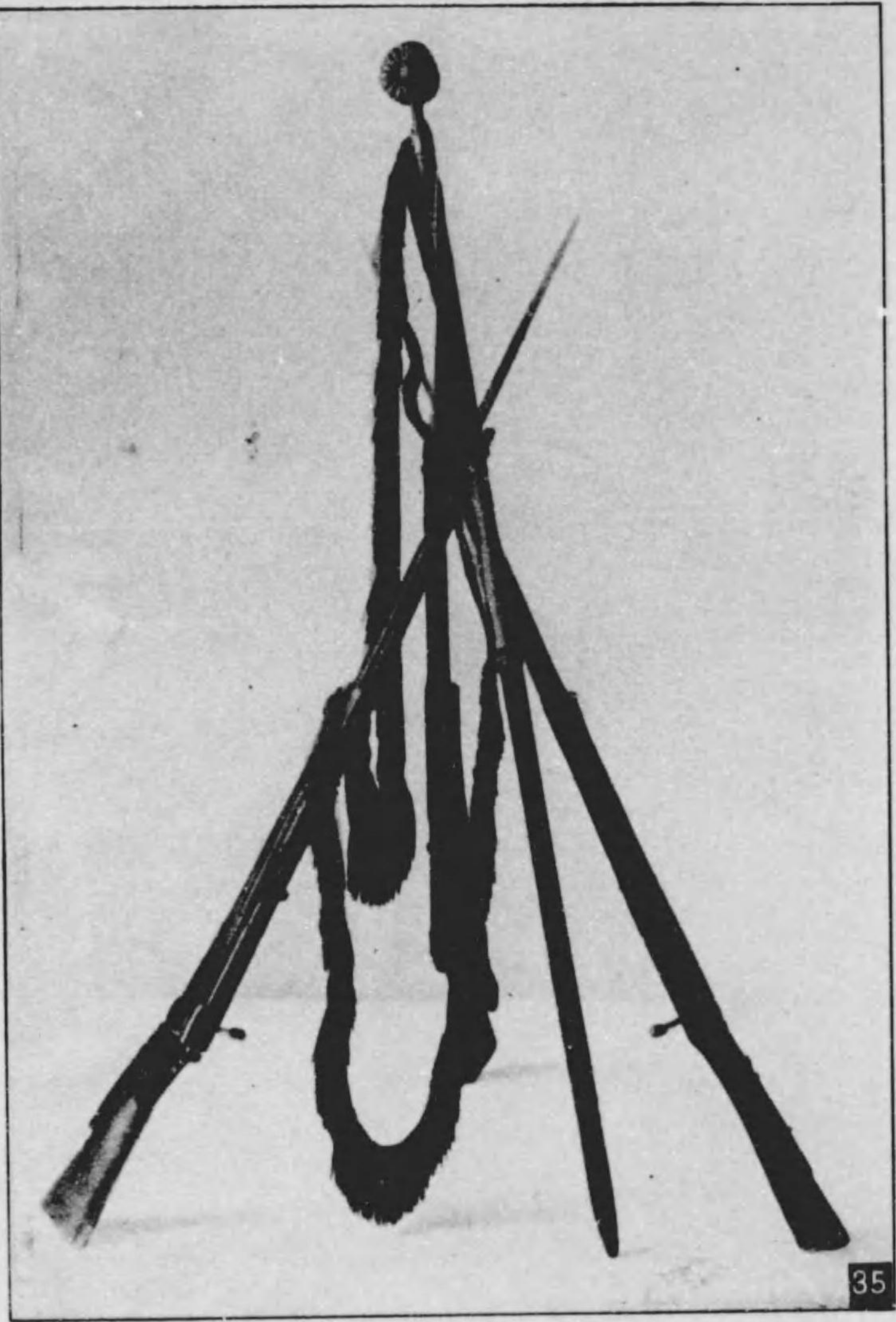
(步兵第四十二聯隊藤井少尉氏報)

(36) 騎兵第五聯隊軍旗略歴

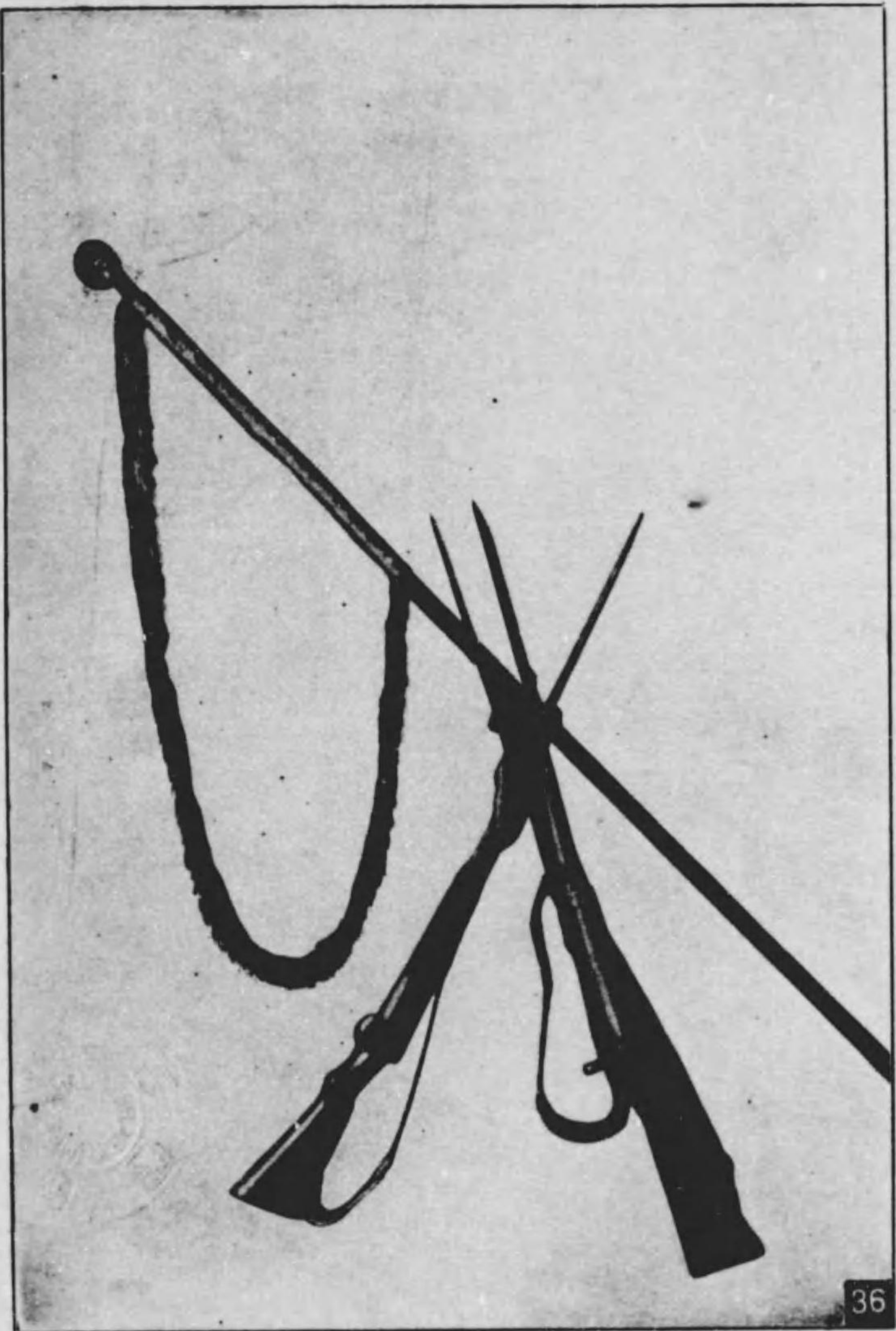
(備成地 廣島市
所屬 廣島第五師團)

一、軍旗 授 明治二十九年十一月十八日。

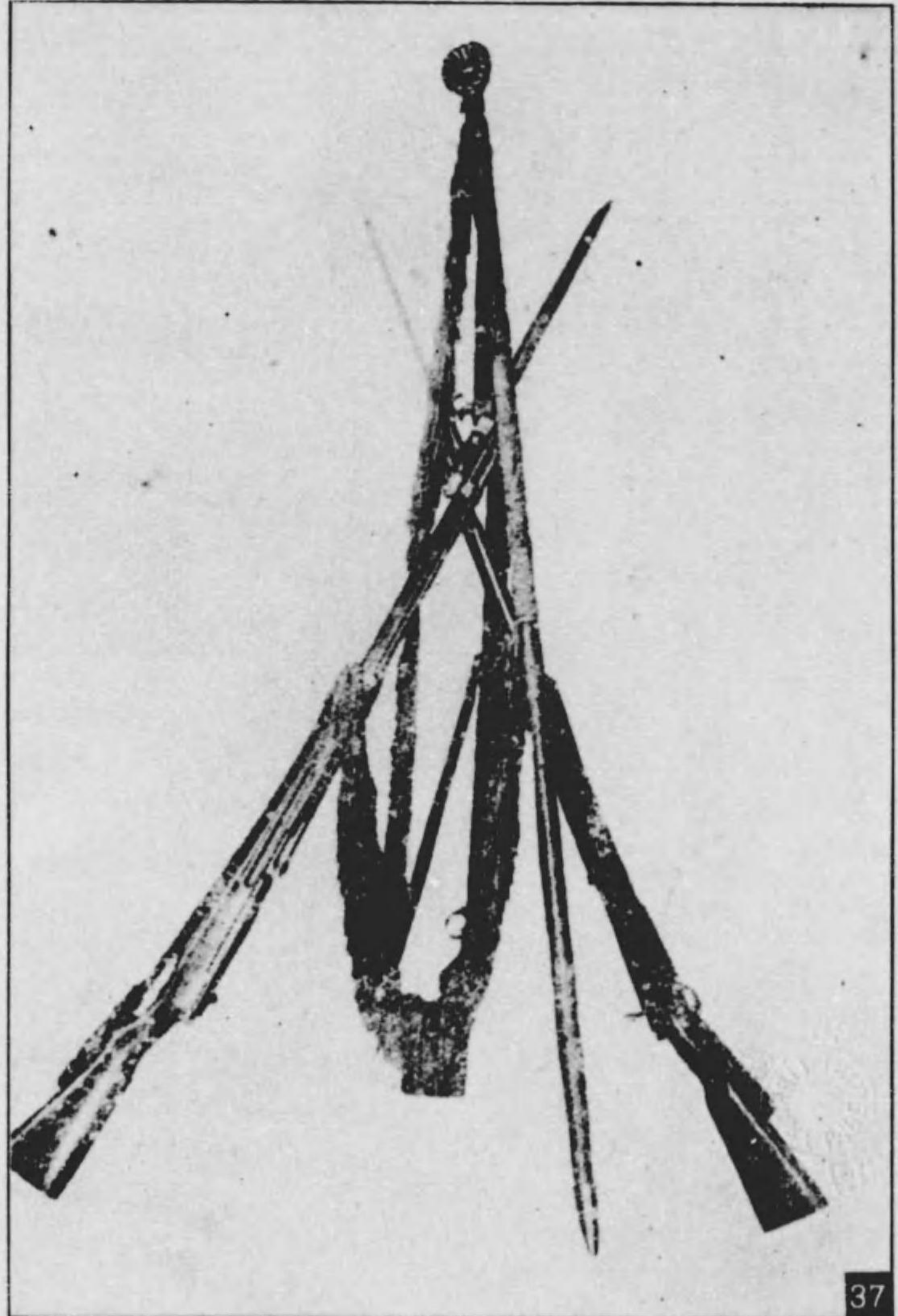
(陸軍省文書課藏書寫)



35



36



(37) 歩兵第十三聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 明治八年九月九日。
- 一、軍旗の亡失及奪還 明治九年十月二十四日神風黨の變起り軍旗一時敵手に落し、勇卒隈部幸作軍旗奪還、佐武中尉奉還中負傷のため軍旗鮮血に染む。
- 一、西甯役参加 明治十年二月十九日賊徒征討の大詔換發せらる、征討に参加各地に轉戦同年十月六日熊本に旋旋す。
- 一、日清戦役参加 明治二十七年七月二十四日勅令、同八月一日宣戰布告、十月二十三日屯營出發、翌二十八年一月十二日門司出帆、十五日大連着以後威海衛陸砲臺、摩天嶺、揚峯嶺等攻略、四月二十一日平和克復。
- 一、威海衛守備 明治二十八年十一月下旬旅順口出發、威海衛に着守備に任じ、二十九年六月八日屯營に凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年五月十九日勅令、六月十二日屯營出發、蓋平、大石橋、遼陽、首山堡、沙河、奉天、魚鱗堡等各地戦闘に参加、翌三十九年三月十日—十二日屯營に凱旋。
- 一、滿洲駐劄 大正十二年 月 日より滿洲守備として、柳樹屯に滿二ヶ年駐劄す。

(所在地 熊本 市)
(所屬 熊本第六師團)

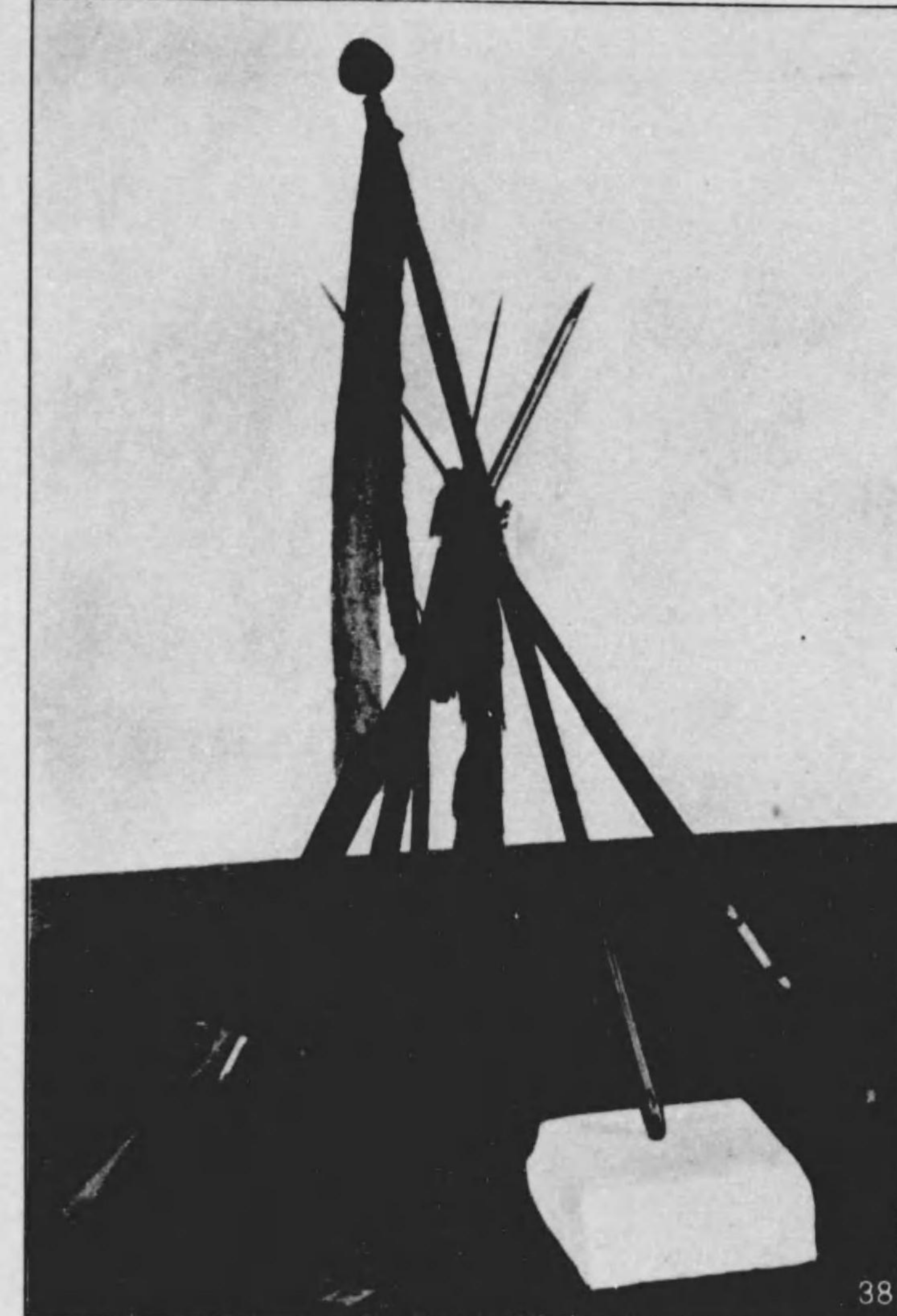
(陸軍省藏書披露)

(38) 歩兵第四十七聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 明治三十一年三月二十四日宮中正殿に於て授與せらる。
- 一、戦歴
- 1 日露戦役 明治三十七年二月五日國軍勢頭の勅令に依りて出征し鴨綠江九連城を始とし遼陽沙河奉天等の諸會戦に従ひ千古の威勳を樹て三十八年十二月六日凱旋す。
- 2 韓國派遣 明治四十一年韓國に派遣せられ守備勤務及暴徒討伐に従事す。
- 3 西伯利亞出征 大正七年八月西伯利亞に出征し各地に轉戦し同八年七月凱旋す。
- 4 濟南出兵 昭和三年四月山東に出征し強暴なる中華民國軍に對し在留同胞を保護し帝國の威武を宣揚す。
- 三、大演習参加 明治三十五年十一月熊本縣下に於ける特別大演習、明治四十四年十一月佐賀縣下に於ける特別大演習、大正五年十一月福岡縣下に於ける特別大演習、大正九年十一月大分縣下に於ける特別大演習、大正十五年十一月佐賀縣下に於ける特別大演習、昭和六年十一月熊本縣下に於ける特別大演習。
- 四、大觀兵式参加 以下の大演習後行はれし大觀兵式参加の他大正四年昭和三年施行し大觀兵式に参加の榮を膺ふ

(所在地 大分 市)
(所屬 熊本第六師團)

(歩兵第四十七聯隊報)



(39) 歩兵第二十三聯隊軍旗略歴

(備成地 宮崎縣小諸郡五十市村
所屬 熊本第六師團)

- 一、軍旗親授 明治十九年八月十七日。
- 一、日露戰役參加 明治廿七年七月廿四日動員下令、九月十五日大本營廣島着、十二月三十一日より輸送開始、二十八年一月二十三日門司出帆榮城灣へ上陸、摩天嶺に戦ふ、二十九年六月四日熊本に凱旋。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年五月十九日動員下令、六月十一日長崎出帆、鹽大澳上陸、得利寺、蓋平、大石橋、首山堡、浪子街、林盛堡、四方臺、漢城堡、奉天等に交戦奮闘す。三十九年二月二十六日大連發、三月一日熊本に凱旋。
- 一、韓國守備 明治四十一年五月七日韓國暴徒鎮壓の命下る、五月十日門司出帆、五月十三日仁川上陸、七月九日討伐終了、四十三年一月二十九日歸營す。

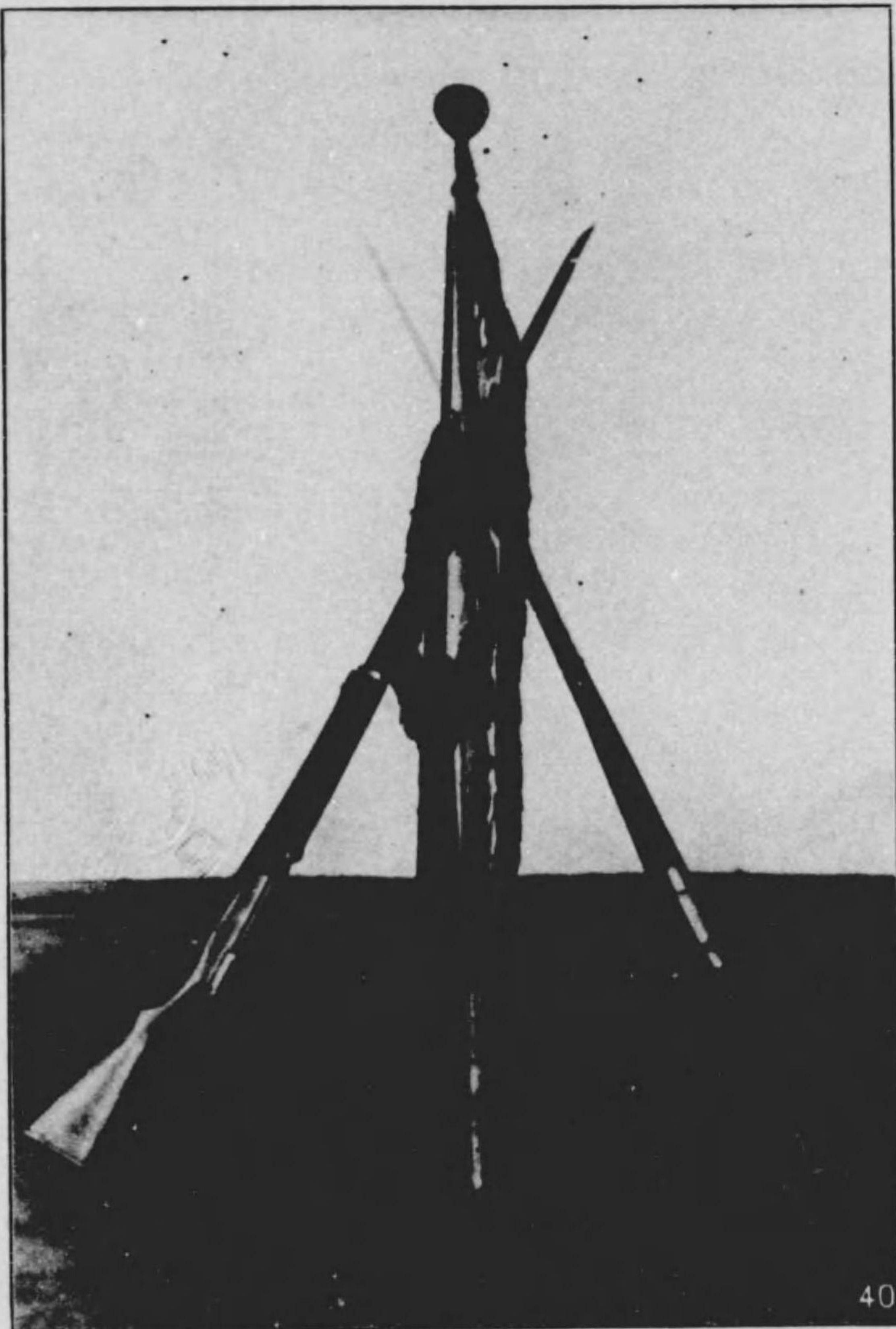
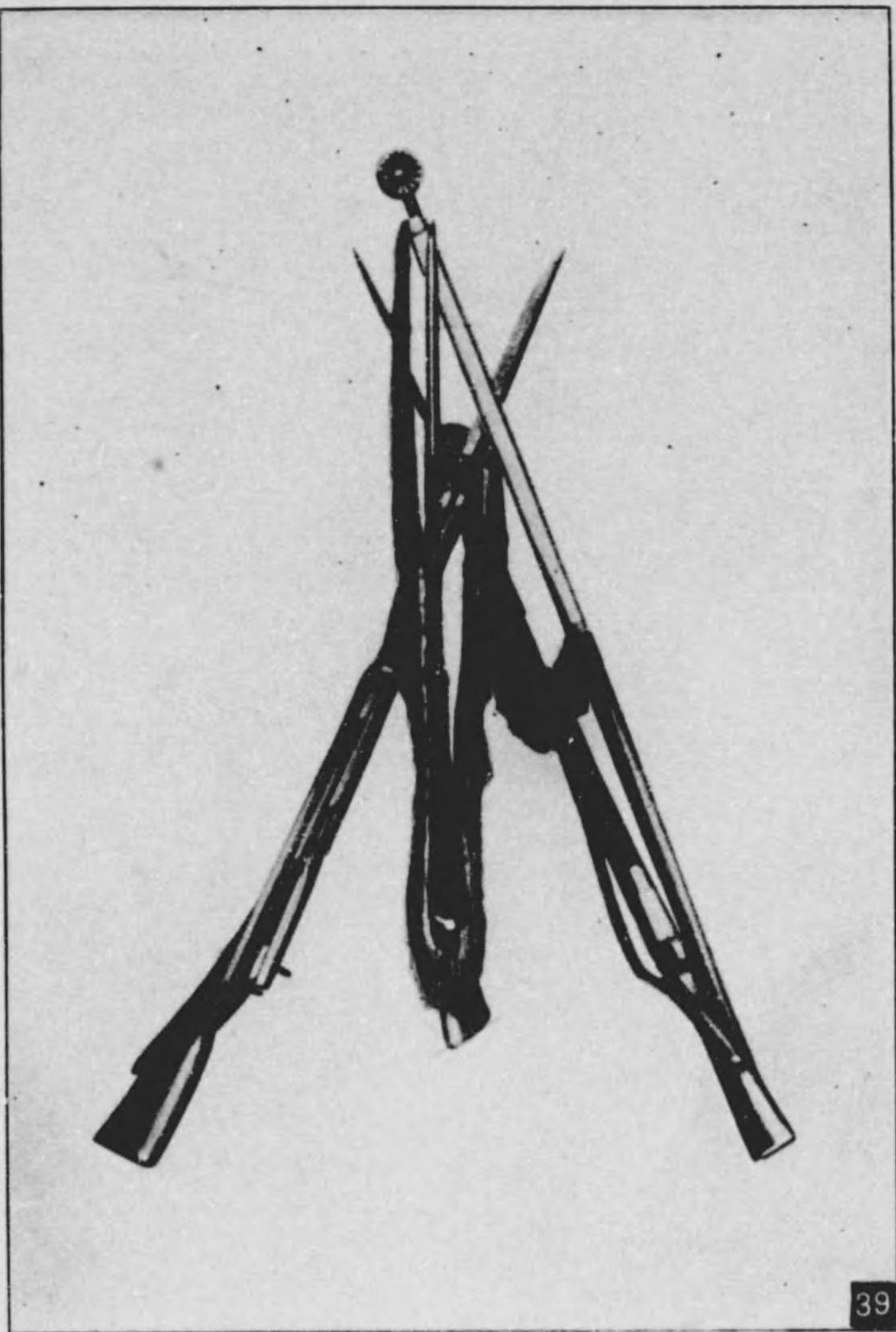
(歩兵第二十三聯隊報)

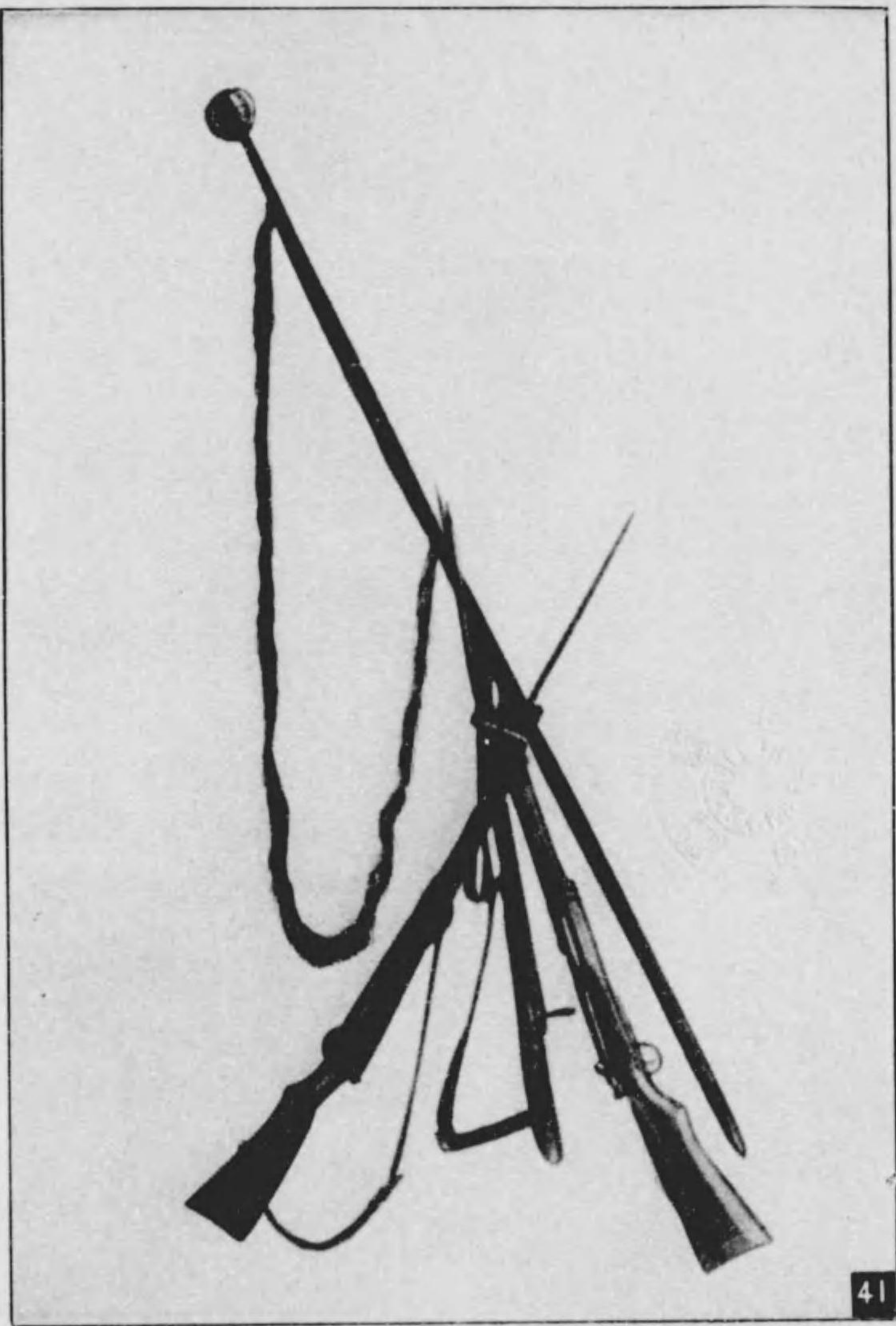
(40) 歩兵第四十五聯隊軍旗略歴

(備成地 鹿兒島市
所屬 熊本第六師團)

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年五月十三日動員下令、六月十三日鹿兒島港出帆、同十六日清國盛京省鹽大澳に上陸、爾後、蓋平、大石橋、海城、管飯寺及二台子、首山堡、遼陽、沙河、黑溝台、奉天等各地激戦に參加す。
- 三十九年三月二日城子勾出發、同十六日鹿兒島凱旋。
- 一、韓國守備 明治四十一年十月十三日鹿兒島港出發、同十九日咸鏡道守備に就く。同四十三年五月一日守備交替につき羅南出發同五日鹿兒島屯營着。
- 一、滿洲駐劄 大正十二年四月十二日滿洲駐劄のため出發任地へ向ふ。同十四年六月八日駐劄軍遼陽及大石橋出發、十一日大連出帆、十五日屯營歸着。
- 一、山東出動 昭和三年四月二十一日山東出動命令を受く、同月二十四日鹿兒島驛出發、同月二十七日青島外港に到着直に上陸開始す。同二十九日濟南守備の命を受け、青島驛出發濟南方面居留民保護の任に就く、爾後各地に南軍掃蕩五月十一日午前九時濟南城を攻略す。濟南城攻略と共に停戰命令を受くるや、第十一中隊を占領地守備に任じ、主力は屯營に集結専ら商草地の警備、便衣隊の搜索に努めたり。八月二十八日濟南出發、九月二日青島出帆、九月七日門司上陸、九月八日鹿兒島に歸營す。

(歩兵第四十五聯隊副官 本莊少佐報告)





(41) 騎兵第六聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治二十九年十一月十七日

一、日露戰役參加 明治三十七年六月九日從軍の爲め熊本を出發し、同月十日長崎港出帆、同十三日清國盛京省三官廟に上陸す。六月二十一日熊岳城の占領を始め、孤家屯、南火石山、北火石山、蓋平、大石橋、海城、牛莊、首山堡、遼陽、沙河會戰、黑溝臺、奉天、鐵嶺、開原、北邊彥等各地激戦に参加す。三十九年二月九日熊本に凱旋す。

一、韓國守備 明治四十一年十月二十三日韓國守備の爲め、熊本出發、二十四日大里出帆、二十八日駐劄地咸興府に到着す。四十二年十月十一日羅南の新兵營に移轉、四十三年五月十七日守備の大任を終へて歸營す。

一、滿洲駐劄 大正十二年三月二十日滿洲駐劄のため熊本を出發す、同二十八日公主嶺に到着守備に服す。同十四年五月十二日駐劄の大任を終へて公主嶺出發、同十九日歸營す。

(所在地 熊本 本町)
(所屬 騎兵第六師團)

(42) 歩兵第二十五聯隊軍旗略歴

一、創 立 明治三十二年十二月二十八日。(前身は獨立歩兵大隊にして明治二十九年十一月十六日創立)

二、軍旗親授 明治三十三年十二月二十二日。

三、戦歴ノ概要

1 明治三十七年十一月十五日大阪港出帆、同月二十日大連上陸。

2 會戰 明治三十七年十一月二十六日旅順松樹山、補備砲臺攻撃。自明治三十七年十二月一日至同年十二月六日

二〇三高地攻撃。自明治三十八年三月二日至同年三月八日奉天會戰。

3 明治三十九年三月八日凱旋。

四、其 他

1 明治四十二年栃木縣に行はれたる特別大演習に参加。

2 明治四十四年八月 今上陸上行幸。

3 大正四年青森縣下に行はれたる特別大演習に参加。

4 自大正六年五月至大正七年八月滿洲駐劄大正七年八月北滿洲出動兩來滿洲里警備、大正八年五月七日凱旋。

6 大正九年五月北都沿海洲派遣歩兵第二十五聯隊編成下令、六月一日フージ上陸守備、六月二十八日尾港上陸守備

7 大正九年七月薩哈噠派遣軍編成下令、同年八月亞港上陸守備、大正十年七月十六日凱旋。

8 大正十一年七月皇太子殿下行啓。

9 大正十四年十月宮城縣下に行はれたる特別大演習ニ參加。

10 昭和三年十二月二日大禮觀兵式に参加。

(所在地 北海道札幌市)
(所屬 第七師團)

(43) 歩兵第二十六聯隊軍旗略歴

(所在地) 旭川市
(所屬) 旭川第七師團

明治三十三年十二月二十六日。軍旗拜授。
同三十七年八月四日。日露戦役の爲動員下令、同十月二十二日屯營出發外征の途に就き旅順に向ふ、同十一月二十六日松樹山の攻撃に参加、同十一月二十八日—十二月六日二〇三高地及赤坂山の攻撃、吉田聯隊長戦死、大隊長以下将卒の死傷莫大なり、戦線に立ち得へき将校僅かに六名となる。同十二月十七日十八日高丁山の攻撃、同十二月二十二日十三日後揚揚滿東方高地の戦闘に参加、同十二月二十六日地瀨方面に轉進、同三十八年一月一日後山羊頭村南方高地の攻撃、同一月三日旅順陥落、同一月二十三日滿洲軍に参加の爲め遼陽に向ひ前進、同三月三日達子堡及德勝營子附近の戦闘に参加、同三月七日轉滿橋の戦闘に参加、同三月八日八家子の戦闘に参加、同三月九日十日奉天附近の激戦北陵の夜襲聯隊長丹羽中佐負傷其他将卒の死傷甚だ多し、同四月七日黑澤支隊を編成し法庫門に向し前進、(聯隊長大佐黑澤源三郎)同五月十七日獅子谷及八家子附近、同六月十五日十六日遼陽窩棚の戦闘に参加、同七月一日二日獅子谷恢復攻撃に参加、同三十九年三月五日空南上陸、凱旋歸還。日露戦役間戦死、吉田聯隊長以下千〇二十名、負傷丹羽聯隊長以下千八百三十二名。

大正六年四月二十日滿洲駐劄の爲め出發、遼陽及奉天附近の守備に任ず。
同七年八月九日應急準備下令、同八月十八日各駐劄地出發西伯利亞出征。同八年四月二十四日浦鹽出帆凱旋。同九年三月十六日尼港派遣隊小機出帆、同七月一日薩哈喇派遣軍編成下令、同八月三日北都薩哈喇嚙嚙洲に向ひ屯營出發、北樺太守備及泥港方面に行動、同十年八月二十一日全聯隊旭川歸着、同十二年五月十日—十三年六月一日薩哈喇派遣隊として各一中隊を派遣。

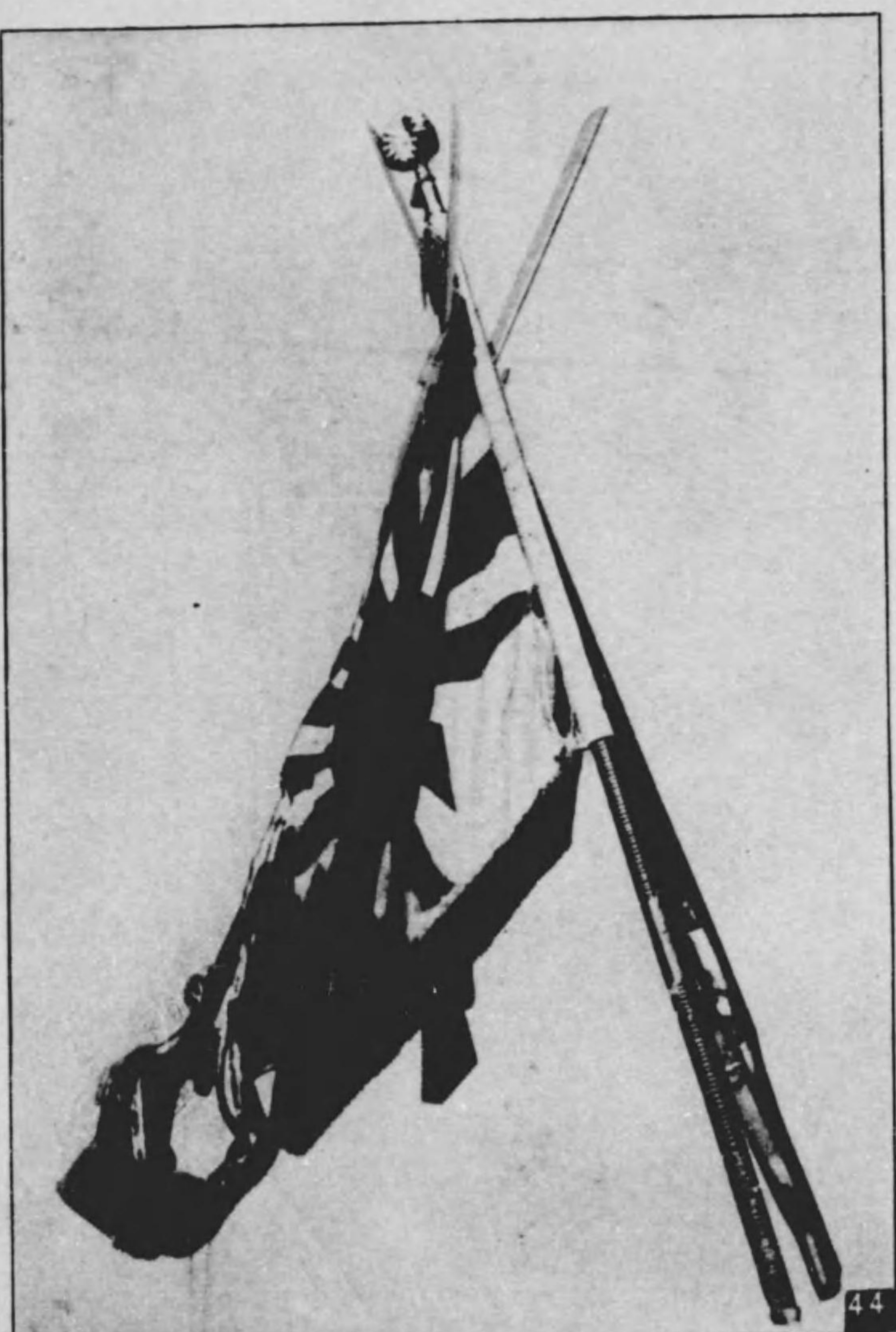
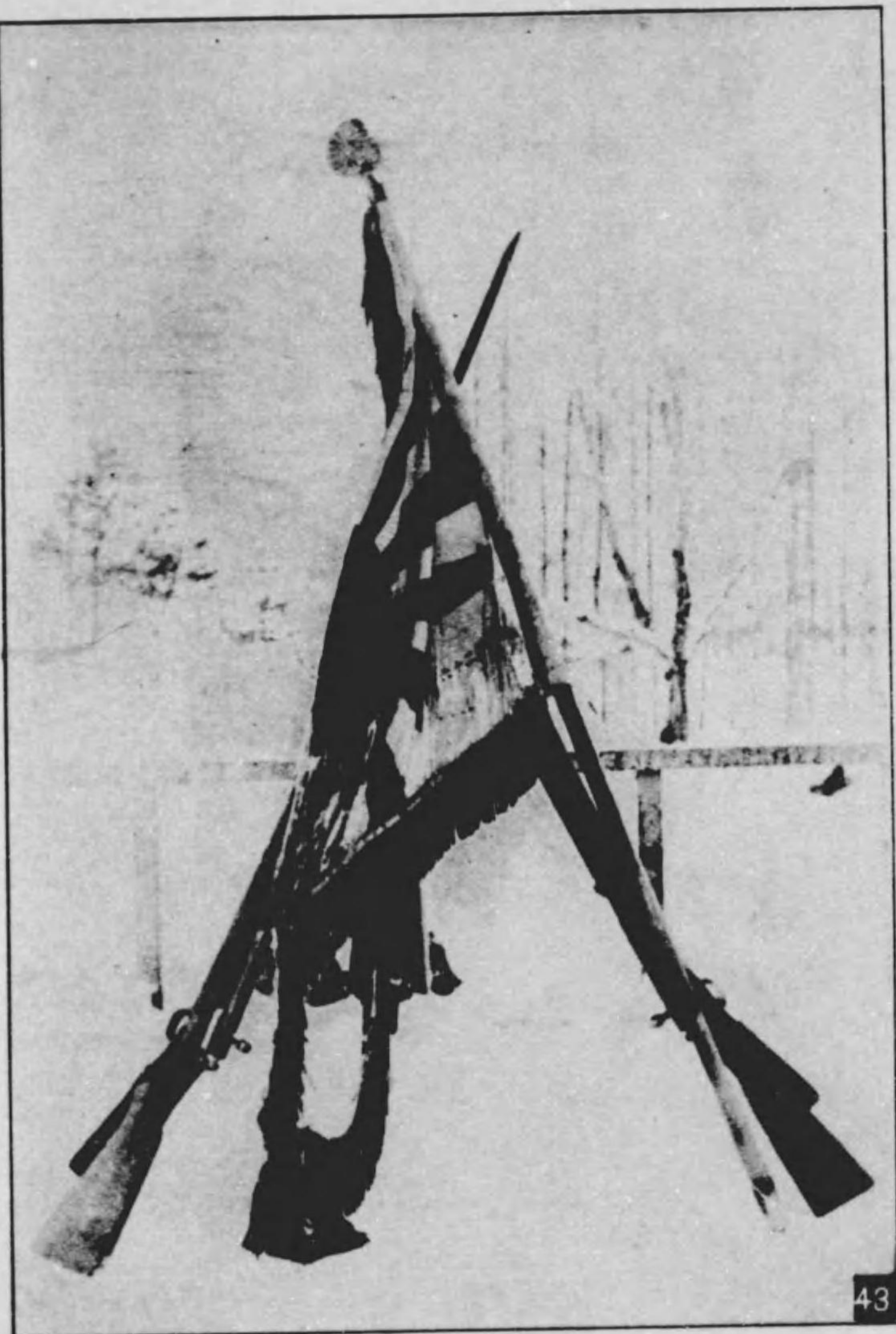
(歩兵第二十六聯隊報)

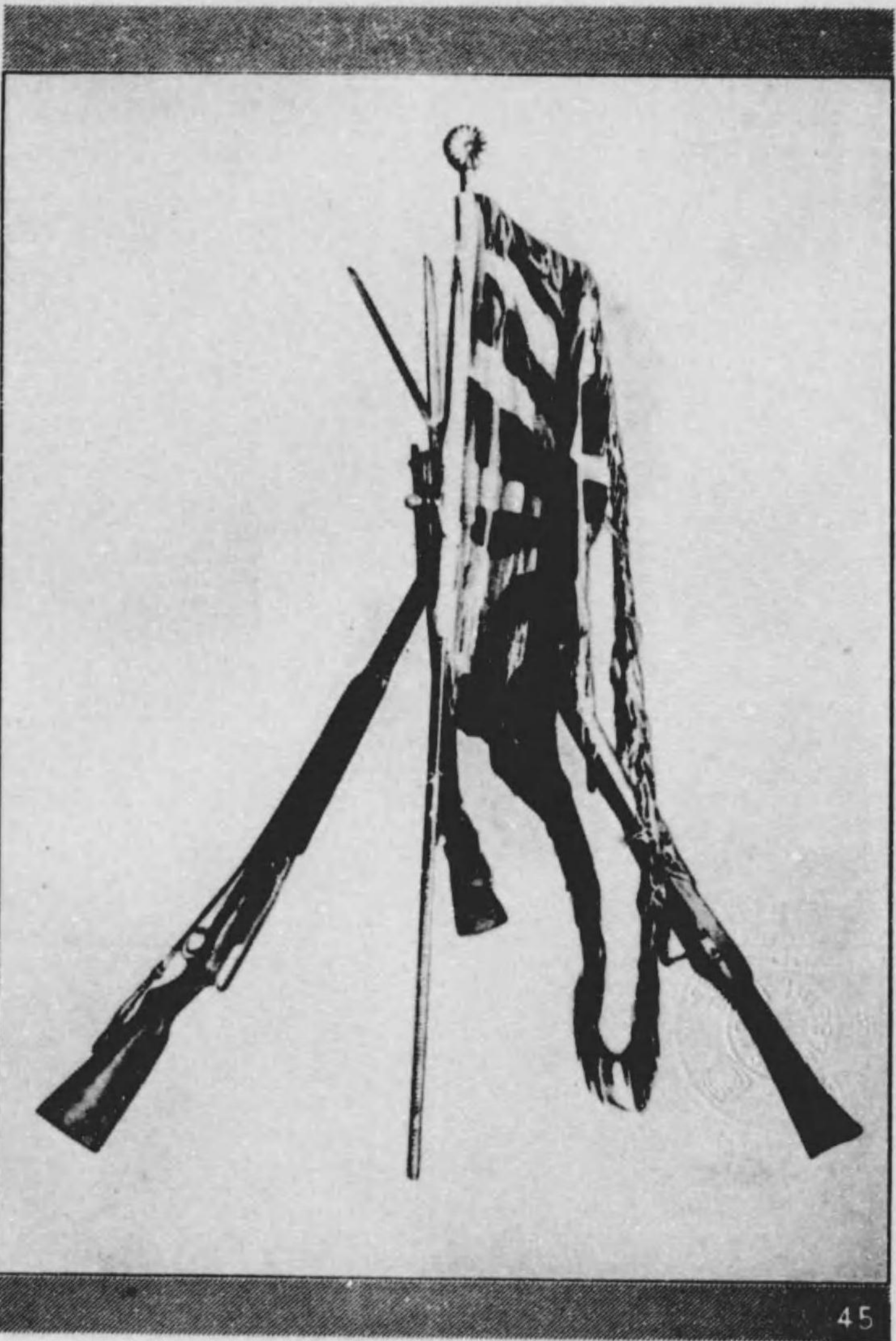
(44) 歩兵第二十七聯隊軍旗略歴

(所在地) 旭川市
(所屬) 旭川第七師團

一、軍旗 授 明治三十三年十二月二十二日。
一、軍旗拜授式 同 同 二十六日。
一、日露戦役参加 同三十七年十月二十五日出征、二〇三高地、劉家窩棚、小集屯、大集屯附近の戦闘に参加。劉家窩棚の戦闘に於て感状を賜ふ。
一、朝鮮暴徒鎮壓 自明治四十一年五月十一日至同四十二年九月五日。
一、滿洲守備 大正六年五月十日出發、大正七年八月九日柳樹屯駐劄中、應急準備下令せられ北滿に出勤、大正七年五月十三日凱旋。

(歩兵第二十七聯隊副官 伊藤豪氏報)



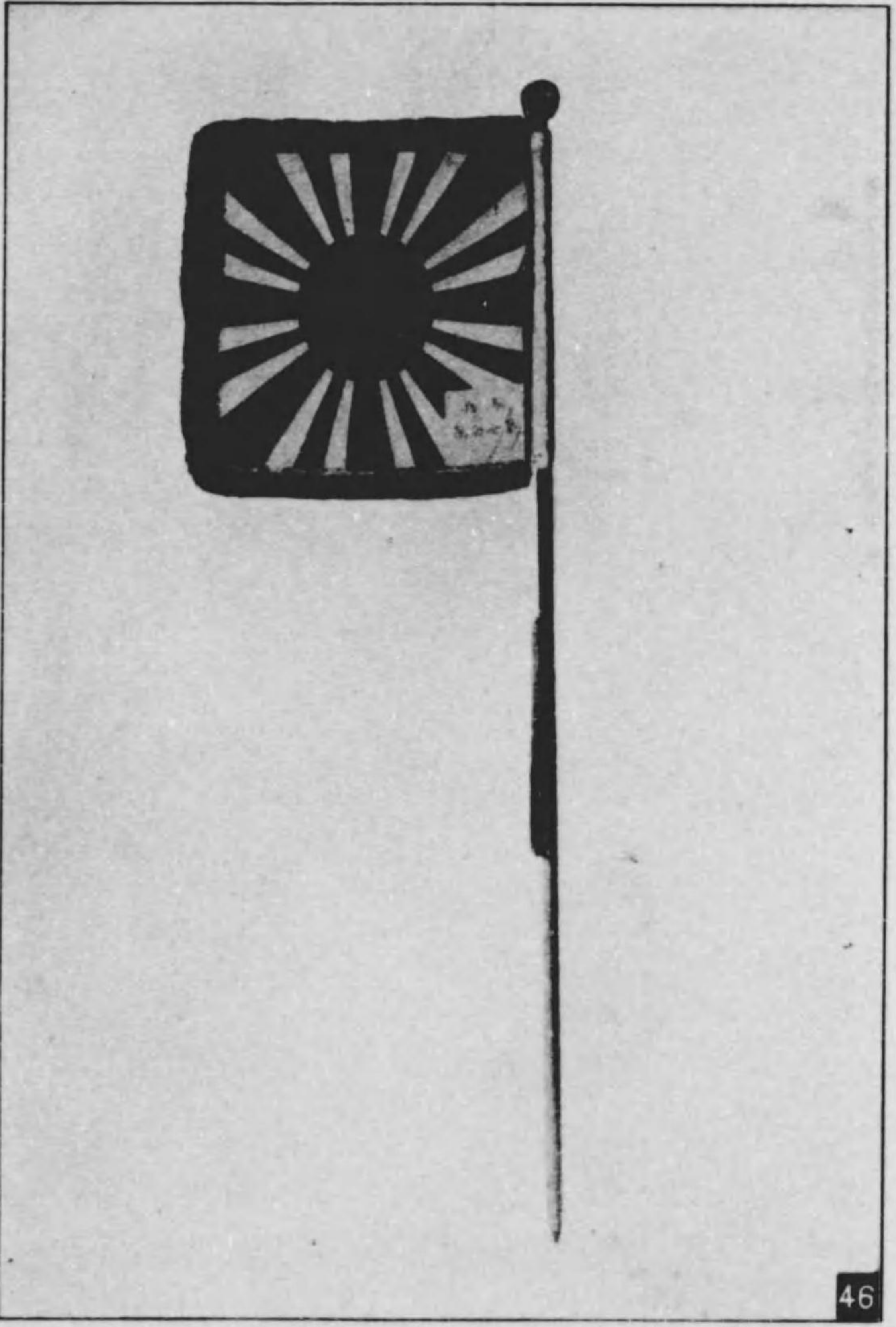


(45) 歩兵第二十八聯隊軍旗略歴

- 一、明治三十三年十二月二十六日軍旗拜受。(於旭川)
- 二、同三十七年十月二十六日征露ノ爲旭川出發。
- 三、同三十七年十一月二十一日大連上陸旅順攻圍軍に参加。
- 四、同三十七年十一月三十一日旅順要塞第三回總攻撃に参加。
- 五、同三十七年十二月五日二〇三高地奪取戦に参加。
- 六、同三十八年一月十三日旅順入城式に参加。
- 七、同三十八年二月二十七日滿洲軍奉天會戦に参加し大黃旗堡、砂嶺堡、李官堡、程三家子、劉家高棚等に轉戦。
- 八、同三十八年三月九日轉灣橋占領戦に参加。
- 九、同日北陵夜襲戦に参加。
- 十、同三十九年三月十三日旭川に凱旋。
- 十一、同年四月三十日凱旋觀兵式参列。
- 十二、大正四年十二月二日大禮觀兵式参列。
- 十三、同六年五月三日旅順駐劄。
- 十四、同七年八月九日應急準備下令。
- 十五、同年八月十九日駐劄地旅順出發西伯利亞出征。
- 十六、同年自九月十三日至十月二十日武市攻略の爲め同方面に出動。
- 十七、同八年五月二日浦鹽出發凱旋。
- 十八、同年五月十日旭川に歸還。
- 十九、昭和三年十二月二日大禮觀兵式参列。

(所在地 旭川市)
(所屬 旭川第七師團)

(步兵第二十八聯隊報)



(46) 騎兵第七聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 明治三十五年十二月二十七日。
- 二、日露戰役参加 明治三十七年十月二十二日出征、旅順、奉天、遼陽、高棚の戦闘に参加。明治三十九年二月二十七日凱旋。
- 三、滿洲駐劄 自大正六年四月十七日至大正八年四月十六日。
- 四、西伯利亞地方出動 自大正七年八月十六日至大正八年五月二日。

(所在地 旭川市)
(所屬 旭川第七師團)

(騎兵第七聯隊副官 益子熊次郎氏報)

(47) 歩兵第五聯隊軍旗略歴

(所在地 青森縣津軽郡筒井村)

- 一、軍旗 親授 明治十二年一月十六日。
- 二、日清戦役参加 明治二十七年十月二十八日出征、威海衛の戦闘に参加。
- 三、臺灣 守備 明治二十八年八月二日大連港出帆、基隆上陸、翌二十九年五月十日凱旋。
- 四、日露戦役参加 明治三十七年九月三日出征、黒溝臺、奉天の戦闘に参加。三十九年三月十日凱旋。
- 五、西伯利亞守備 大正十一年五月十日出帆、同年十月三十一日凱旋。

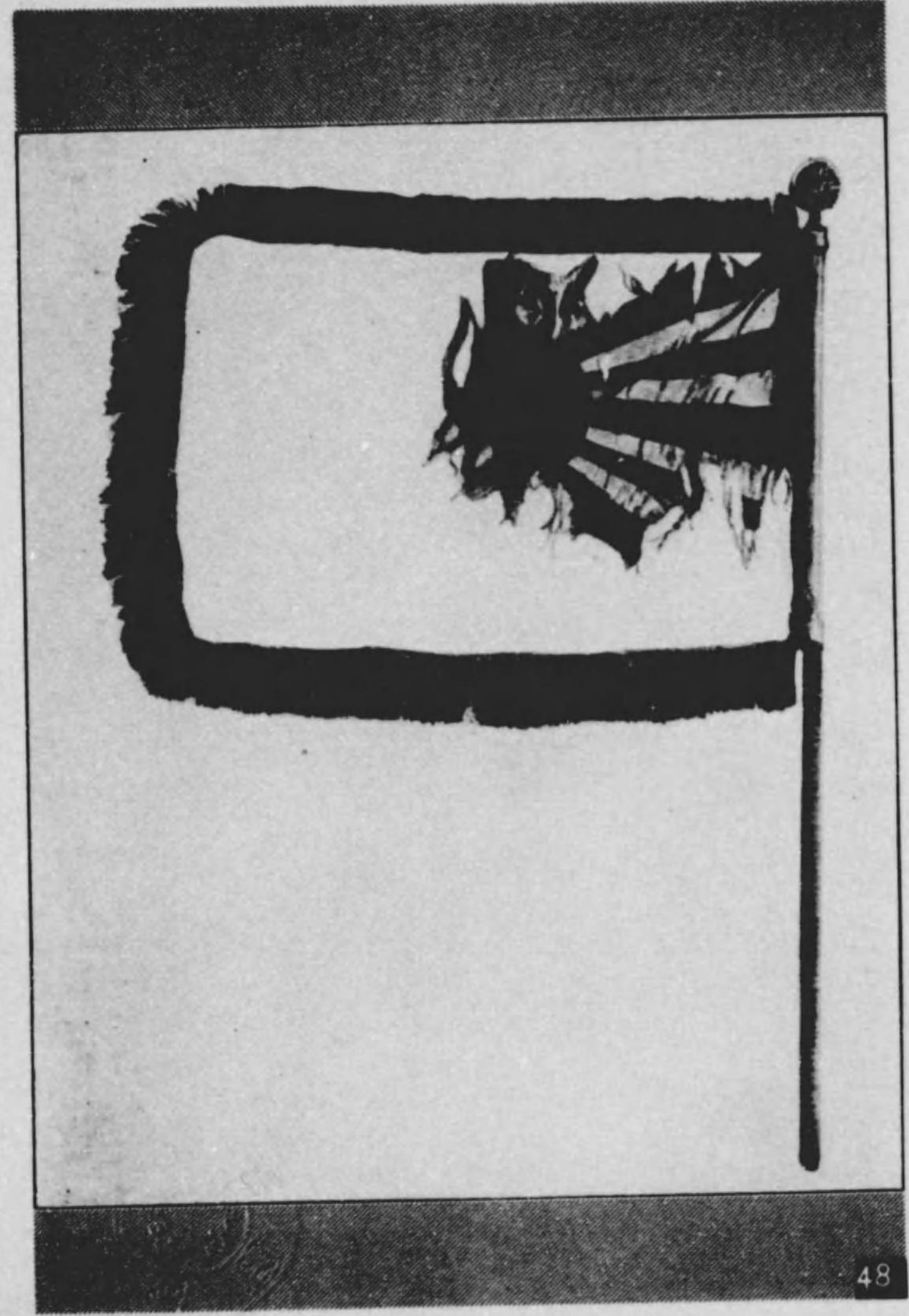
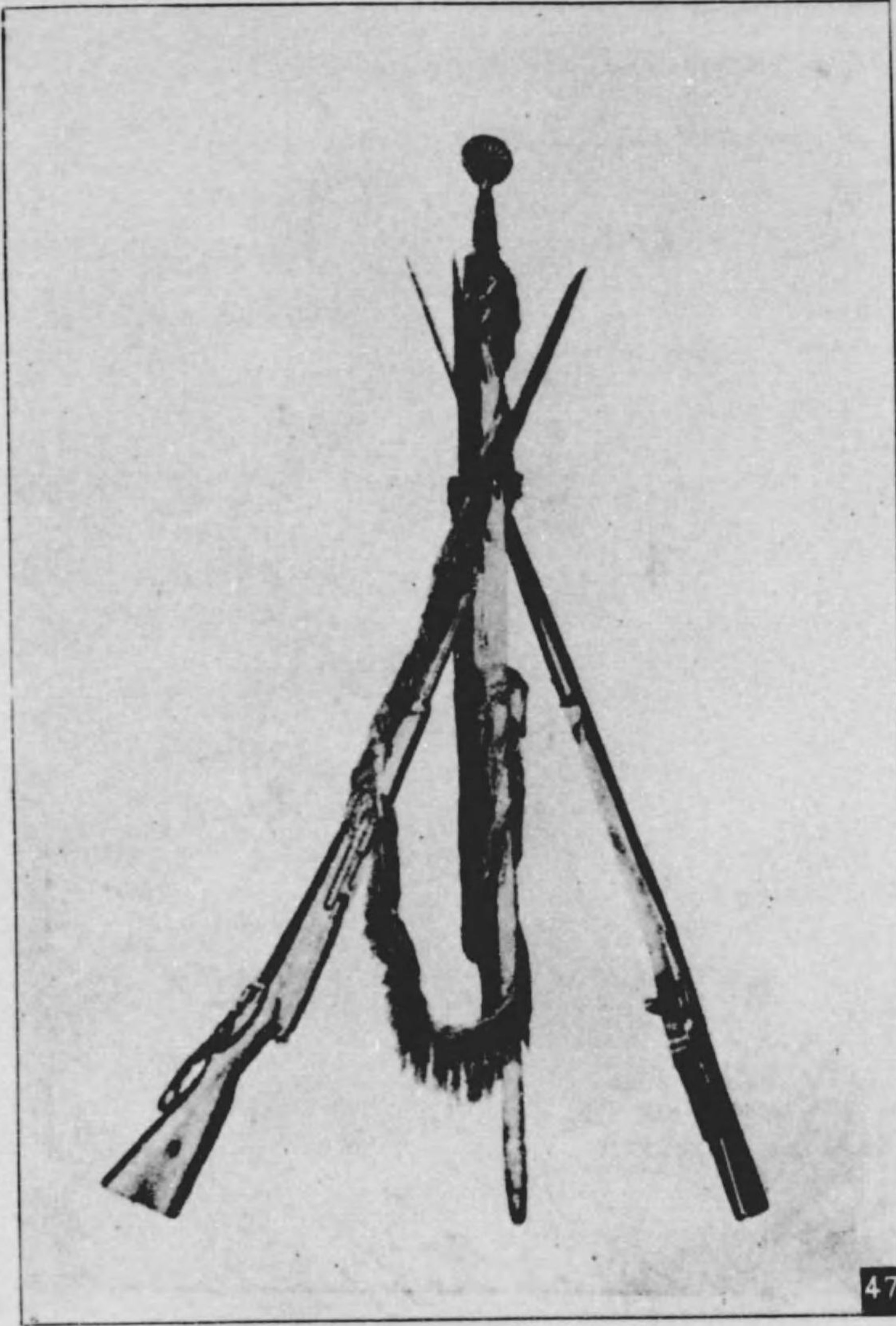
(青森歩兵第五聯隊本部報)

(48) 歩兵第三十一聯隊軍旗略歴

(所在地 青森縣中津輕郡千代村)

- 一、軍旗 親授 明治三十一年三月二十四日。
- 二、日露戦役参加 明治三十八年一月廿五日——廿九日黒溝臺會戦参加。同二月二十八日至三月十日奉天會戦に参加。同三十九年三月十八日電營に凱旋す。
- 三、朝鮮 守備 自明治四十五年四月四日至大正三年五月五日。
- 四、西伯利亞出征 自大正十一年四月二十九日至同十月十三日。

(歩兵第三十一聯隊旗手 田邊正樹氏報)



(49) 歩兵第十七聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授の様

明治十九年八月十七日宮中に於て歩兵第十七聯隊軍旗の御親授式を被行此日
天皇陛下には軍旗を執り玉ひ陸軍大臣大山巖に授け玉ふ陸軍大臣拜授して之れを旗手歩兵少尉摺澤致に授く
天皇陛下は左記勅語接を陸軍大臣に賜ひ玉座に復し玉ふ茲に於て陸軍大臣は聯隊旗手を従へ式場を退く右舉りて入御

勅語

歩兵第十七聯隊編成ルヲ告ク仍テ今其軍旗一旗ヲ授ク汝軍人等協力同心シテ益々威武ヲ宣揚シ我帝國ヲ保護セヨ
軍旗拜授後摺澤少尉ハ即時發程歸臺す。

二、仙臺鎮臺に於ける軍旗授與式

明治十九年八月二十三日仙臺河内練兵場に於て軍旗授與式を施行せらる、當日聯隊長は正装せる聯隊(第三大隊未編成)を率ゐて練兵場に整列し鎮臺司令官陸軍少將佐久間佐馬太は親しく軍旗を執り軍旗授與の勅語を奉讀して之れを聯隊長に授け聯隊長は恭しく左記の如く奉答を爲し次で軍旗に對して分列式を行ひ式を終る。

奉答

敬テ明勅ヲ奉ス臣等死力ヲ竭シ誓テ國家ヲ保護セン

三、戦役の概要

一、明治二十七八年戦役 明治二十七年九月二十五日充員下令第二軍の戦闘序列に入る同二十八年一月三十日より二月六日に至る間山東省、虎山、羊亭集及威海衛附近の戦闘に参加同二十八年七月十一日より同年十月二十八日に至る間臺灣に轉戦し引續き同二十九年四月二十九日に至る間守備の任務に服す。明治二十九年五月八日仙臺に凱旋。

二、明治三十七、八年戦役 明治三十七年六月七日充員下令、第三軍の戦闘序列に入り、同年十二月二日より同月五日に至る間旅順南端山高地攻撃に参加す、明治三十八年一月二十五日より同三十日に到る間黑溝臺の戦闘に参加し悪戦苦闘最も聯隊の眞面目を發揮し感状を受く。

明治三十八年四月三十日東京青山練兵場に於て施行せられたる陸軍凱旋大觀兵式に参列す。
四、其他重要事項 明治三十一年六月五日より同年九月二十日に亘る間に於て秋田市に轉營せり、同年十月一日第二師團を脱して新設第八師團に入り歩兵第十六旅團に編制せらる。

皇族 行啓
イ、明治三十四年八月十三日閑院宮載仁親王殿下聯隊兵營に蒞臨あらせらる
ロ、同年九月二十九日小松宮彰仁親王殿下聯隊兵營に蒞臨あらせらる
ハ、同四十二年九月二十一日皇太子嘉仁親王殿下東北地方に行啓の御途路秋田市に御泊泊あらせられ當隊へ行啓あらせらる

ニ、大正七年二月二十二日北白川宮成久王殿下臺臨あらせらる
朝鮮 守備 明治四十五年三月二十七日より大正三年四月二十八日に亘る間朝鮮守備の任務に服し羅南、會寧附近を守備せり。
西伯利出兵 大正十年十二月十四日より同十一年十一月二日に亘る間西伯利に出兵し警備の重任に服せり。

(歩兵第十七聯隊報表)

(50) 歩兵第三十二聯隊軍旗略歴

明治二十九年五月 歩兵第三十二聯隊を山形市に設置の旨令せらる。九月二十五日陸軍歩兵中佐若元真英聯隊長に補せられ次で各幹部の補職行はる。十二月一日聯隊本部及第一大隊編成さる。

明治三十一年三月二十七日宮中に於て軍旗を授與せらる。
明治三十五年五月十五日韓國駐劄隊として第一大隊當地出發。明治三十七年六月七日午前十一時五十分動員を令達せらる。九月二日聯隊は屯營出發征途に上る。十月七日大阪出帆、九日一十六日清國柳樹屯上陸、明治三十八年自一月二十五日至二十九日黑溝臺附近の會戦に參與、戦死將校以下二百四十四名、負傷六百八十八名。

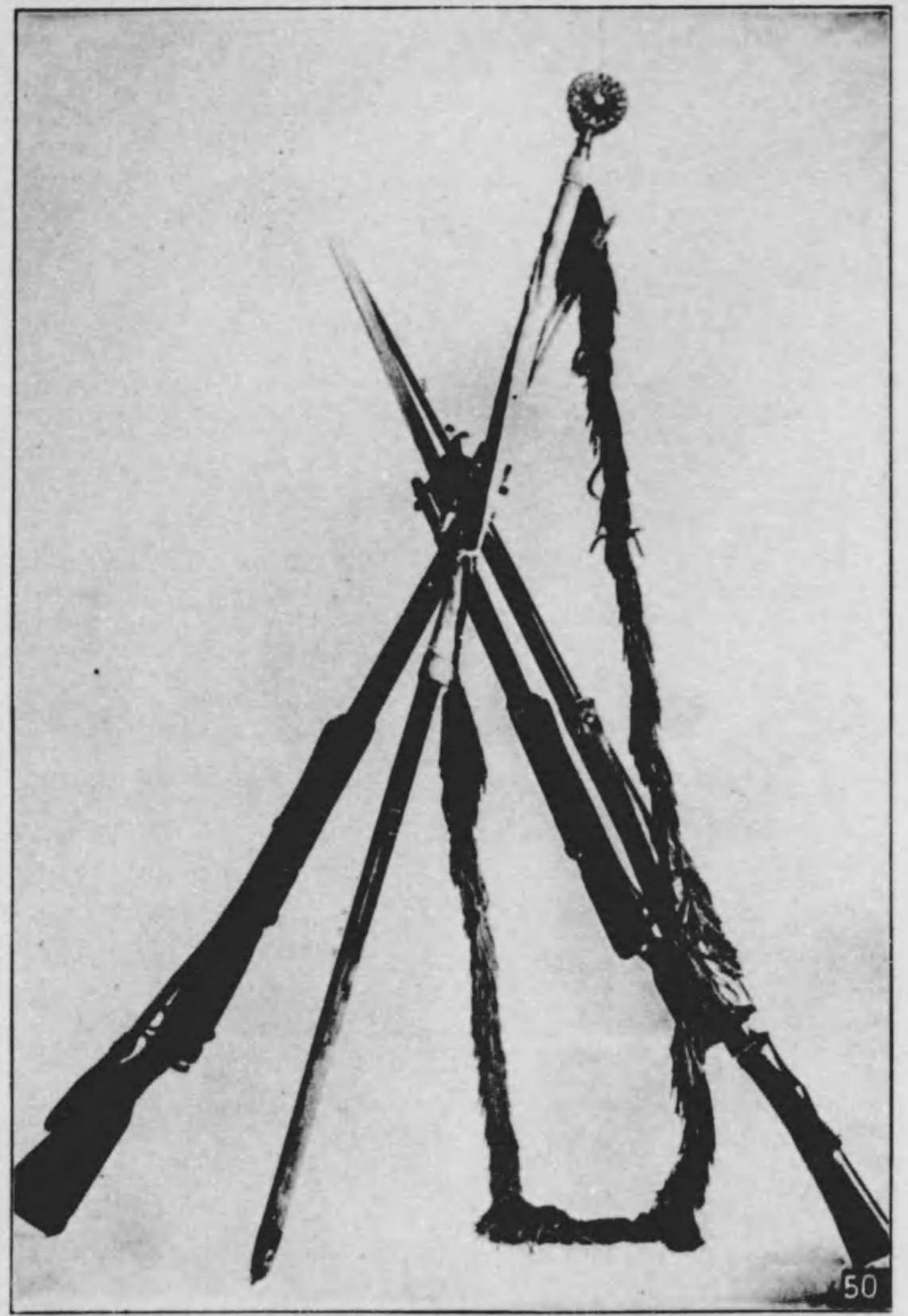
自二月二十八日至三月十一日奉天附近の大會戦に参加、戦死將校以下五百四十二名。
明治三十九年三月十九日凱旋山形歸着、三月二十八日復員完了、四月三十日陸軍凱旋大觀兵式に参列。
明治四十一年九月十七日東宮殿下聯隊に行啓營内御巡視、野外演習御上覽。
明治四十四年自四月二十三日至二十四日韓國駐劄の爲山形出發、明治四十五年四月守備勤務交代終了歸還。

大正十一年六月十三日薩哈噠派遣編成下令。
大正十四年十二月十二日攝政宮殿下御親閱のため行啓せらる。
昭和二年二月五日聯隊長倉茂三藏大喪儀参列の爲軍旗を奉じ東京に出張す、十一月十日聯隊長堀之内匠大輔親兵式参列の爲軍旗を奉じ東京に出張す。

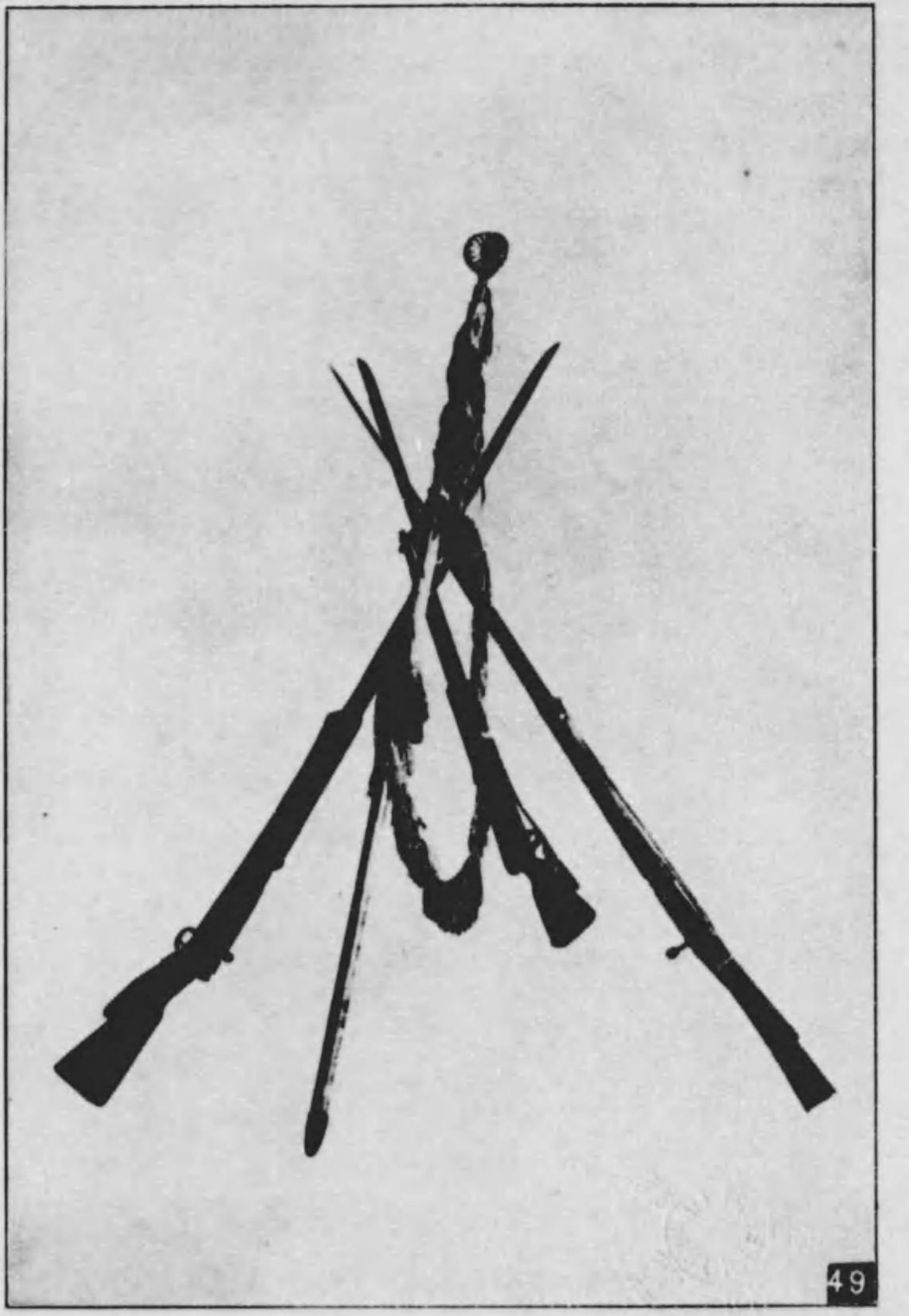
(備後地 山形市 所屬 第八師團)

(歩兵第三十二聯隊報)

(歩兵第十七聯隊報)



(備後地 山形市 所屬 第八師團)



(備後地 山形市 所屬 第八師團)

(51) 騎兵第八聯隊軍旗略歴

(備成地 青森縣中津輕郡藤崎村)

- 一、軍旗 親授 明治三十二年十二月二十七日。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年九月二日出征黑溝臺及奉天會戰に參加。同三十九年三月十三日凱旋。
- 一、朝鮮駐劄 自明治四十五年四月十五日至大正三年四月五日。
- 一、西比利亞派遣 自大正十一年五月一日至同年十月十六日。

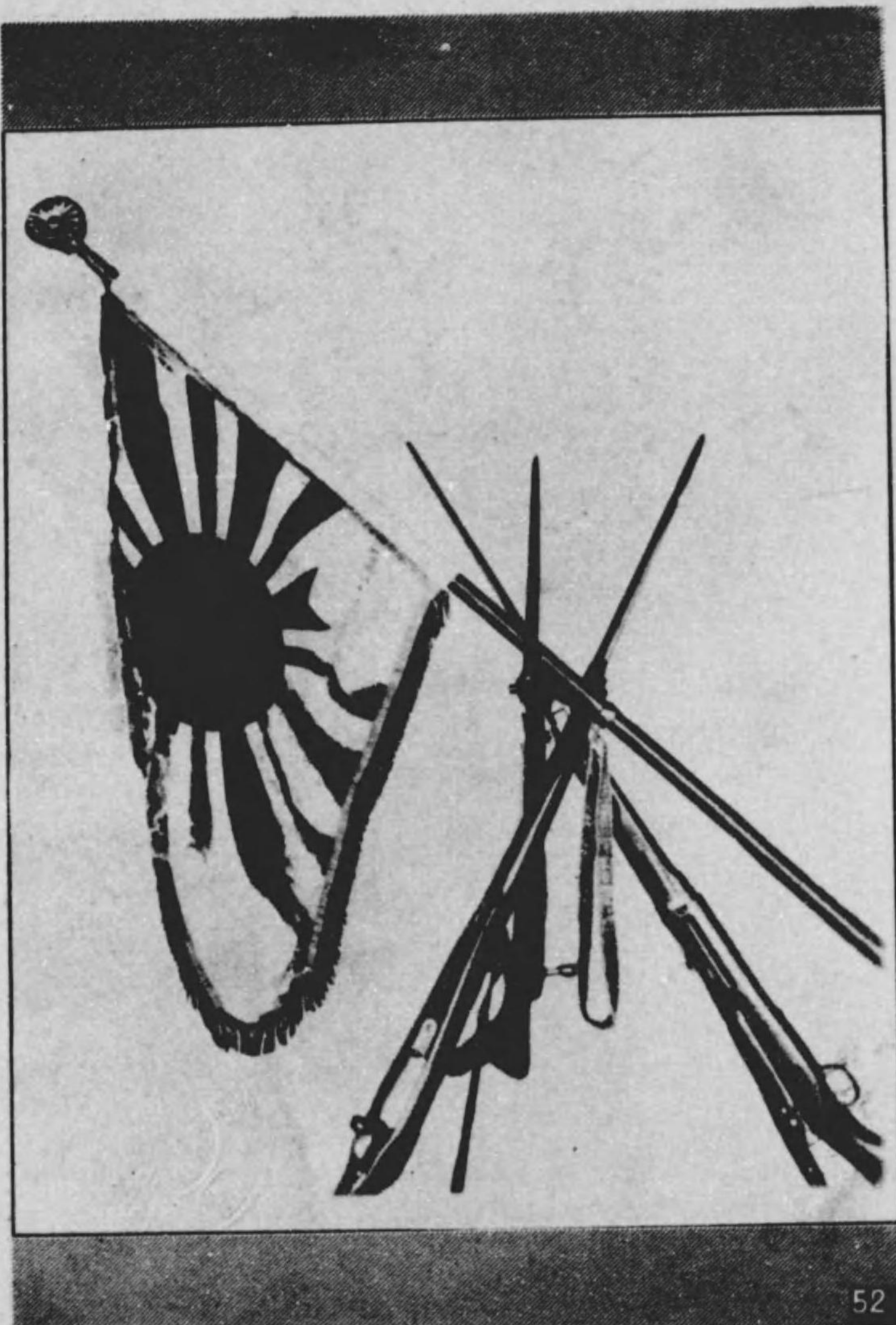
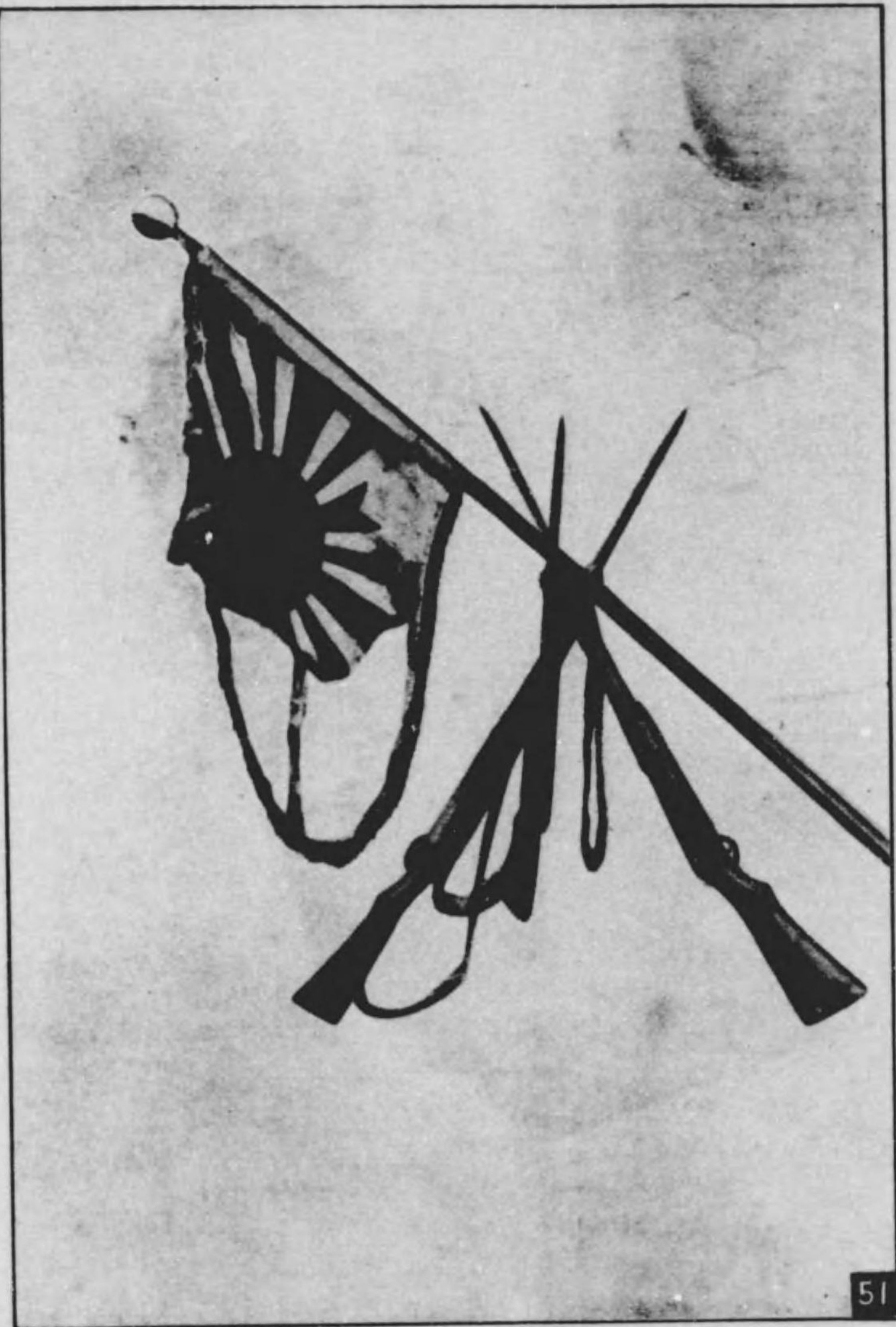
(騎兵第八聯隊旗手 正角竹次郎氏報)

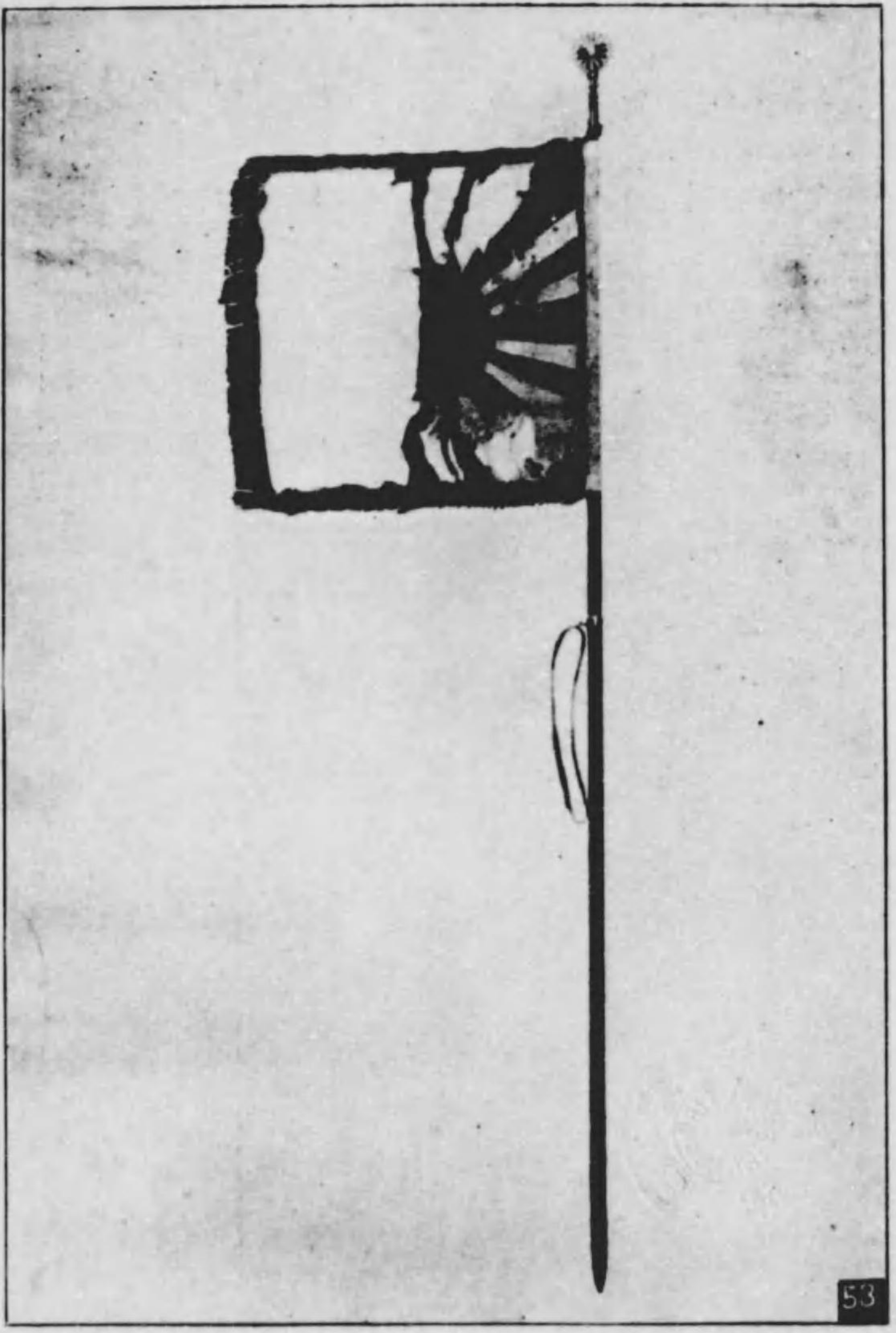
(52) 騎兵第二十三聯隊軍旗略歴

(備成地 岩手縣岩手郡野川村)

- 一、軍旗 親授 明治四十三年九月二十二日。

(騎兵第二十三聯隊報)



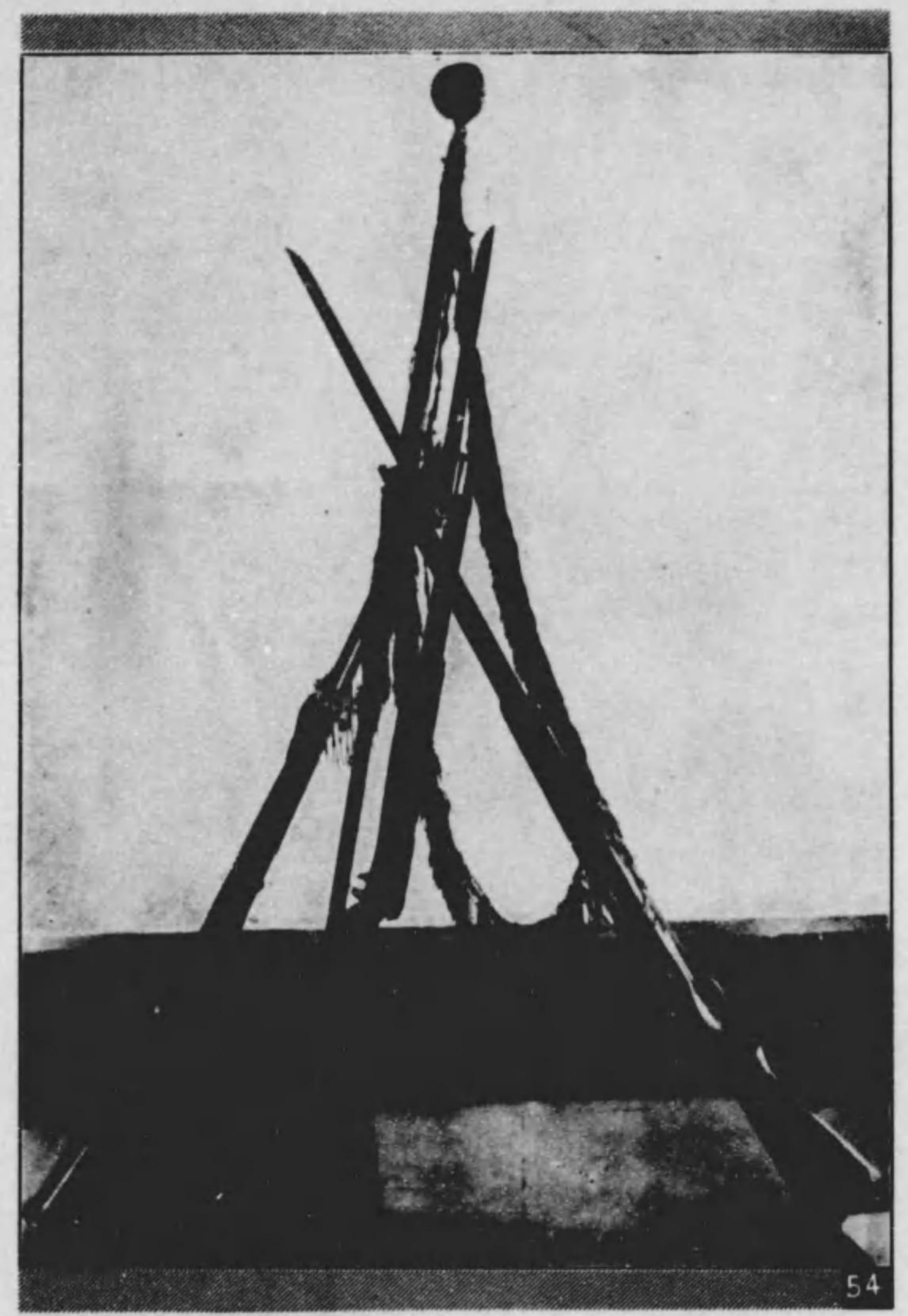


(53) 騎兵第二十四聯隊軍旗略歴

明治四十二年九月二十二日午前十時三十分宮中正殿に於て親授す。

同年九月二十三日午後一時軍旗授與式を舉行す。
 同年九月二十五日より同九日に至る旅團野營演習に参加す、同四十三年十月十二日より同二十二日に至る騎兵特別演習に参加す、同年十月二十四日より十一月五日に至る明治四十三年度機動演習に参加す、同四十四年九月六日より同十日に至る聯隊行軍に参加す、同年十月十八日より十一月七日に至る第八師團秋季演習に参加す、同四十五年九月十三日御大喪儀に参加す、大正二年十月一日より同二十四日に至る騎兵特別演習に参加す、同三年九月十一日後藤野附近聯隊行軍に参加す、同十月十五日より同二十五日に至る旅團野外演習に参加す、同四年九月一日より同九日に至る聯隊行軍に参加す、同九月二十三日より同三十日に至る旅團野外演習に参加す、同十月十八日より同二十九日に至る秋季演習及特別大演習に参加す、同十二月二日大禮觀兵式に参加す、同五年六月三十日より七月九日に至る聯隊野營演習に参加す、同八月二十五日より同二十八日に至る聯隊行軍に参加す、同九月二十四日より同二十七日に至る旅團野外演習に参加す、同十月十七日より十一月四日に至る秋季演習に参加す、同六年七月十三日より同十八日に至る聯隊野營演習に参加す、同九月二十四日より同三十日に至る旅團野營演習に参加す、同十月十四日より同二十三日に至る旅團秋季野外教練に参加す、同十月十七日より十一月四日に至る秋季演習に参加す、同六年七月十三日より同十八日に至る聯隊野營演習に参加す、同八月二十五日より同二十八日に至る聯隊行軍に参加す、同九月二十四日より同二十七日に至る旅團野外演習に参加す、同十月十七日より十一月四日に至る秋季演習に参加す、同六年七月十三日より同十八日に至る聯隊野營演習に参加す、同八月二十五日より同二十八日に至る聯隊行軍に参加す、同九月二十四日より同二十七日に至る旅團秋季野外教練及機動演習に参加す、同八月二十五日より同二十八日に至る聯隊野營演習に参加す、同八月十一日より同二十八日に至る旅團秋季野外教練及機動演習に参加す、同九月十五日より同二十六日に至る旅團野外教練及師團對抗演習に参加す、同十年十月二十七日より十二月二日に至る秋季演習に参加す、同十一年十月七日より同十六日に至る旅團秋季野外教練に参加す、同十二年十月十五日より同十一月三日に至る旅團野外教練及師團秋季演習に参加す、同十三年十月二日より同十八日に至る旅團諸兵連合演習及騎兵特別演習に参加す、同十月二十五日より十一月六日に至る第八師團秋季演習に参加す、同十四年十月七日より同二十八日に至る第八師團秋季演習及特別大演習に参加す、同十五年十月二十五日より同三十一日に至る旅團騎兵連合演習に参加す、昭和二年二月七、八日の御大喪儀に参加す、同十月十八日より十一月一日に至る第八師團秋季演習に参加す、同三年九月二十七日より十月三日に至る騎兵特別演習に参加す、同十月四日より十月八日に至る特別大演習に参加す、同十一月二日大禮觀兵式に参加す、同四年十月十七日より十月二十九日に至る第八師團秋季演習に参加す、同五年二月二十日に於ける軍旗保存狀況現在別葉の如し(寫眞)、同十月十七日より十月二十日に至る騎兵第三旅團騎連合演習に参加す、同六年九月廿三日より九月廿六日に至る聯隊行軍に参加す、同十月十八日より十一月一日に至る第八師團秋季演習に参加す。

(所成地 岩手縣岩手郡野川村 所屬 第八師團)



(54) 歩兵第七聯隊軍旗略歴

明治八年九月九日。

一、軍旗親授 明治八年九月九日。
 一、西南役参加 明治十年二月十四日西南征討令下る。二月廿二日電管出發、西南各地に轉戦す。九月廿四日虜虜平定、十月廿三日凱旋完了。

一、日清戰役参加 明治廿七年八月四日勅令下る。同月廿九日電管出發征途に上る、九月七日宇品解纜、十三日仁川上陸、同廿六日黃州に進み、爾後安州、安東縣を守備す、十二月十一日析木城占領、海城の攻略、紅瓦寨の激戦、沙河沿の奮戦、鞍山占の占領、牛莊城、苗家店、田庄臺等の各激戦に参加す。廿八年四月廿一日平和克復、七月九日凱旋す。

一、威海衛守備 明治卅年五月二日威海衛守備のため派遣さる。(滞在約一年)
 一、日露戰役参加 明治卅七年五月九日勅令下る。六月廿八日電管出發す。七月廿五日柳屯上陸戦線に急行す。徐家屯、團子山、盤龍山、虎頭山、一戸堡壘、望臺、奉天大會戰等に参加し四方臺、彰陽店、高力店、八家子、小辛屯等に奮闘す。卅八年十月十六日平和克復、卅九年一月廿三日凱旋完了す。

一、朝鮮駐劄 大正三年四月二日朝鮮駐劄として屯管出發守備地向ひ在鮮二ヶ年間服務す。

(所成地 金州 所屬 第九師團)

(陸軍省蔵書複製)

(55) 歩兵第三十五聯隊軍旗略歴

(所屬地 富山市 所屬 金澤第九師團)

- 一、軍旗親授 明治卅一年三月廿四日。
- 一、日露戰役參加 明治卅七年六月卅日出征四形山、旅順、八家子、四方臺等の戦闘に参加、明治卅九年一月廿八日凱旋。
- 一、朝鮮守備 大正三年四月より同五年四月迄。
- 一、四伯利守備 大正四年四月より同十一年九月迄。
- 一、富山移轉 大正十四年五月三日。 以上

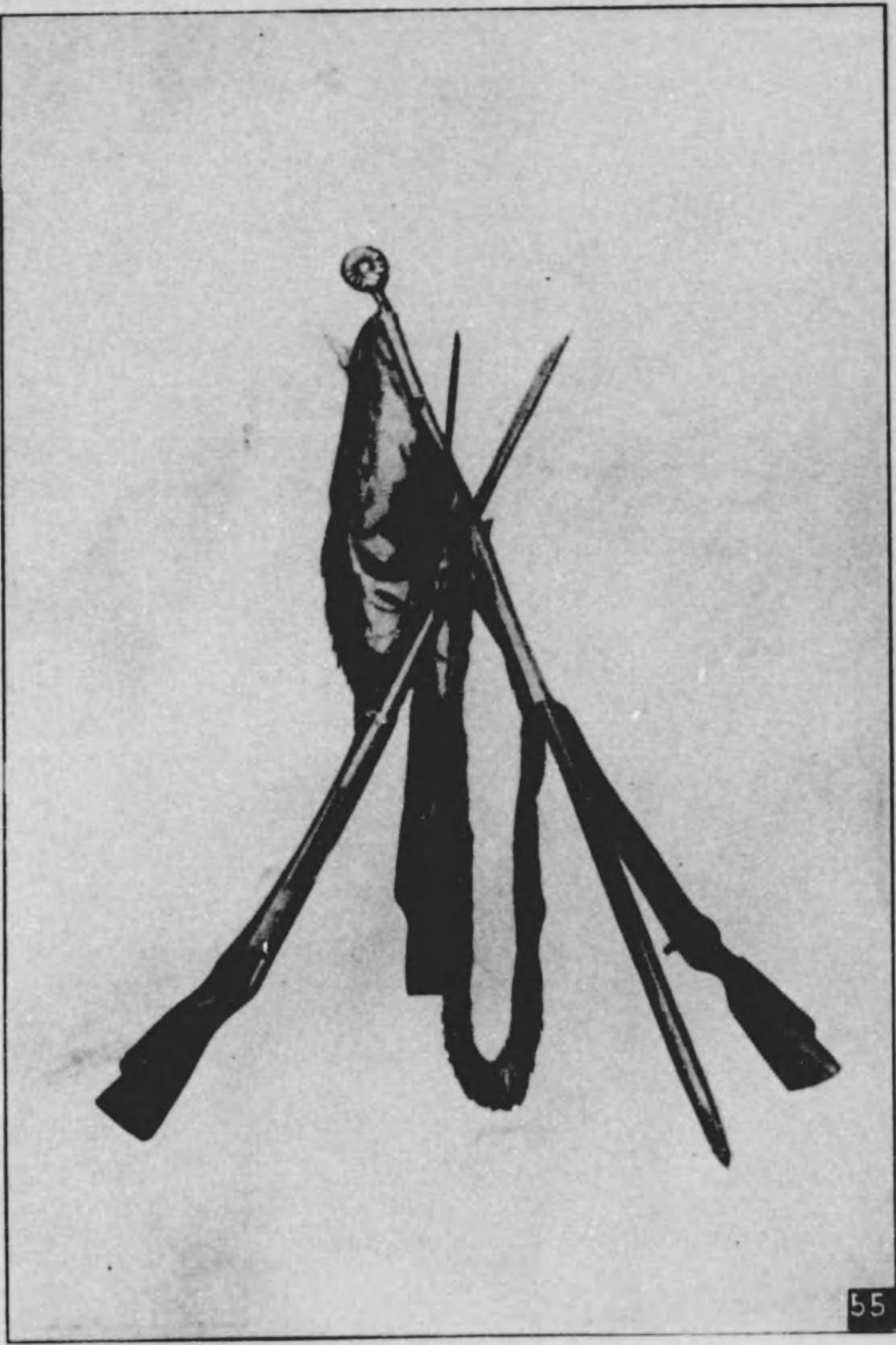
(歩兵第三十五聯隊旗手 橋口少尉氏報)

(56) 歩兵第十九聯隊軍旗略歴

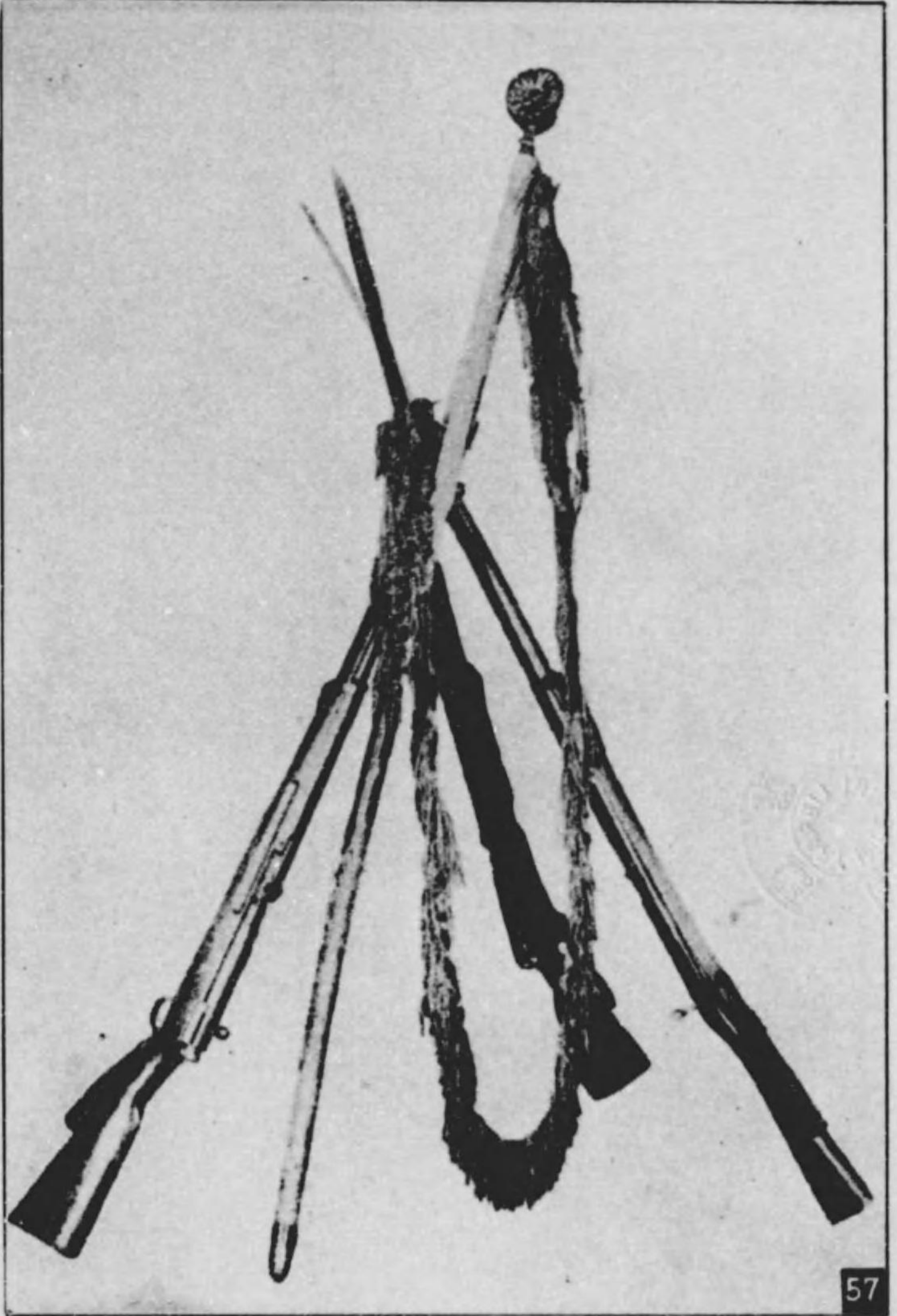
(所屬地 福井縣敦賀郡栗野村 所屬 金澤第九師團)

- 一、軍旗親授 明治十九年八月廿三日。
- 一、日清戰役參加 明治廿七年八月四日動員下令、九月二日出發、同十六日仁川上陸、板木城、海城、缸瓦寨、鞍山站、牛莊城、田庄臺等に各轉戦す、同廿八年四月廿一日平和克復、同七月凱旋。
- 一、日露戰役參加 明治卅七年五月九日動員下令、六月廿七日出征、七月十八日柳樹屯上陸四形山奮取旅順總攻撃第一、二、三回參加、奉天總攻撃にも參加等各地に轉戦す、卅八年十月十六日平和克復卅九年一月凱旋す。
- 一、滿洲守備 大正八年四月十七日滿洲駐劄の目的にて屯營出發、同廿一日大連上陸各地に守備の任に就く、同十年四月十九日屯營に歸還す。
- 一、移 動 明治四十一年十一月一日第十六師團管下に入る。大正十四年五月一日第九師團管下に入る。

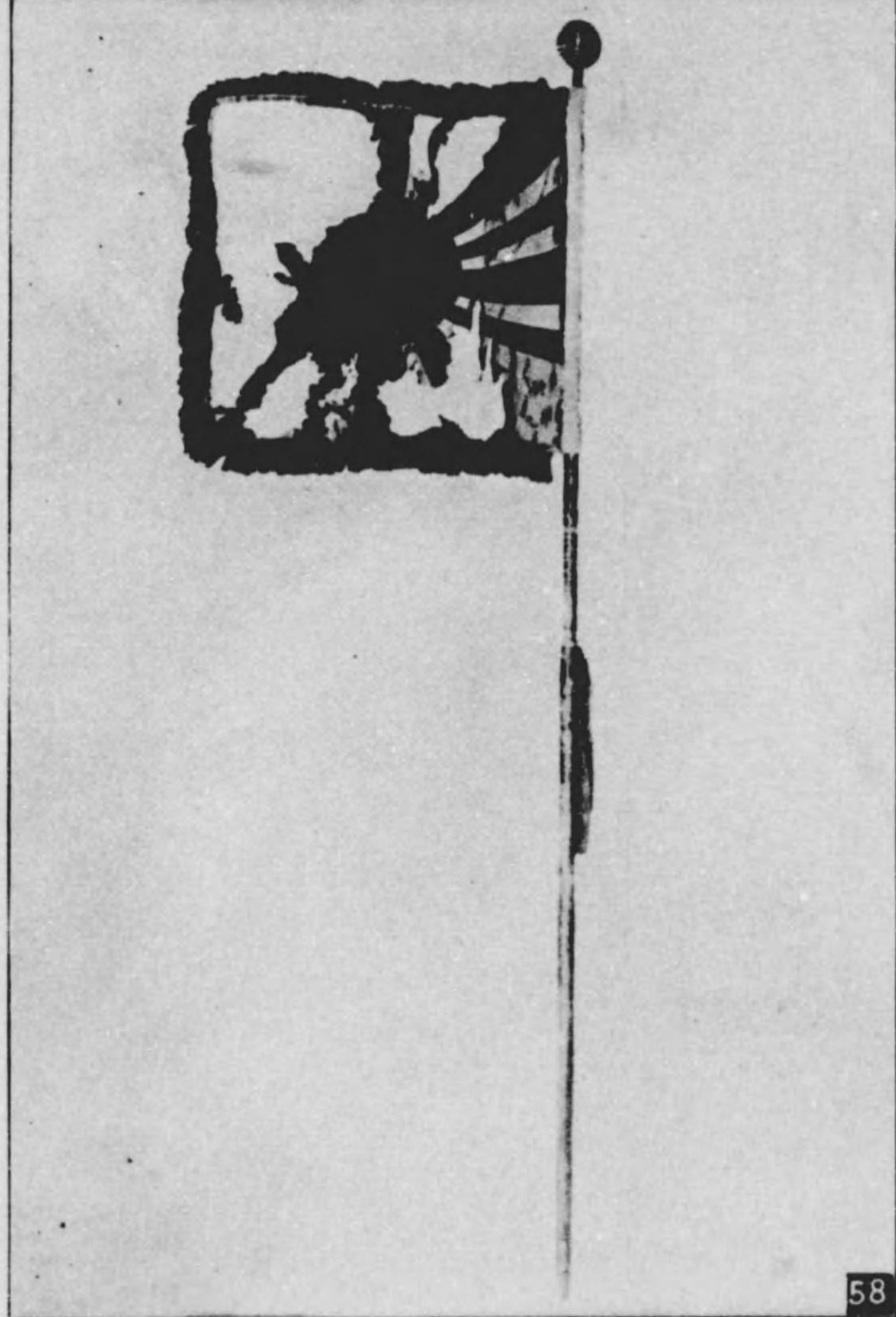
(歩兵第十九聯隊副官 小出信義氏報陸軍省藏書披露)



軍旗略歴
 一、明治十九年八月二十三日
 軍旗親授
 二、明治廿七年八月四日
 日清戰役參加
 三、明治廿八年七月
 日露戰役參加
 四、明治卅七年五月九日
 日露戰役參加
 五、明治卅九年一月
 日露戰役參加
 六、大正三年四月
 朝鮮守備
 七、大正四年四月
 四伯利守備
 八、大正十四年五月三日
 富山移轉



57



58

(57) 歩兵第三十六聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親 授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戦役参加 同三十七年五月九日勅員下令、第三軍に編入せられ旅順、奉天附近の戦闘に参加。同三十九年一月十五日凱旋完了、同月廿二日復員完結。
- 一、朝鮮 駐 劄 大正二年四月一日出發、同五年五月十五日屯營歸着。
- 一、西比利亞 守 備 自大正十年四月一日至同十一年九月卅日。
- 一、關東大震災 警 備 自大正十二年九月六日至同年十月廿六日。
- 一、〇〇〇〇 目下〇〇〇〇せられつゝあり秘につき遺傳乍ら詳記し得ず。

(繪成地 福井縣丹生郡立待所 所屬 金澤 第九師團)

(歩兵第三十六聯隊旗手帳)

(58) 騎兵第九聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親 授 明治三十二年十二月二十七日。

(繪成地 金澤 第九師團)

(陸軍省文書課藏書)

(59) 歩兵第三十九聯隊軍旗略歴

(前代地 經路市)
(所屬 經路第十師團)

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
- 二、日露戰役參加 明治三十七年五月七日出征、岫巖、分水嶺、柞木城、遼陽、沙河、奉天、開原の戦闘に参加同冊九年二月六日凱旋。
- 三、滿洲守備(第一回) 自明治四十年十月廿一日至同四十二年十月六日。
- 四、滿洲守備(第二回) 自大正十四年五月卅一日至昭和二年四月廿二日。
- 五、山東出動 昭和二年七月十二日出動、同二年九月七日内地歸還。(歸還延期)

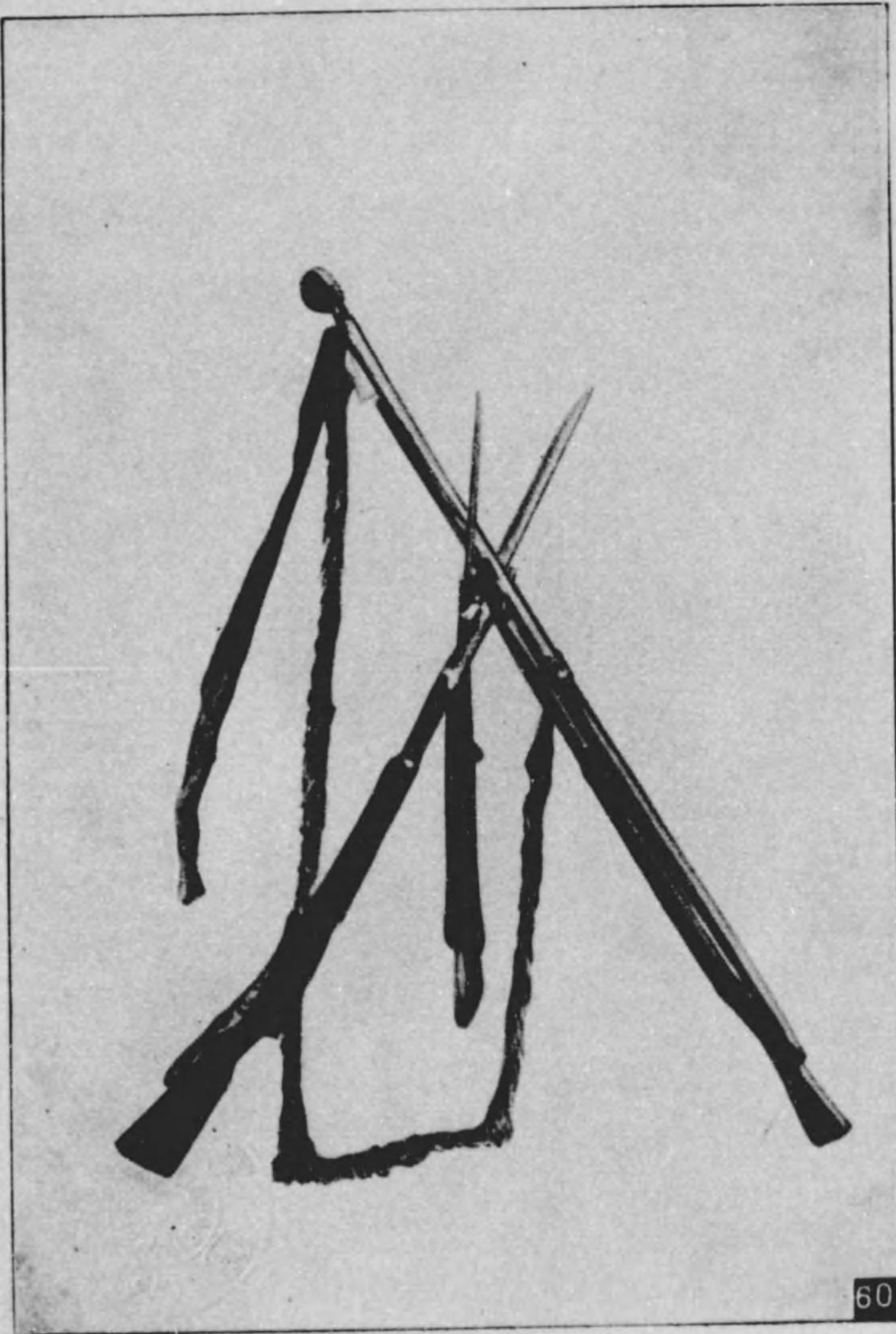
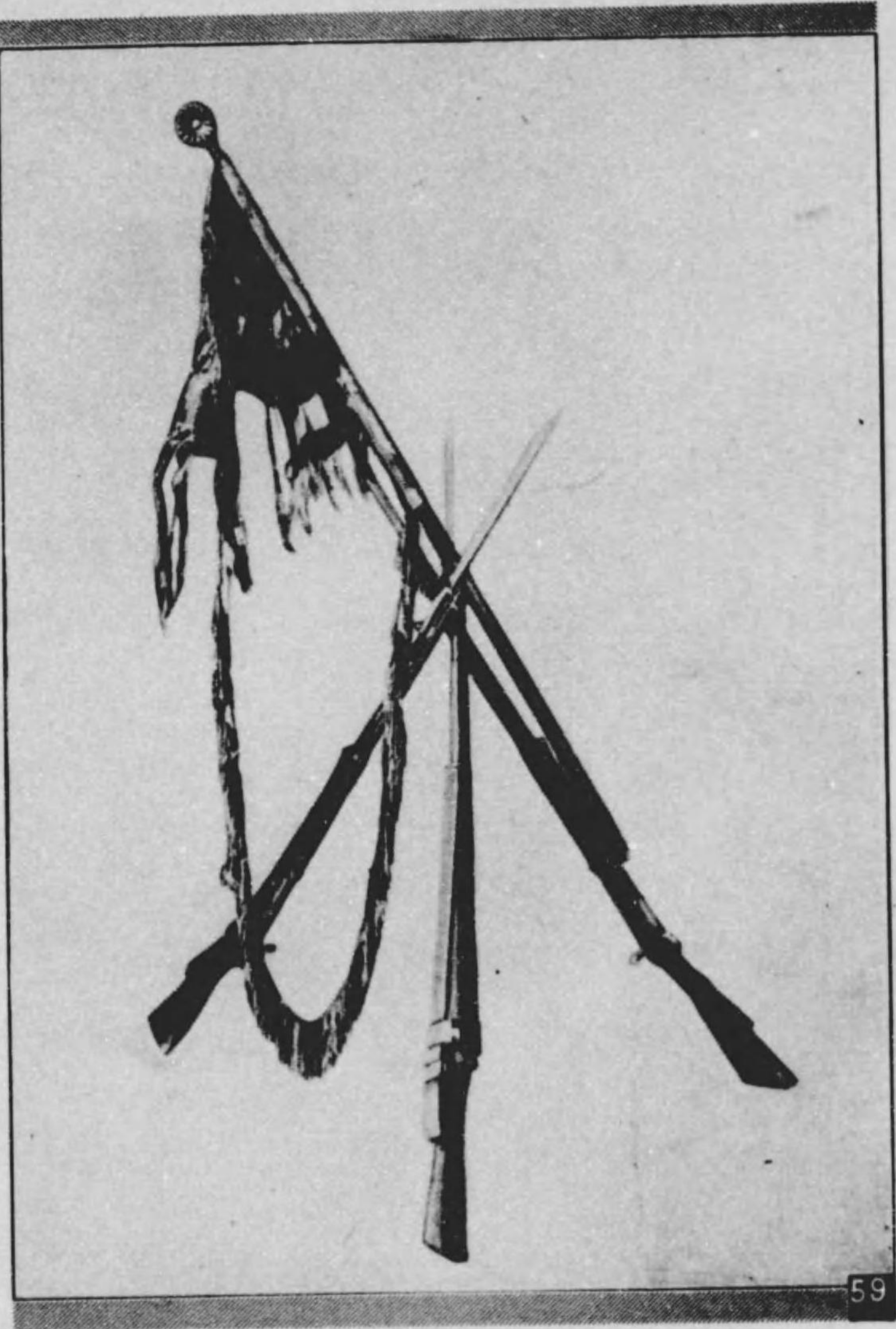
(歩兵第三十九聯隊副官永田文雄氏報)

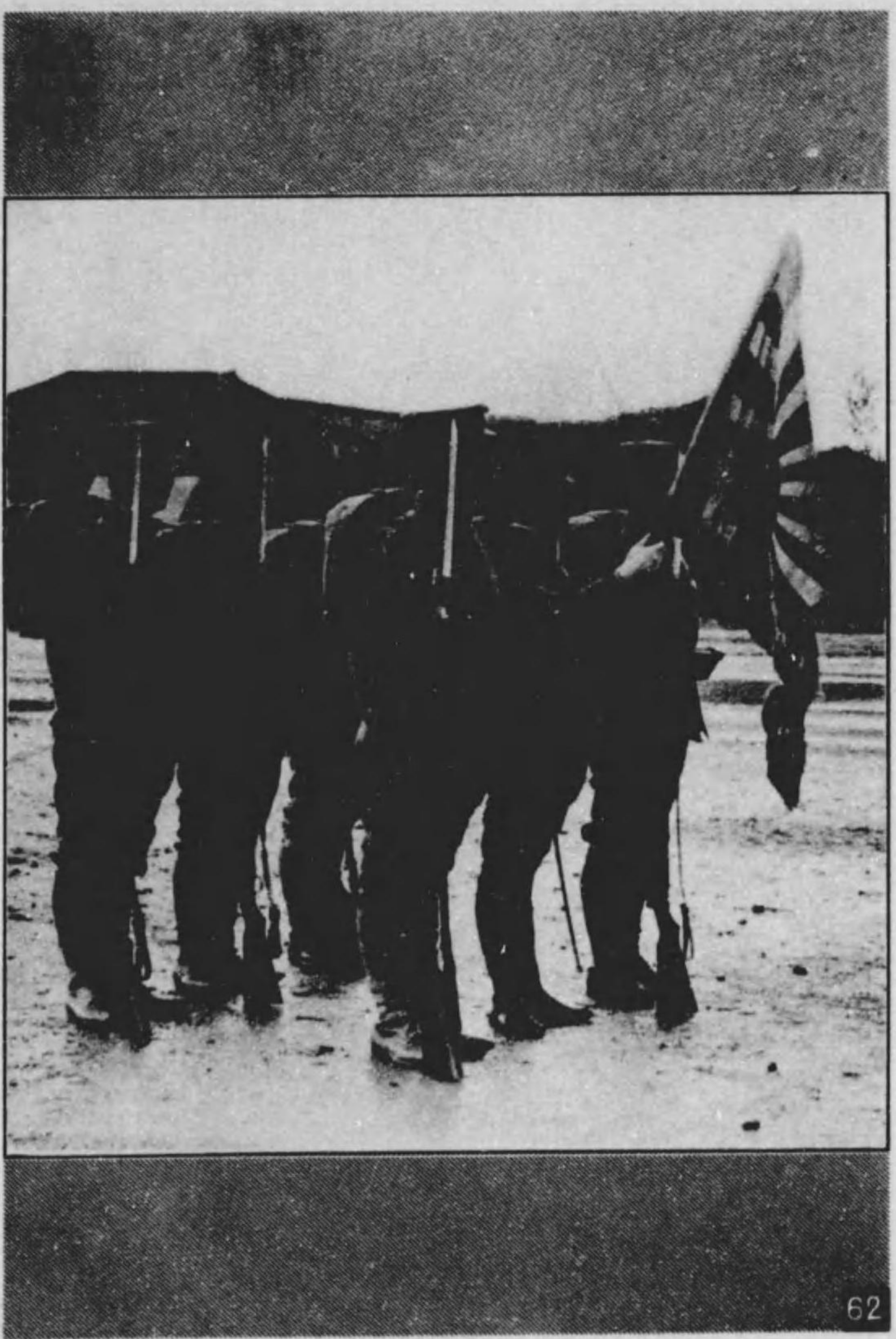
(60) 歩兵第四十聯隊軍旗略歴

(前代地 鳥取縣岩美郡宇倍野村)
(所屬 經路第十師團)

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月廿四日。
- 二、日露戰役參加 明治三十七年四月十六日動員下令、五月十七日出發、同廿九日宇品出帆六月三日遼東半島南尖瀾上陸、范家屯、分水嶺、接官听、柞木城、鞍山站、遼陽、沙河會戰、奉天會戰、茶棚砦等各地に善戰奮闘す、三十九年二月十五日—十八日電營に凱旋。
- 三、南滿洲駐劄 明治四十年十月六日出發、四十二年九月廿四日任務を終へて歸還。
- 四、青島守備 大正四年三月廿五、六日電營出發、四月一日各守備地向ひ分屯す、同五年九月十五日屯營に歸還。

(陸軍省藏書披露)





(61) 歩兵第十聯隊軍旗略歴

(備成地 岡山 山口市 師團第十師團)

- 一、軍旗親授 明治七年十二月十八日。
- 一、四市役参加 明治十年三月十五日屯營出發、城山總攻撃参加。
- 一、日清役参加 明治二十八年四月一日出征、同廿三日柳井屯上陸、講和條約成立後鎮子高附近に駐留、五月十七日より海城附近守備、十二月廿一日より同二十九年一月一日迄の間に屯營に凱旋。
- 二、日露戦役参加 明治三十七年五月九日屯營出發、新開嶺、分水嶺、柞木城、遼陽、沙河、三槐石山、奉天の戦闘に参加。同二十九年二月八日より十一日に亘り屯營に凱旋。
- 二、滿洲守備 第一回 自明治四十年十月十八日至四十二年九月十七日。第二回 自大正十四年六月九日至昭和二年四月廿六日。
- 一、青島守備 自大正四年三月廿一日至五年九月十日。
- 一、岡山轉營 大正十四年五月三日。
- 一、山東派遣 昭和二年五月三十日滿洲守備を交代し其後青島方面に向ひ九月四日濟南出發同十二日岡山歸着。

(歩兵第十聯隊報)

(62) 歩兵第六十三聯隊軍旗略歴

(備成地 島根縣 八束郡 津田村 師團第十師團)

- 一、軍旗親授 明治三十八年八月八日。
- 一、日露戦役参加 自明治三十八年八月十一日至同年十月十六日。
- 一、滿洲守備 自明治三十八年十月十六日至同四十年三月三日。
- 一、松江新兵營に移轉 明治四十一年十一月十六日。
- 一、滿洲駐劄 自大正四年三月十八日至大正六年五月五日。
- 一、滿洲駐劄 自大正十四年五月一日至昭和二年四月廿八日。
- 一、奉天出動 (奉天戦に際し) 自大正十四年十二月九日至同年同月廿九日。
- 一、濟南出動 自昭和二年五月三十日至同年八月三十日。

(歩兵第六十三聯隊副官持本茂氏報)

(63) 騎兵第十聯隊軍旗略歴

(所在地 經路第十師團)

- 一、軍旗親授 明治三十二年十二月二十七日。
- 二、日露戰役參加 明治三十七年五月二十四日出征、同年六月六日至八日岫巖占領の戦闘に參與同六月二十五日至二十七日分水嶺占領の戦闘に參與、同七月三十日至八月一日、拆木城占領の戦闘に參與、同八月二十四日至九月三日遼陽占領の戦闘に參與、同十月自十日自十七日沙河附近の會戰に參與、同三十八年一月自十五日三十一日黑溝臺附近の會戰に參與、同二月二十七日自三月十一日奉天附近の會戰に參與、同三月自十二日至二十一日獨立騎兵として鐵嶺開原附近追擊戰に參與、同四月自二十二日至二十五日開原附近の戦闘に參與、同三十九年一月三十一日凱旋。
- 三、滿洲守備 自明治四十年十月十日至同四十二年九月二十二日、自大正十四年五月三日至昭和二年四月十一日。

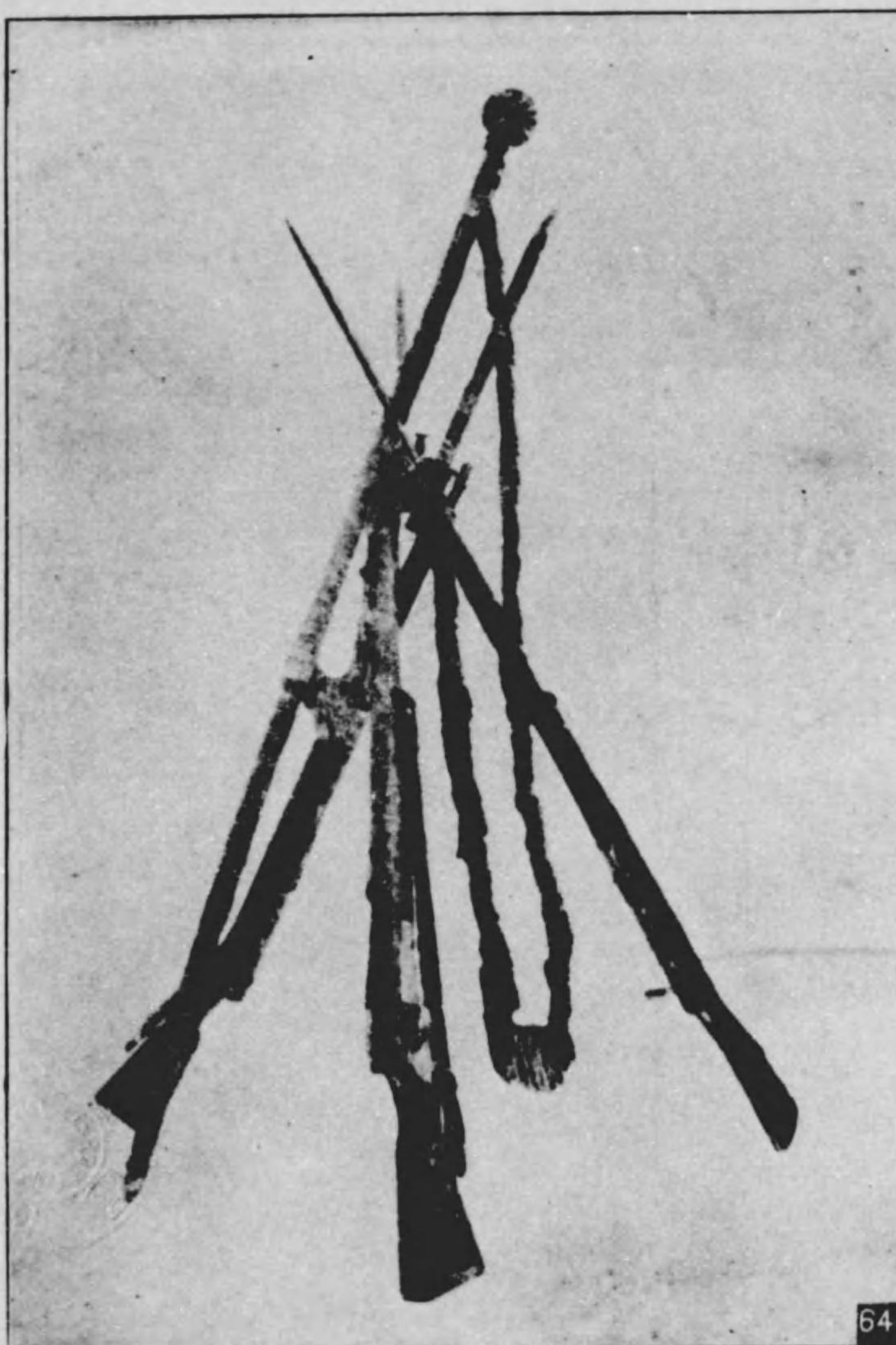
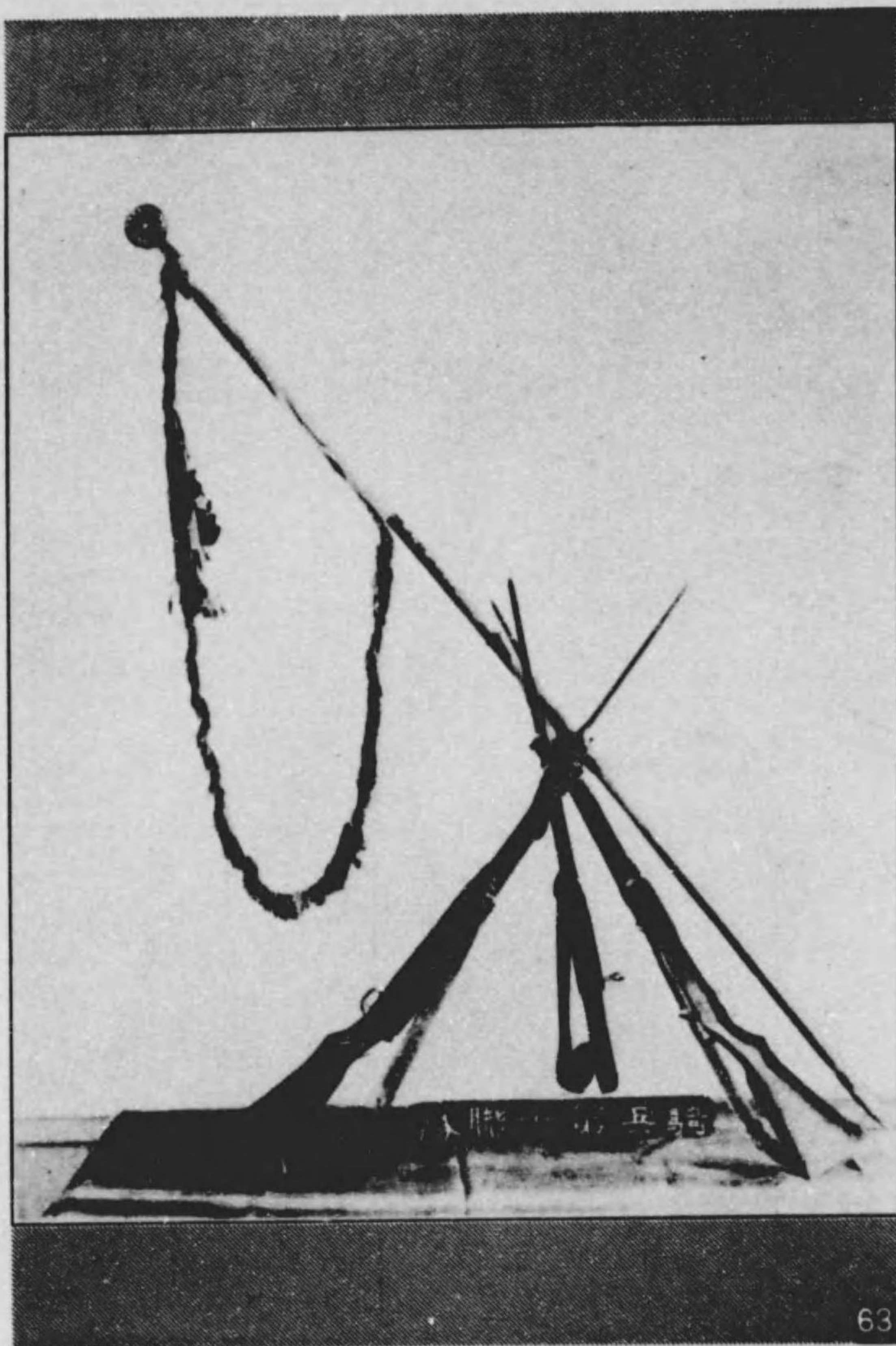
(騎兵第十聯隊副官佐伯大尉氏報)

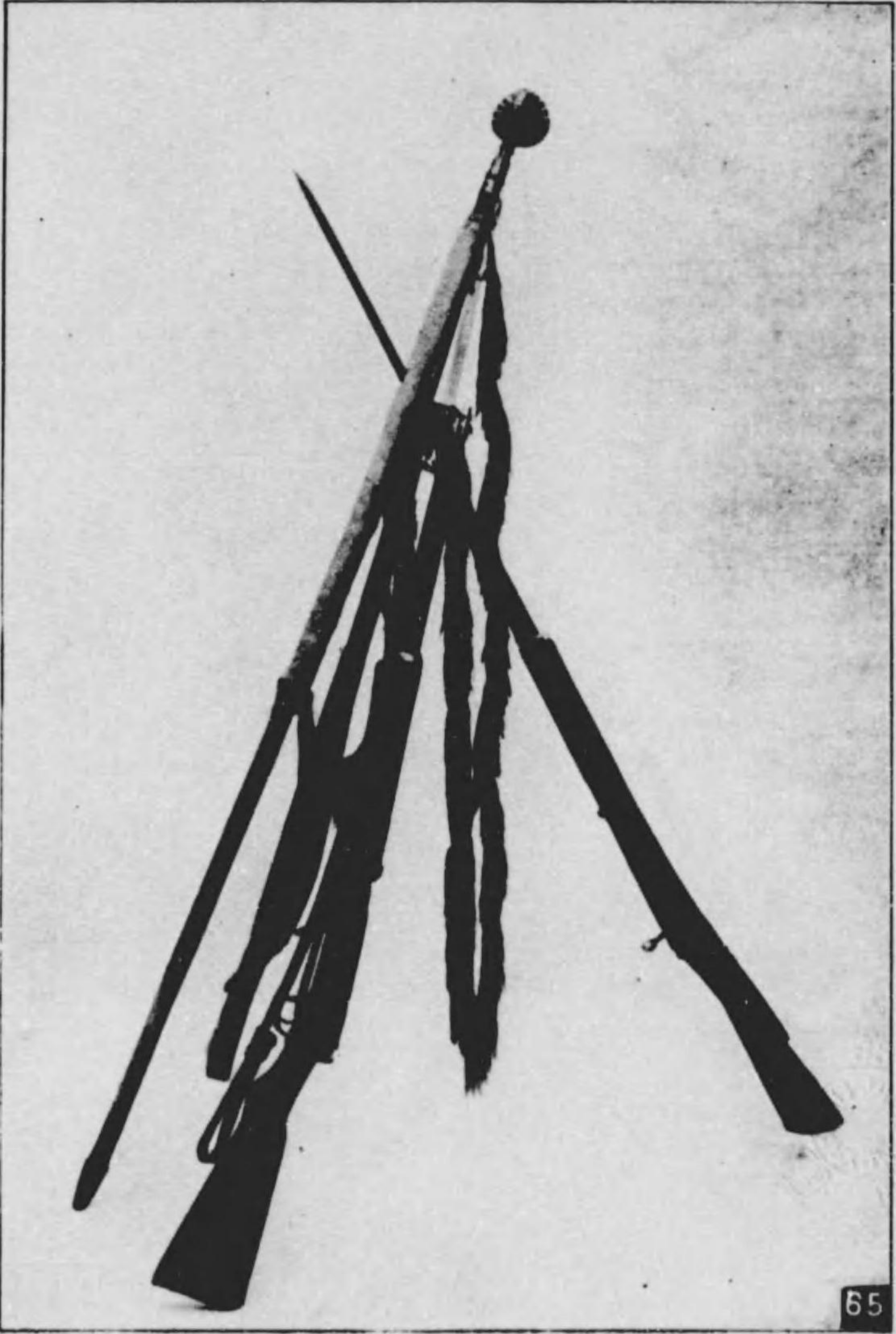
(64) 歩兵第十二聯隊軍旗略歴

(所在地 九曲市)

- 一、軍旗親授 明治八年九月九日。
- 二、西南之役出征 明治十年三月一日丸龜出發、肥後國日奈久に上陸し各所に轉戦九月二十四日城山總攻撃に參加、十月三日凱旋。
- 三、日清戰役出征 明治二十七年八月三日兵營出發征途に上る、九連城一面山等の戦闘に奮戦し二十八年七月十八日凱旋。
- 四、日露戰役出征 明治三十七年五月二十一日出發、大孤山の戦闘、旅順第一、二、三回總攻撃に參加、旅順陥落後更に馬群丹の戦闘及奉天戰に參加す。
- 五、滿洲守備 自明治四十二年九月二十一日至明治四十四年四月二十二日。
- 六、西伯利亞出征 自大正八年七月六日至大正十一年五月三十一日。

(歩兵第十二聯隊本部 梅里少尉報氏)





(65) 歩兵第二十二聯隊軍旗略歴

(所在地 松山 普通寺第十一師團)

- 一、聯隊創設 明治十七年六月二十五日創立、同二十一年十二月一日完結
- 二、軍旗拜受 明治十九年八月十七日於宮中正殿
- 三、日清戦役出征 平壤、九連城、岫巖に轉戦、特に樊家台に於て聯隊の武勳を擧ぐ。
- 四、日露戦役出征 大白山、大孤山及旅順第一、第二、第三總攻撃、清河城等の諸戦闘に参加、此の間感状を受くること七回。
- 五、滿洲駐劄 明治四十四年四月より二ヶ年間。
- 六、西伯利亞出征 自大正八年七月至同九年九月過激派軍の討伐に従ひ其の任を完す此の間一回の感状を受く。

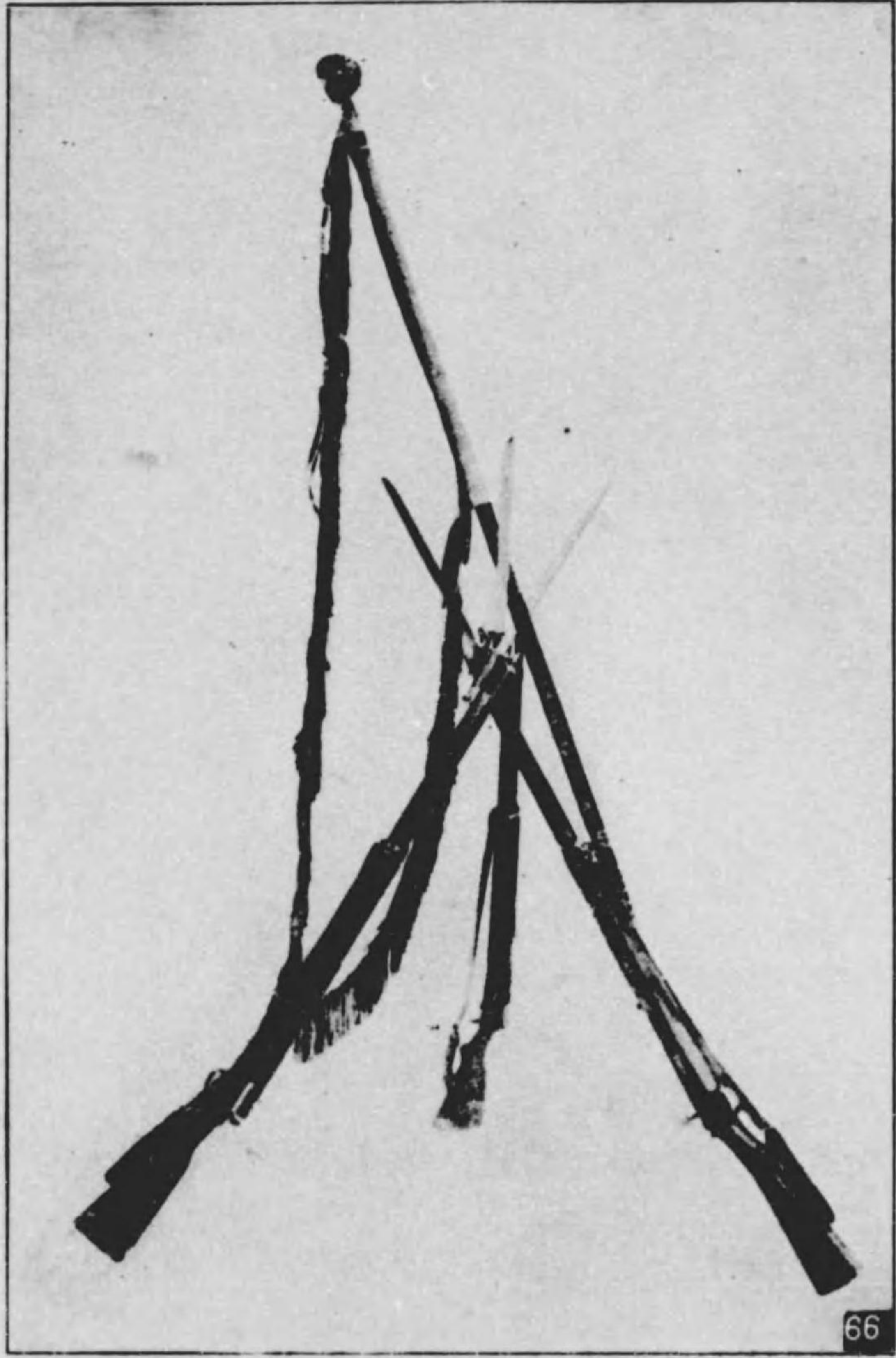
(歩兵第二十二聯隊副官栗田朝一郎氏報)

(66) 歩兵第四十三聯隊軍旗略歴

(所在地 徳島縣名東郡加茂町 普通寺第十一師團)

- 一、軍旗 親授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年四月十九日動員下令、同五月二十二日詫間灣出帆、同月二十八日—三十日濟國盛京省鹽大澳に上陸、劍山占領、旅順第一、第二、第三回總攻撃参加、望臺占領、清河城占領等外各激戦に奮闘す。三十八年九月十六日休戦同三十九年一月二十四日凱旋す。
- 一、滿洲 守備 明治四十三年九月九日滿洲駐劄派遣のため詫間灣出帆、同月十六日鐵嶺着守備任務に就く。同四十四年五月十二日詫間灣上陸歸隊す。
- 一、西伯利亞出征 大正九年九月十七日臨時編成下令、同月二十六、七日詫間灣出帆、九月三十日十月一日浦潮上陸各任地に就く、以後各地に轉戦掃蕩任務を遂行し、大正十一年六月十日—十二日詫間灣に上陸凱旋す。
- 一、轉 營 大正十四年五月二日—三日轉營のため普通寺を後に徳島に着、舊歩兵第六十二聯隊に到着し、該隊の半分と合して新編成を完了す。

(歩兵第四十三聯隊本部報告抄萃)



(67) 歩兵第四十四聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。

(所在地 高知縣土佐郡高知市
所屬 善通寺第十一師團)

(陸軍省文書課蔵書)

(68) 騎兵第十一聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治三十二年十二月二十七日。

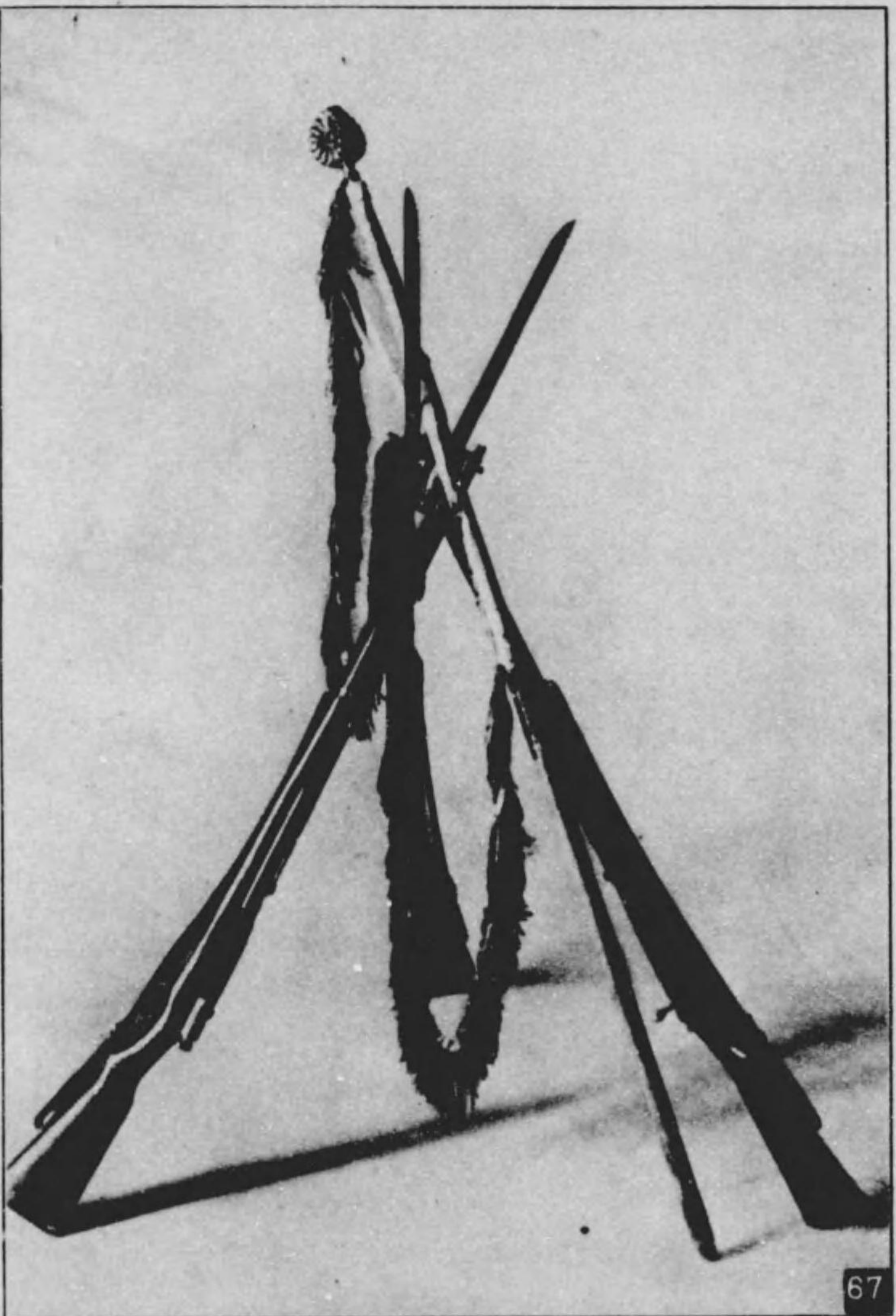
二、日露戦役参加 明治三十七年五月二十三日出征、旅順攻圍戦劉家屯、老坐山、大白山、遼陽、沙河、奉天の戦闘に参加。

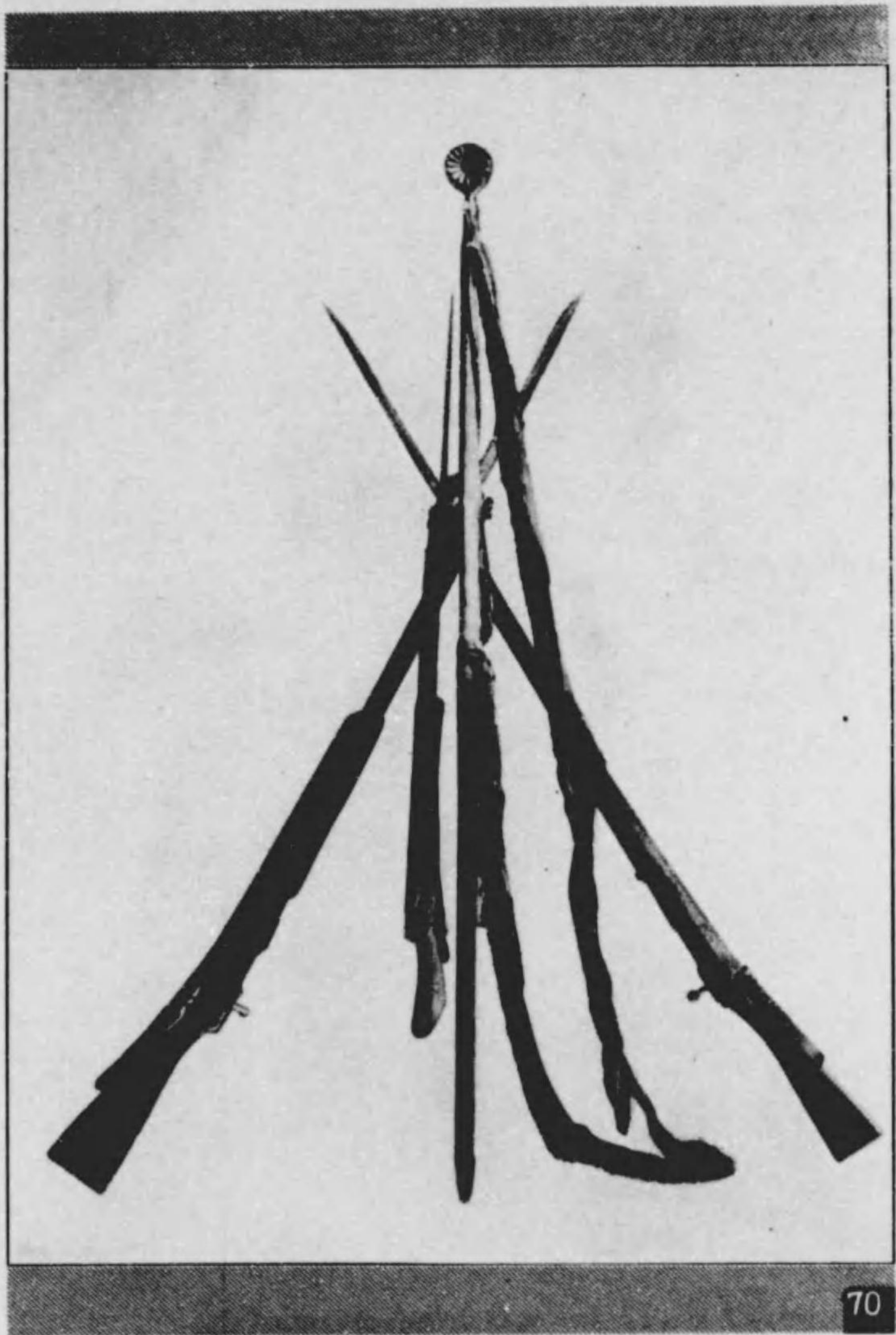
三、滿洲守備 自明治四十二年九月五日至同四十四年五月十五日。

四、西伯利派遣 大正九年九月二十五日派遣、シコトワ、ブツセフカ、アレクサンロフカ、トロイツコニコラエフスキー、チウメネーウオの戦闘に参加。同十一年六月十三日凱旋。

(所在地 香川県仲多度郡善通寺町
所屬 善通寺第十一師團)

(騎兵第十一聯隊報)





(69) 歩兵第十四聯隊軍旗略歴

(舊成地 福岡縣金井郡金井町 所屬 久留米 第十二師團)

- 一、軍旗 親授 明治八年九月九日。
- 一、西南役参加 同十年二月十四日以後参加各地に轉戦、九月二十四日平定十月廿三日小倉に凱旋。
- 一、軍旗行方不明 西南役に於て明治十年二月廿二日乃木聯隊長部下各隊を率ゐて植木に進むや聯隊旗手戦死し軍旗行方不明となる。
- 一、軍旗再授與 明治十一年一月廿一日戦功により再授與せらる。
- 一、日清戦役参加 明治廿七年七月二十五日動員下令、九月二十四日出征、以後仁川上陸、京城にて待命、更に轉進花園口上陸前進す、十一月二十一日旅順要塞攻撃参加、二十八年六月一日小倉に凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年二月四日第一大隊は朝鮮派遣出發、同九日京城占領、同五日動員下令、同十三日出征、仁川上陸以後鴨綠江に向ひ、九連城、外各地に轉戦、遼陽會戦、沙河、奉天の諸會戦に参加三十八年十二月屯營に凱旋す。
- 一、韓国臨時派遣 明治四十年七月二十五日出發、同四十二年六月十三日歸營。
- 一、西伯利亞出征 大正七年八月二日動員下令、同八日——十日屯營出發、同十一日——十三日ウラジオオ上陸、各地に戰闘同八年七月八日——十二日屯營に凱旋す。

(陸軍省藏書拔萃)

(70) 歩兵第二十四聯隊軍旗略歴

(舊成地 福岡縣 同 市 所屬 久留米 第十二師團)

- 一、軍旗 親授 明治十九年八月十七日。
- 一、日清戦役参加 明治二十七年九月十八日出征、旅順の戦闘に参加、引續き同地守備同二十八年六月七日凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年二月十五日出征、鴨綠江、橋頭、楡樹林子、遼陽、沙河、奉天の戦闘に参加、同三十八年十二月十二日福岡に凱旋。
- 一、シベリア事變参加 大正七年八月十一日出征、ウホフスコエの戦闘に参加、引續き各地の守備討伐、同八年七月八日凱旋。

(歩兵第二十四聯隊旗手 進藤隆八氏報)

(71) 歩兵第四十六聯隊軍旗略歴

(備成地 長崎縣西彼杵郡四木村 所屬 久留米第十二師團)

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戰役參加 同三十七年二月十六日出征、鴨綠江、榆樹林子、江沙岑、遼陽、奉天附近の戰闘に参加、橋頭、榆樹林子、紅沙岑戰闘に關し第一軍司令官より感狀を受く(明治三十七年八月二十六日)
- 明治三十八年十二月十七日凱旋。
- 一、日獨戰役參加 大正三年九月一日出征、柳樹台、巫山及青島本防禦線攻略の戰闘に参加。
- 大正三年十二月八日凱旋。

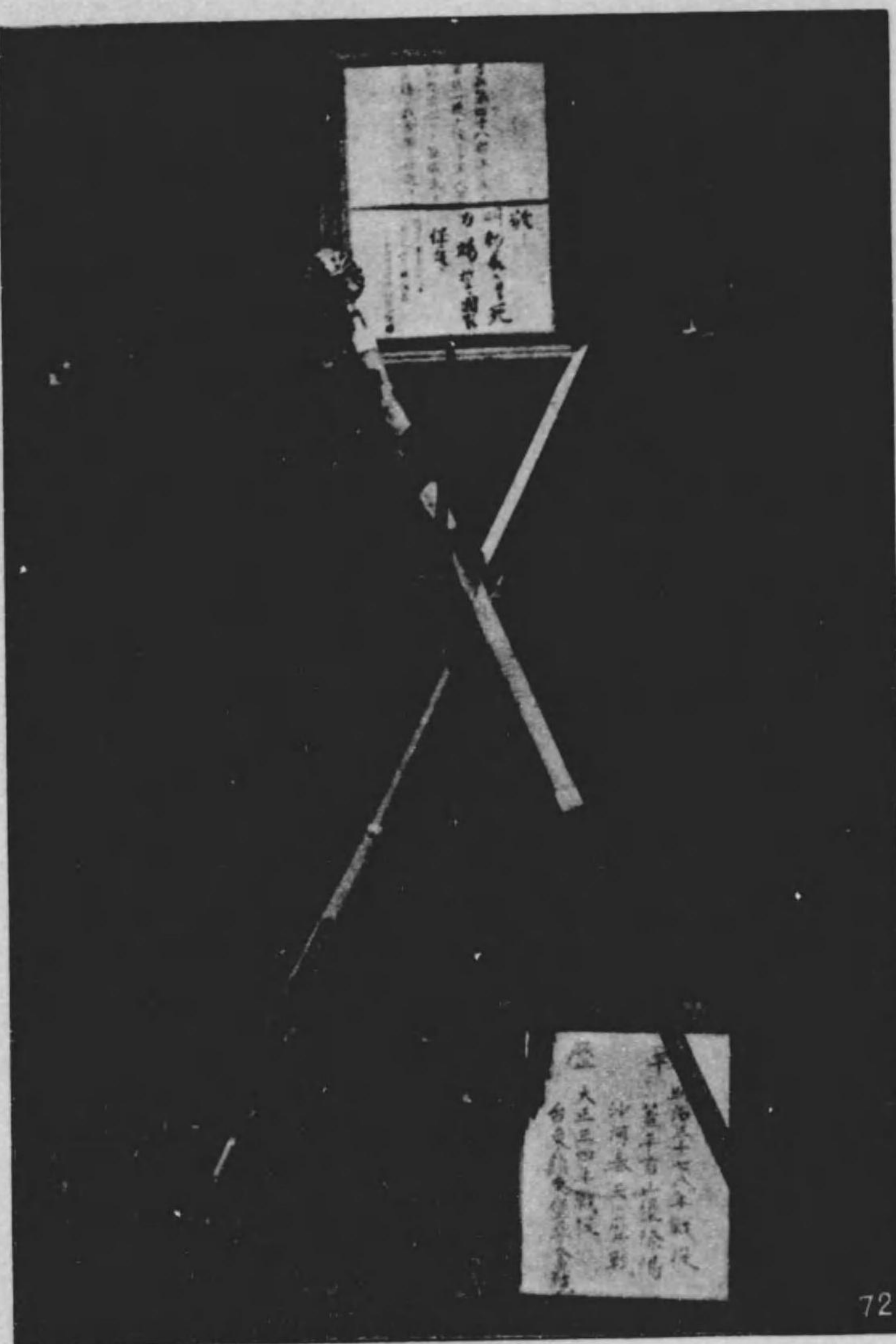
(歩兵第四十六聯隊報)

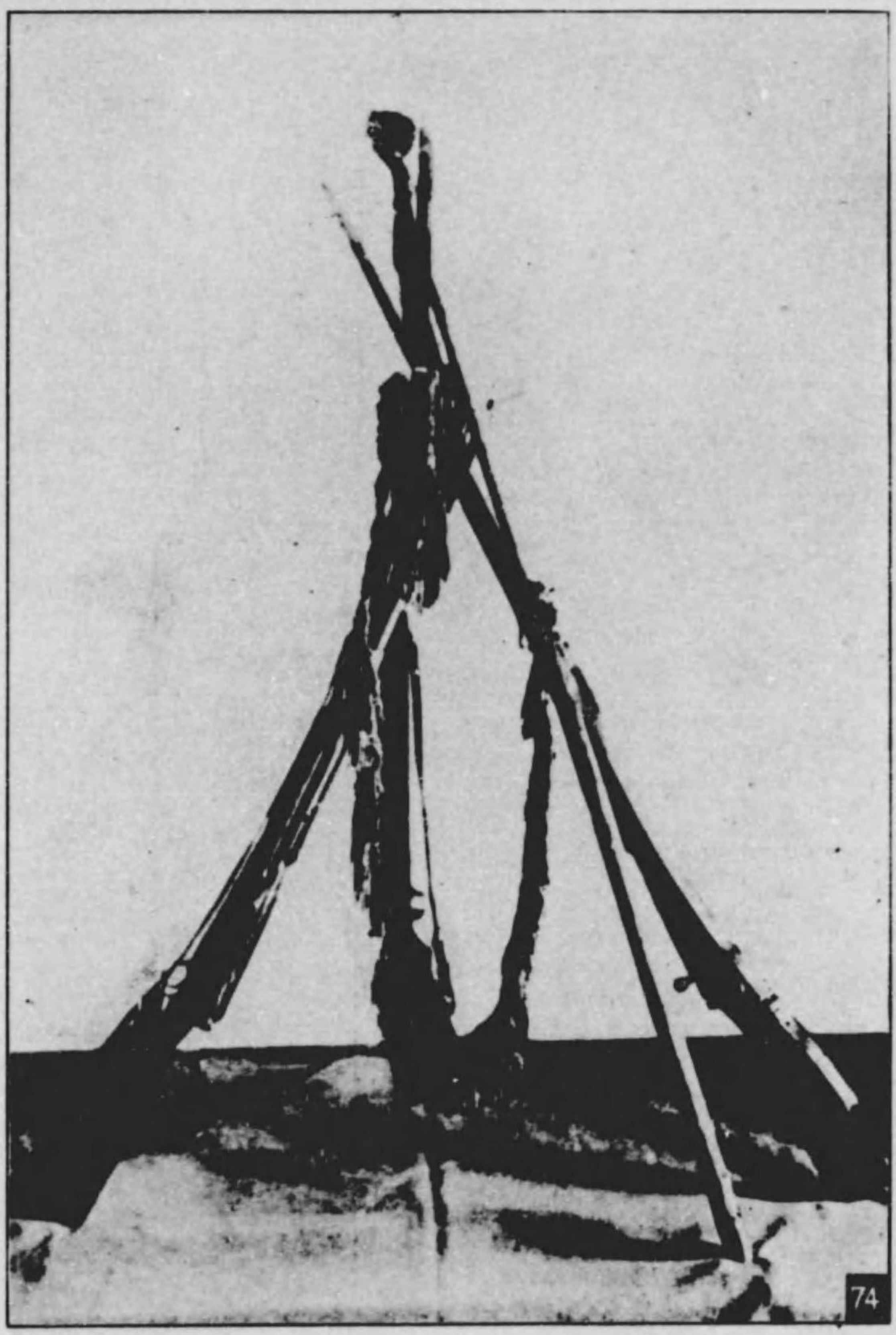
(72) 歩兵第四十八聯隊軍旗略歴

(備成地 久留米市 所屬 久留米第十二師團)

- 一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
- 一、日露戰役參加 明治三十七年六月十日出征、蓋平、大石橋、首山堡、遼陽、沙河、奉天附近會戰に参加、同三十九年三月六日凱旋。
- 一、日獨戰役參加 大正三年八月二十五日出征、同年十二月十四日凱旋。

(歩兵第四十八聯隊副官報)





(73) 騎兵第十二聯隊軍旗略歴

一、軍旗 親授 明治三十二年十二月二十七日。

(所在地) 久留米市
(所屬) 久留米第十二師團

(陸軍省文書課藏書)

(74) 歩兵第二聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 明治七年十二月十九日。
- 一、西南役参加 同十年自二月至十月。
- 一、日清戰役参加 同二十七年十月二十七日出征、金州、旅順の攻略並に大平山、田庄臺の戦闘に参加。
- 一、日露戰役参加 同三十七年四月二十一日出征、第二軍に屬し十三臺子及南山の戦闘に参加、同五月二十九日第三軍に編入、松樹山保衛攻略に参加、武功技藝、大山司令官より旅旗を附與せらる三十八年三月親授也、田庄臺の戦闘に参加、翌三十九年二月五日親授。
- 一、水戸移轉 明治四十二年三月二十七日。
- 一、西伯利亞出征 自大正八年三月三十一日至同九年十月二十日哈府戦闘に参加。
- 一、滿洲駐劄 自昭和二年四月十日至同四年四月二十日支那事變参加。

(所在地) 茨城県東茨城郡鹿嶋市
(所屬) 宇都宮第十四師團

(歩兵第二聯隊副官 菅原慶作氏藏)

(75) 歩兵第五十九聯隊軍旗略歴

(所在地) 栃木縣河津郡本村
(所屬) 宇都宮 第十四師團

- 一、明治三十八年七月十七日勅諭下令、同七月二十八日編成を完了す。
- 一、同年八月八日寅中に於て明治天皇より軍旗を拜受す。
- 一、同年八月二十一日出征、九月一日大連上陸、滿洲鐵嶺及烏巴海にて守備に任ず。
- 一、同年十月十六日平和克復と共に朝鮮の守備に當り京城龍山附近に駐屯す。
- 一、同四年三月三日守備の任を終りて内地に歸還、習志野假營舎に駐屯し同四十二年五月二十一日宇都宮に移駐す。
- 一、大正八年三月三十一日勅諭下令次で西伯利亞派遣を命ぜらる、四月八日第一大隊、十五日聯隊主力各々西伯利亞に向ひ出征、沿海州、黒龍州後貝加爾州の守備に或はキヤホール、ヂスタイブナヤ、ハバロフスクに轉戦して戦功を現はし同九年十月三十一日に宇都宮に凱旋す。
- 一、本戦役に於て戦死者將校以下二十名を出す。
- 一、昭和二年四月十二日滿洲駐劄の爲め宇都宮出發遼陽並奉天に在て駐劄勤務に服し同四年四月二十八日宇都宮に歸還す。
- 一、同四年十一月水戸平野に陸軍特別大演習に参加す。

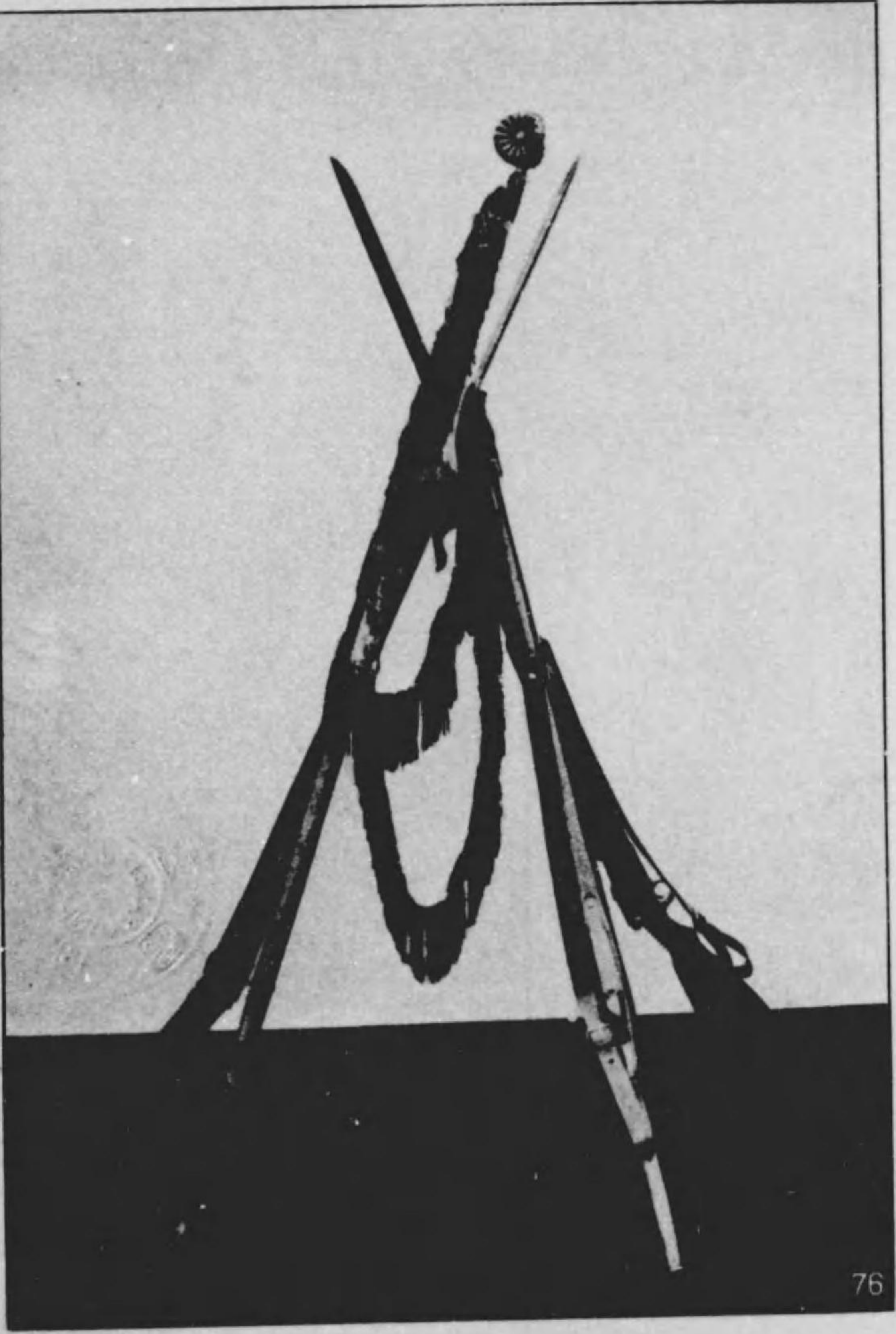
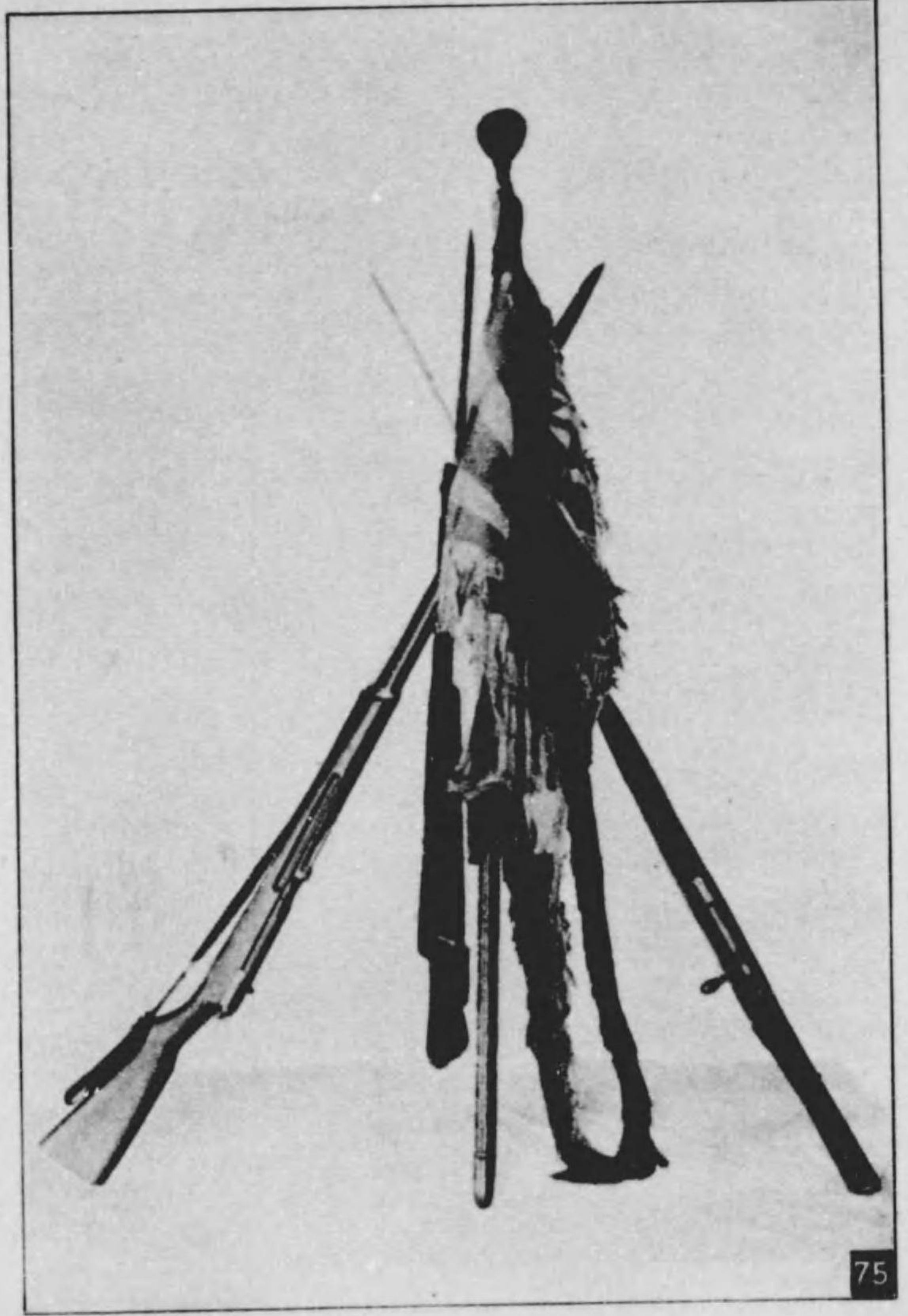
(歩兵第五十九聯隊副官大島少佐氏報)

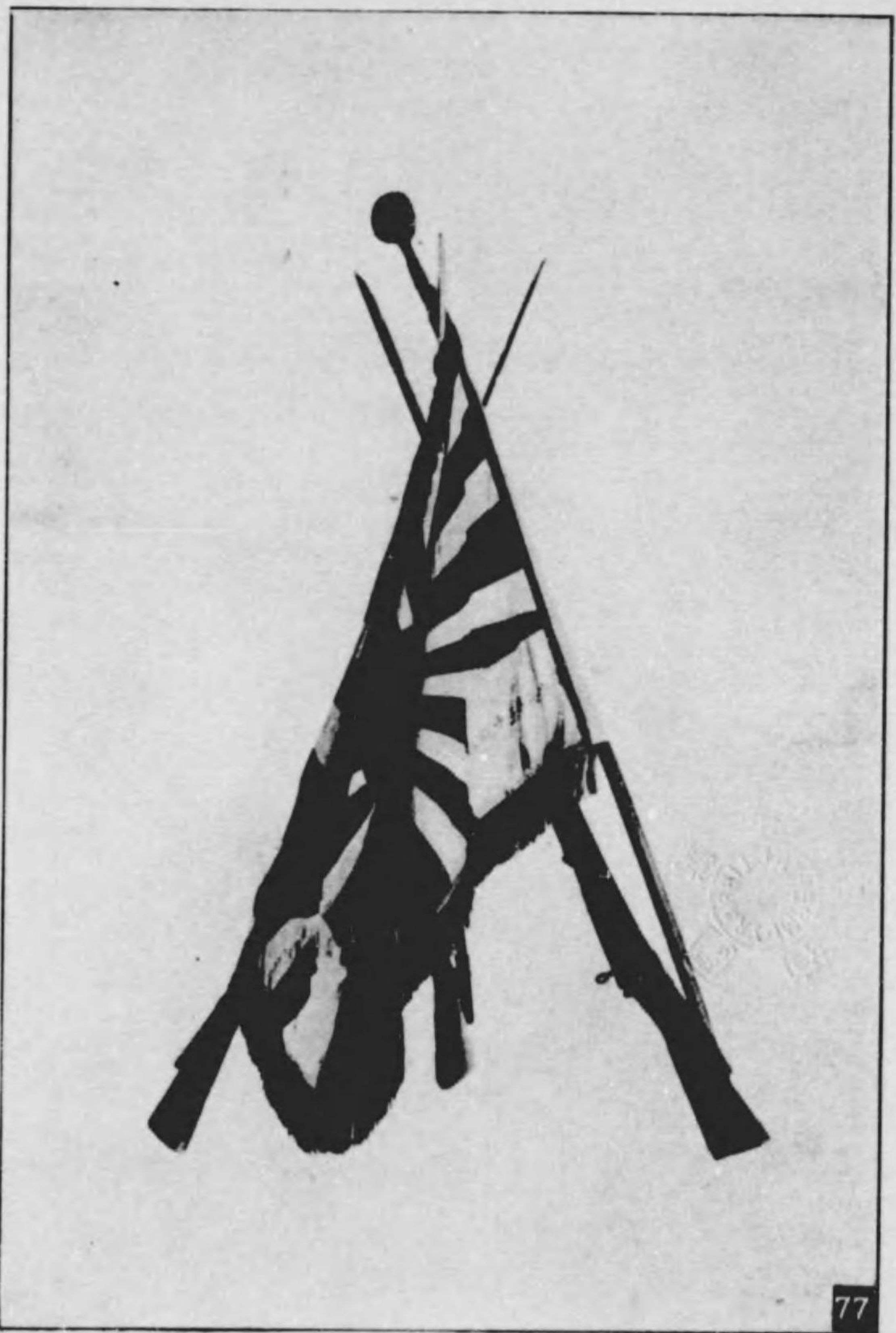
(76) 歩兵第十五聯隊軍旗略歴

(所在地) 宮城地
(所屬) 宇都宮 第十四師團

- 一、軍旗親授 明治十八年七月二十七日。
- 一、日清戦役参加 同二十七年九月二十二日出征、金州、旅順、蓋平、營口、田庄臺、太平山の戦闘に参加。同二十八年五月二十九日凱旋。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年三月二十日出征、十三里臺、金州南山、高崎山、二〇三高地、沙嶺臺、四臺子、三台子の戦闘に参加。同三十九年二月一日凱旋。
- 一、西北利派遣 大正八年四月二十四日出征。哈爾武市等に駐屯ゾプイタヤ附近哈爾附近の戦闘に参加。大正九年十二月二日凱旋。
- 一、滿洲駐劄 昭和二年四月二十日出發、同四年四月二十三日歸還。
- 一、濟南事變参加 同三年五月四日旅順出發濟南城攻撃に参加、同年五月十二日内城占領、次で直ちに海城、奉天の守備を擔任し同年十月一日旅順に歸還す。

(歩兵第十五聯隊副官 谷少佐氏報)



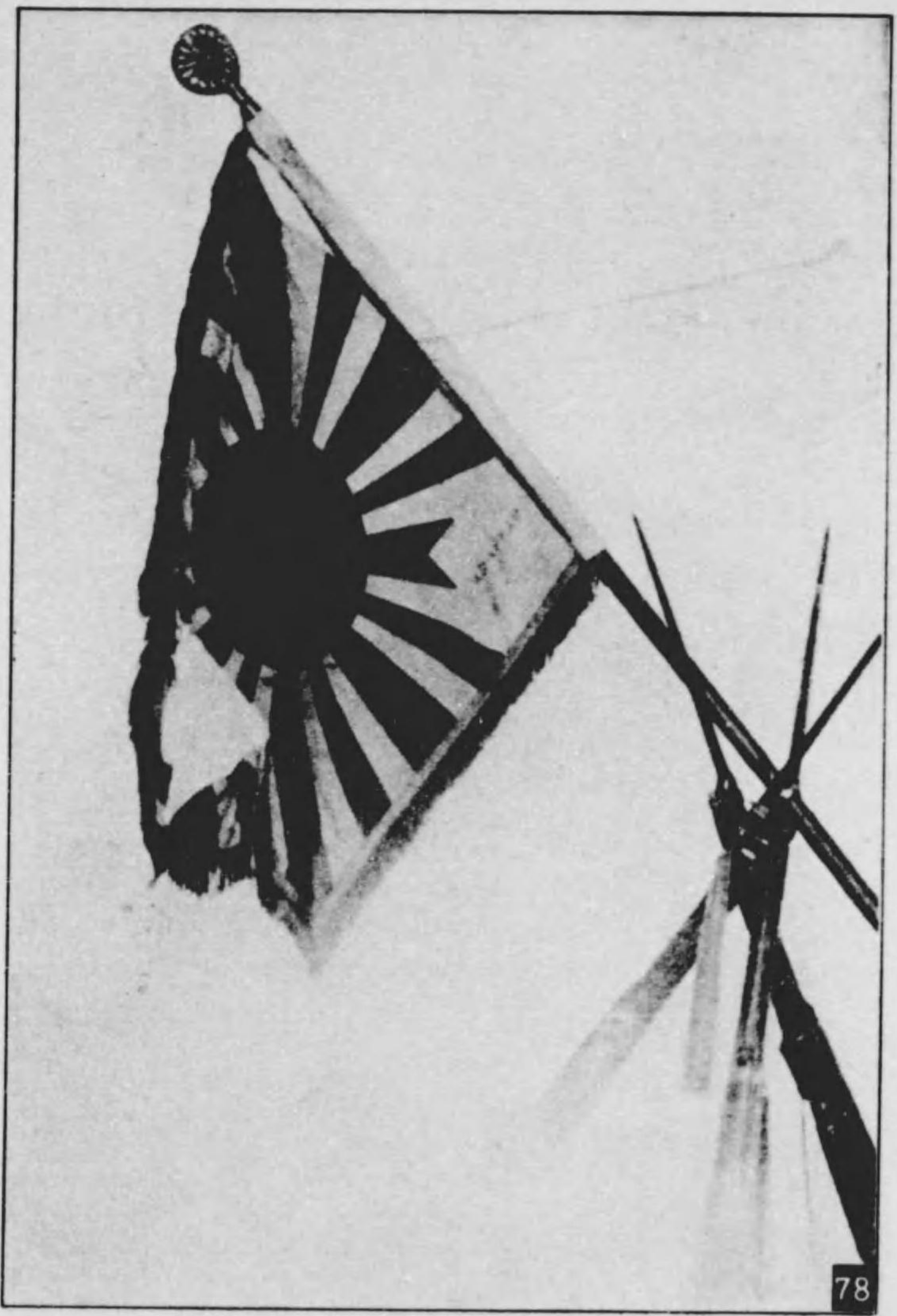


(77) 歩兵第五十聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 明治三十八年四月十五日。
- 一、樺太遠征 同三十八年七月二日出征、軍川及大棧橋附近の戦闘に参加、同三十八年九月四日凱旋。
- 一、臺灣守備 自明治三十八年九月二十八日至同三十九年四月十九日。
- 一、北韓守備 自明治三十九年四月二十八日至同四十年十月二十日。
- 一、松本移轉 明治四十一年十一月三日。
- 一、西伯利亞出兵 大正九年一月十四日出征、浦潮武裝解除戦シコトワ武裝解除戦、尼市武裝解除戦参加。同十年五月三日凱旋。
- 一、滿洲駐劄 自大正二年四月一日至同四年五月二十一日。
- 一、日本アルプス強行軍 自大正六年七月二十六日至七月三十日。
- 一、滿洲駐劄(除濟南出動期間) 自昭和二年四月十七日至同四年四月二十一日。
- 一、濟南出動 昭和三年五月五日出發、同三年五月二十三日歸滿。

(備成地 松本市 宇都宮第十四師團)

(歩兵第五十聯隊旗手 恒吉幸雄氏報)



(78) 騎兵第十八聯隊軍旗略歴

- 一、明治三十八年四月十七日 編成を完了す。
- 一、同年六月二十日 軍旗を拜受す。
- 一、同年七月二十日 出征七月二十三日大連上陸後秋山騎兵團の指揮下に入り爾來各所に轉戦し軍旗の向ふ所大いに我が威武を發揚す。
- 一、同年十月十六日 平和克復と共に滿洲守備に任ず。
- 一、同四十年十月二十八日 守備の任を了り内地に歸還、姫路騎兵第十聯隊兵舎に駐屯し同四十一年十一月五日宇都宮に移駐す。
- 一、大正八年三月三十一日 西伯利亞派遣の爲め動員下令。
- 一、同年四月二十五日西伯利亞に出征、黒龍州、沿海州に奮戦。
- 一、同年十月五日黒龍州マルガリトウカ附近戦闘に於て第二中隊は優勢なる敵の重圍に陥りたるも毅然として勇戦奮闘敵に多大の損害を與へ主力の戦闘を有利ならしめたり、本戦闘に於て勇猛果敢全滅を期し奮戦せる近藤小隊は軍司令官大井大將より殊狀を附與せらる。
- 一、大正九年十月二十九日 宇都宮に凱旋す。戦死將校四名、下士以下三十名。
- 一、昭和二年三月二十二日 滿洲駐劄の爲め宇都宮出發公主嶺に在りて駐劄勤務に服し同四年四月九日宇都宮に歸還す。

(備成地 栃木縣河内郡城山村 宇都宮第十四師團)

(騎兵第十八聯隊副官 米花宇太吉氏報)

(79) 歩兵第九聯隊軍旗略歴

(備戊地 京都紀伊郡深草町 所屬 京都第十六師團)

- 一、軍旗親授 明治七年十二月十八日。
- 一、西南役参加 明治十年二月二十日西南征討の爲め第一、第二大隊二十五日第三大隊出發し各所に轉戦す、十月一日清戦役参加 明治二十七年八月一日對清宣戰の詔勅降る。十一月二十六日動員下令、翌二十八年三月二十八日电營出發征途に上る、四月二十一日大連灣上陸、同日平和克復、五月十七日以後海城附近の守備す。二月二十七日屯營に凱旋す。
- 一、臺灣守備 明治二十九年一月四日臺灣土匪討伐の爲め出發十三日基隆上陸、同十七日推溪附近に匪徒擊破、二十六日臺北に入る。七月六日屯營に歸還す。
- 一、日露戦役参加 明治三十七年二月十日 露宣戰布告、三月六日動員下令、四月十六日电營出發二十二日大阪築港出發征途に上る、五月十日孫家咀子に上陸、同月二十五日金州城を夜襲す、同月二十六日南山占領、六月十五日得利寺附近の會戦に参加、八月三日小敵を驅逐しつゝ北進海城に到着、八月二十九日九月四日まで遼陽會戦に参加、十月七日十六日まで沙河會戦に参加以後古家子、北臺子に陣す。三十八年一月二十七、八日黑溝臺の戰闘に参加、三月二日北臺子を攻略す、同月十日奉天陥落す、十月十六日平和克復、十二月八日宿營地出發、同月二十一日衛戍地に凱旋す。

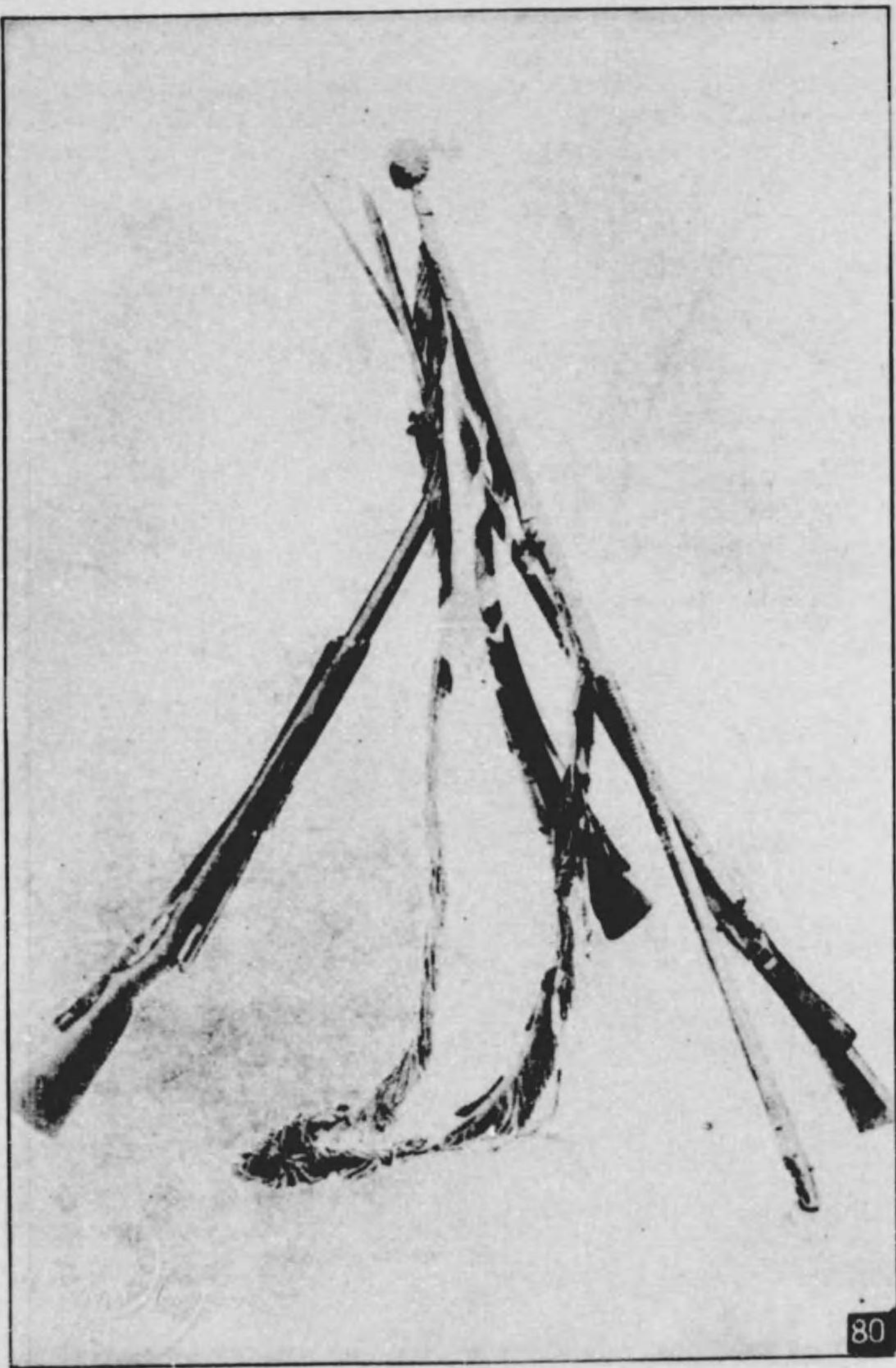
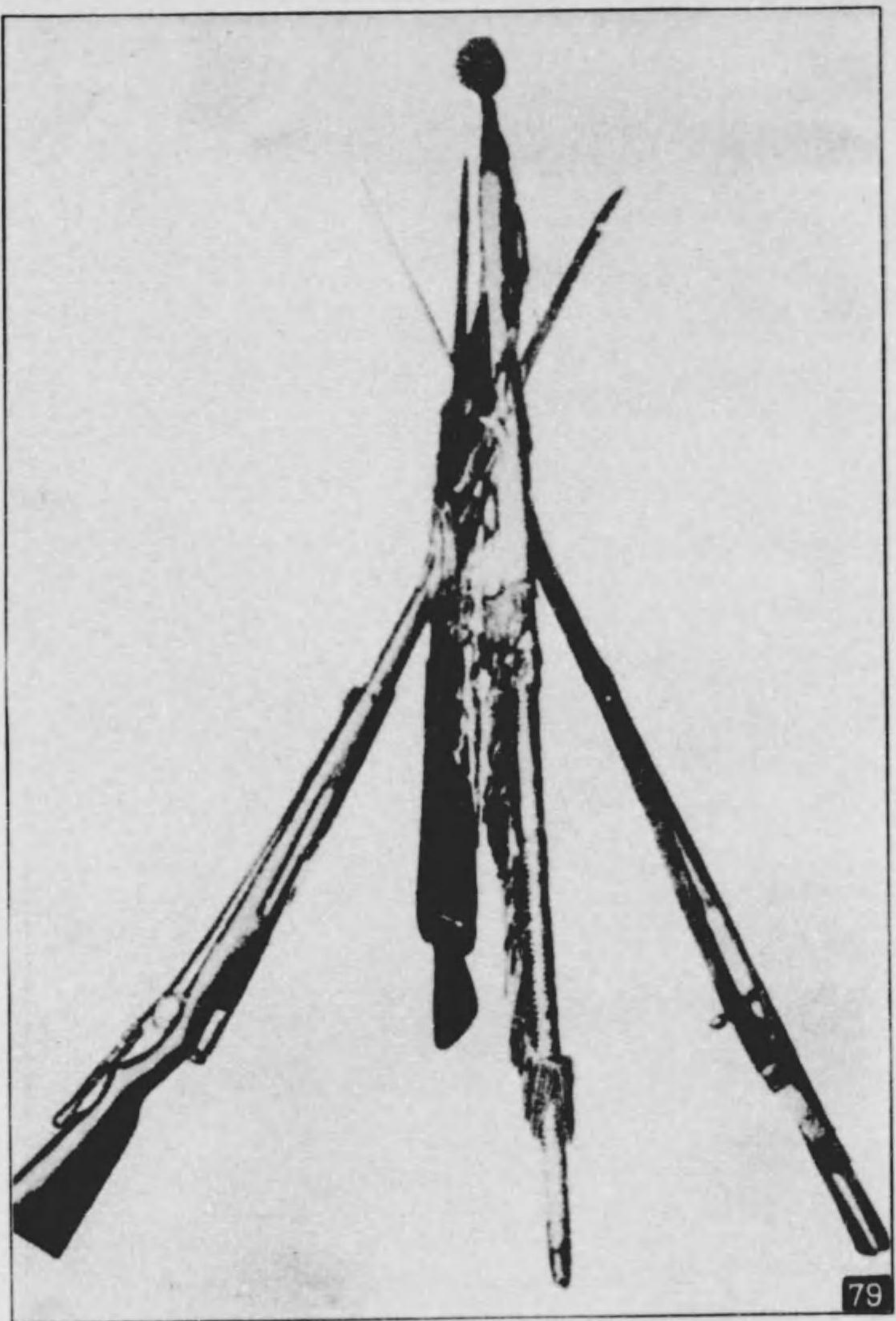
(陸軍省藏書披露)

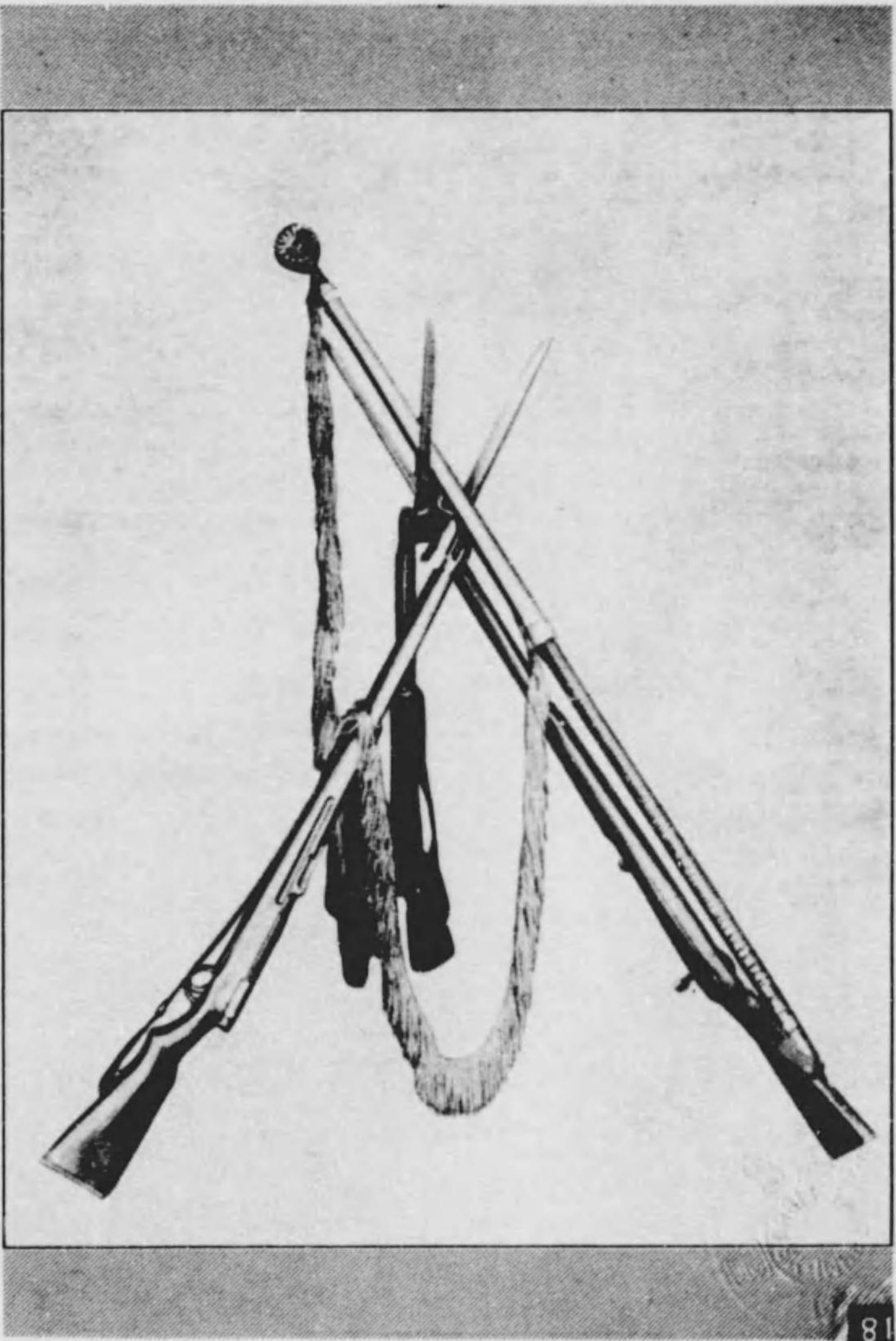
(80) 歩兵第二十聯隊軍旗略歴

(備戊地 京都府天田郡福知山町 所屬 京都第十六師團)

- 一、軍旗親授 明治十八年七月二十一日。
- 一、日清戦役参加 同二十八年四月一日出征、大連に於て休戦となり遼東半島守備の任に就く。同二十九年一月二十九日凱旋。
- 一、福知山移轉 同三十一年十月一日大阪より移轉。
- 一、日露戦役参加 同三十七年五月五日出征、獨立第十師團に屬し岫巖、分水嶺、柞木城を経て遼陽、沙河、奉天の戰闘に参加、遼陽會戦に於て感狀を授與せらる、同三十九年二月二日凱旋。
- 一、滿洲守備 自明治四十年十月八日至同四十二年十月四日。自昭和四年四月十三日至同六年四月二十六日。

(歩兵第二十聯隊報)





(81) 歩兵第三十三聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治三十一年三月二十四日。
一、日露戦役参加

(備戌地 三重縣一志郡本村
所屬 京都第十六師團)

- 1 明治三十七年三月六日動員下令、同月廿五日出征の途に上る。
 - 2 同年五月二十六日南山の戦闘に参加。
 - 3 同年六月十五日得利寺の戦闘に参加。
 - 4 同年自七月二十三日至七月二十五日大石橋の戦闘に参加。
 - 5 同年自八月廿九日至九月一日遼陽の戦闘に参加。
 - 6 同年自十月七日至十月十五日沙河會戦に参加。
 - 7 同三十八年自一月二十六日至一月二十九日沈且堡の激戦参加。
 - 8 同年三月七日奉天會戦に参加、李官堡南方三軒屋附近の激戦に参加し殊勳を奏す。
 - 9 同三十九年一月十二日衛戌地に凱旋す。
- 一、西伯利亞出征 大正七年八月二十四日動員下令九月八日出征の途に上る、同八年九月二十日衛戌地に凱旋す。
- 一、久居轉營 大正十四年第十六師團管下に入り五月五日名古屋衛戌地守山兵營を出發同日三重縣下久居兵營に入る。
- 一、神宮御親謁儀仗 昭和三年自十一月十九日至十一月二十二日。
今上陛下御即位禮及大嘗祭後の神宮御親謁儀仗に服す。
- 一、滿洲駐劄 自昭和四年四月十八日至同六年四月十六日滿洲奉天に在りて駐劄の大任を全ふす。
(歩兵第三十三聯隊副官 石谷少佐氏報)

(82) 歩兵第三十八聯隊軍旗略歴

(備戌地 奈良市
所屬 京都第十六師團)

- 一、明治三十一年三月二十四日 宮中正殿に於て吾聯隊に軍旗を授與せらる。
- 同三十七年三月六日動員下令後卅八年十二月廿八復員下令迄日露戦役に従軍各地奮戦殊勳を樹つ(此間二弾を受く)
卅七年五月二十五、六日の南山攻撃の際激戦十數時間の後二十六日午後七時敵陣を占領軍旗を疊上高く樹立するや敵の一彈飛來し其の左上部を貫通す。
- 同年六月十四日及十五日の得利寺の激戦に参加し聯隊は奮戦の後敵陣を占領し軍旗を高地上に樹立し萬歳を叫べ之利那敵の一彈飛來し其の左下部を貫通す。
- 大正八年四月より二年間南滿洲守備の任を受け旅順に駐屯す。
- 昭和四年四月より二年間南滿守備の任を受け長春に駐屯す。
- 右の如くに候敵彈を受くること二彈なるも各地奮戦及永年の間にこれ因をなし現在に至る迄の如く殆んど原形を止めざる有様に御座候。
- (歩兵第三十八聯隊旗手 橋本少尉氏報)

(83) 騎兵第二十聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 明治三十八年八月八日。

(繪成地 京都府紀伊郡深草町
所屬 京都第十六師團)

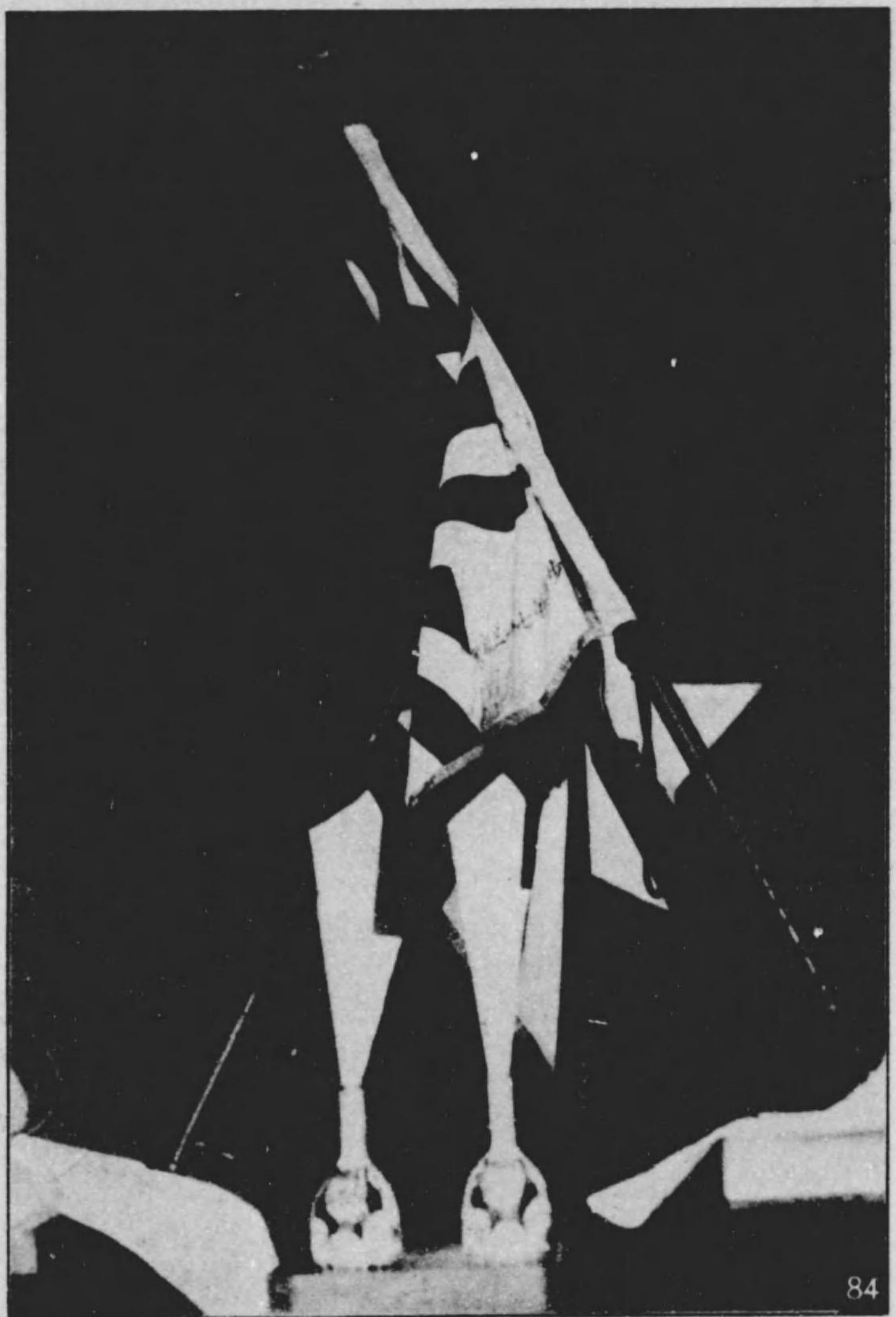
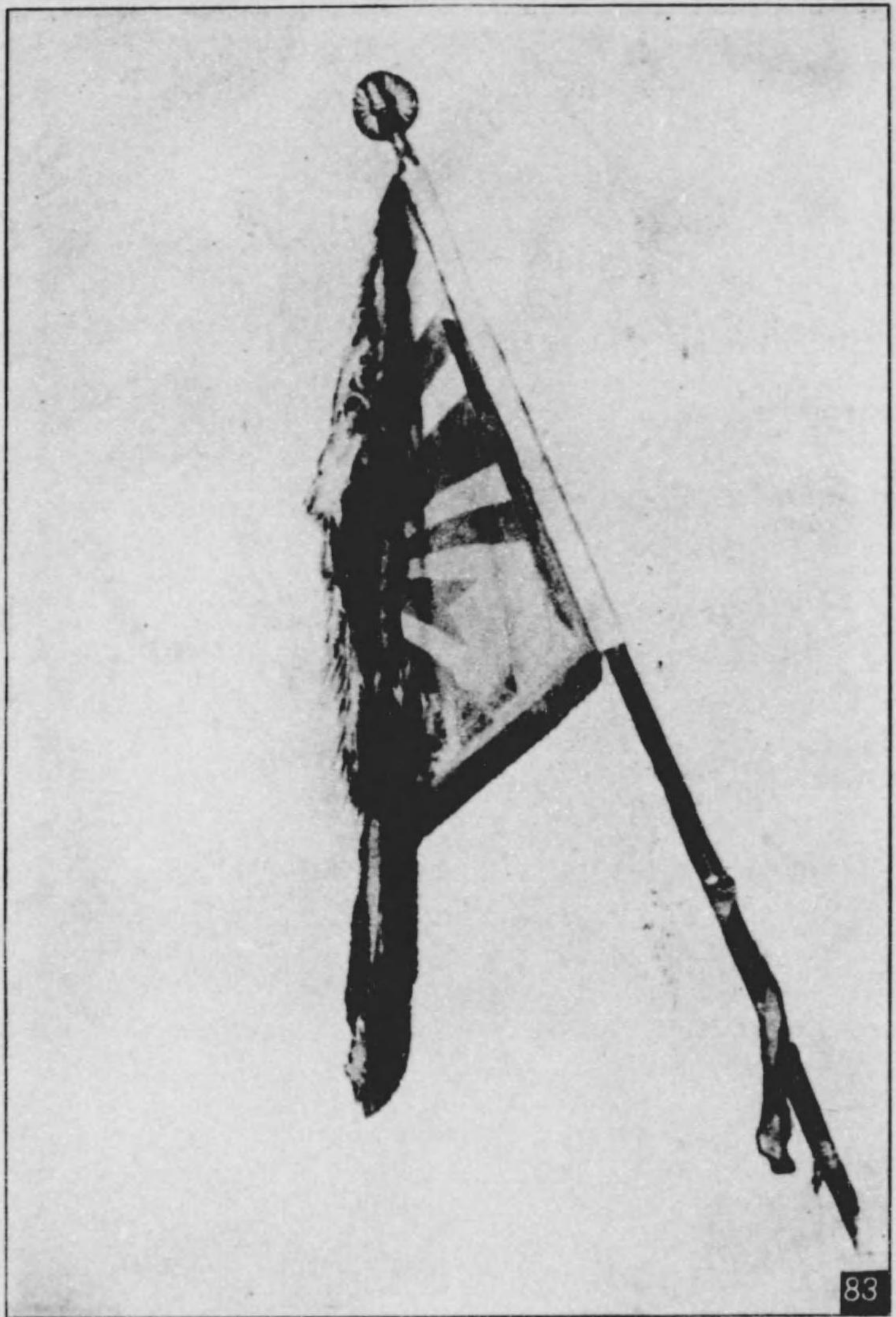
(陸軍省文書課藏書寫)

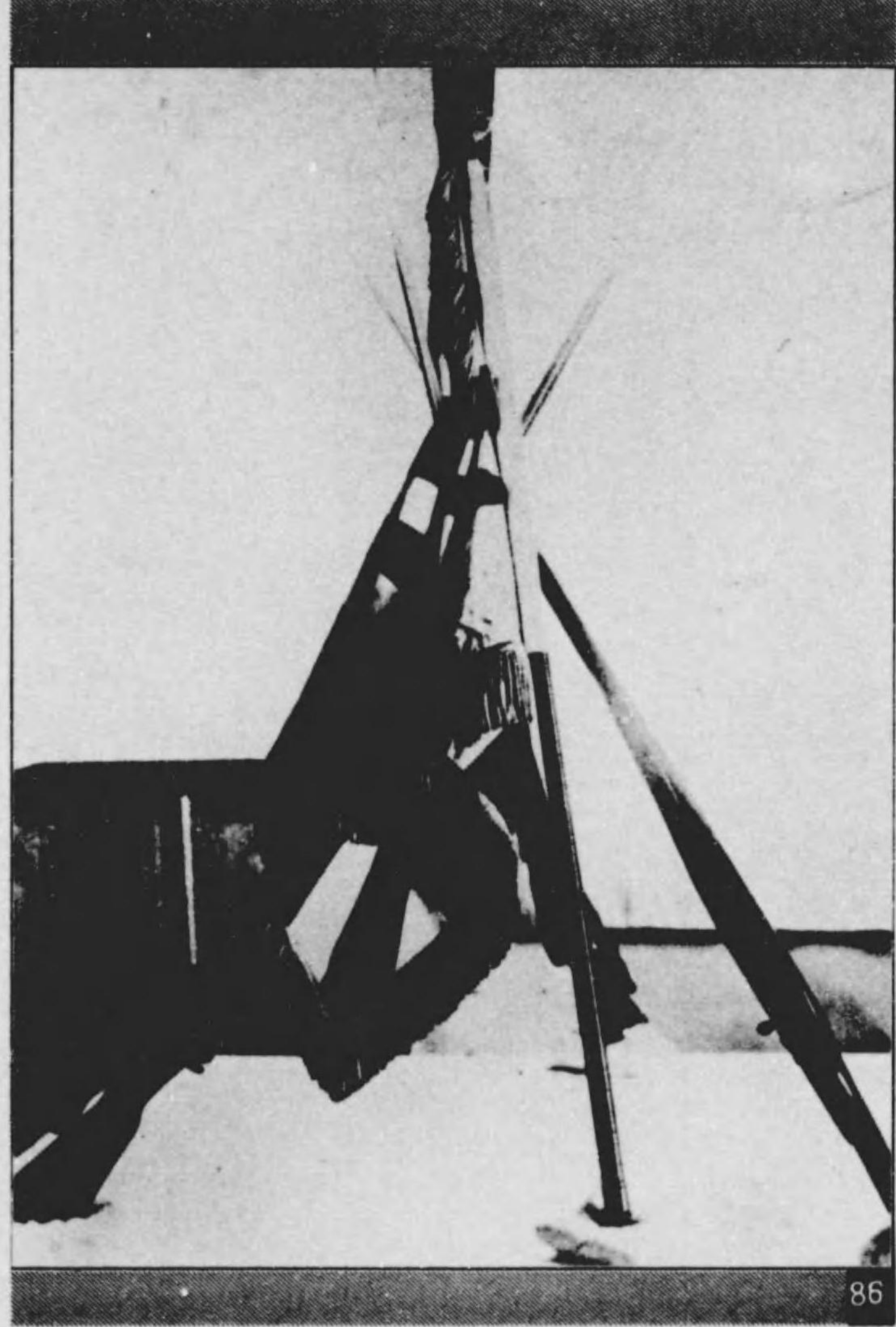
(84) 歩兵第七十三聯隊軍旗略歴

一、軍旗親授 大正五年四月十八日。

(繪成地 朝鮮 羅南
所屬 羅南第十九師團)

(陸軍省文書課藏書寫)





(85) 歩兵第七十四聯隊軍旗略歴

- 一、大正五年四月十八日軍旗拜受。
- 一、同七年十月南部ウスリ一部派遣。
- 一、同八年三月萬歳事件に依り各地に派遣。
- 一、同九年四月南部ウスリ派遣隊戦闘。
- 一、同年十月間島に一部派遣。
- 一、昭和三年五月鴨綠江岸滿浦方面に一部派遣。
- 一、同六年十二月錦州方面に一部派遣。

(所在地 朝鮮 咸鏡道 羅南第十九師團)

(歩兵第七十四聯隊報)

(86) 歩兵第七十五聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 大正九年十月十五日。
- 二、其他新設聯隊なるため略歴なし。

(所在地 朝鮮 會亭 羅南第十九師團)

(歩兵第七十五聯隊副官宮島氏報)

(87) 歩兵第七十六聯隊軍旗略歴

(備戊地 朝鮮 羅南第十九師團)

- 一、軍旗 親授 大正九年十月十五日。
- 一、理春間島事件出動 自大正九年十月五日至同年一月六日。
- 一、聖旨、令旨拜受 大正十四年一月二十日國境守備隊狀況視察のため差遣されたる侍從武官より、聖旨、令旨を拜受す。昭和三年二月十六日天皇陛下に於ては侍從武官歩兵中佐矢野機を差遣はされ優渥なる聖旨を賜ふ。

- 一、滿洲事變 昭和六年九月十九日滿洲事變のため〇〇準備を命ぜらる。

(歩兵第七十六聯隊殘留隊報抜萃)

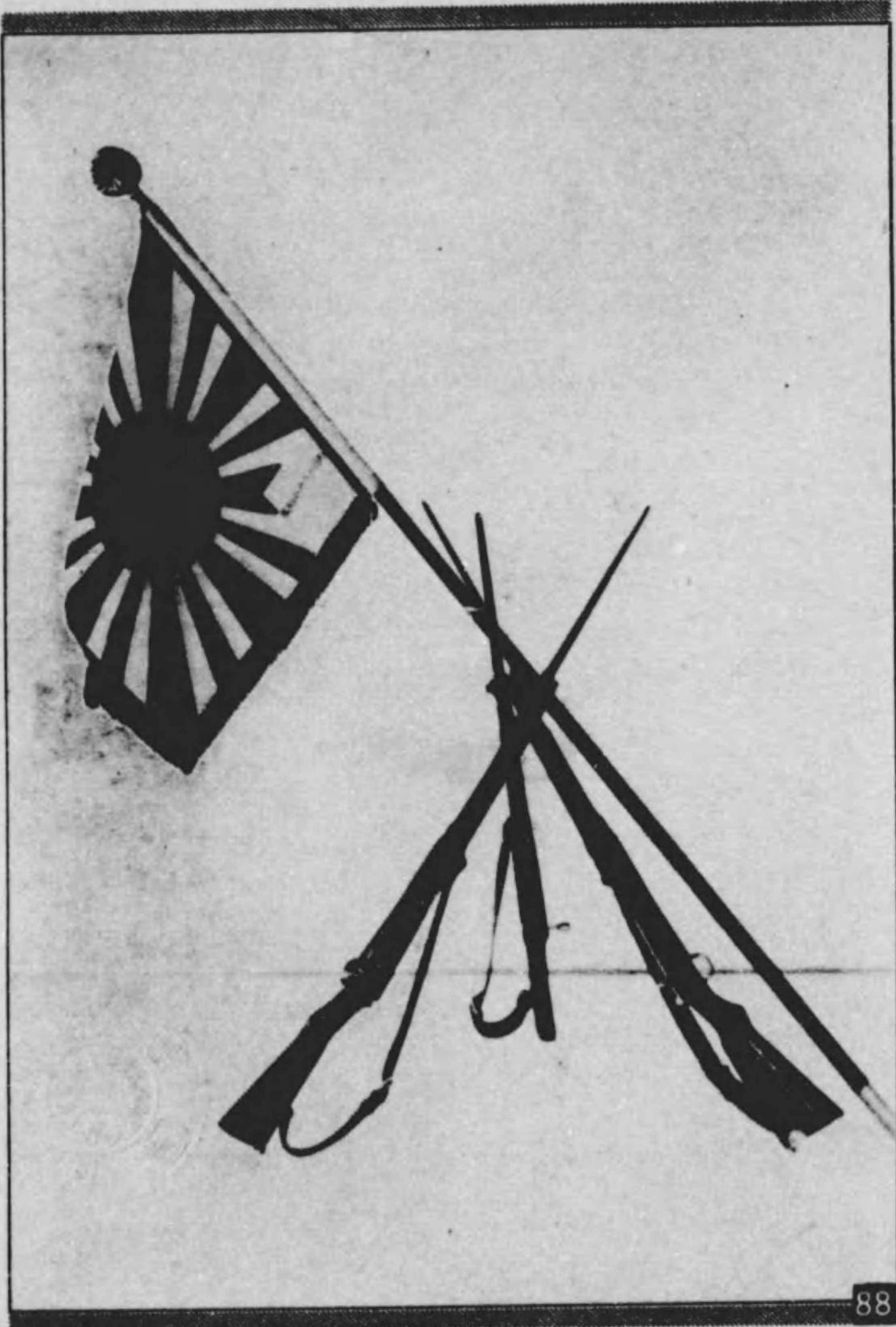
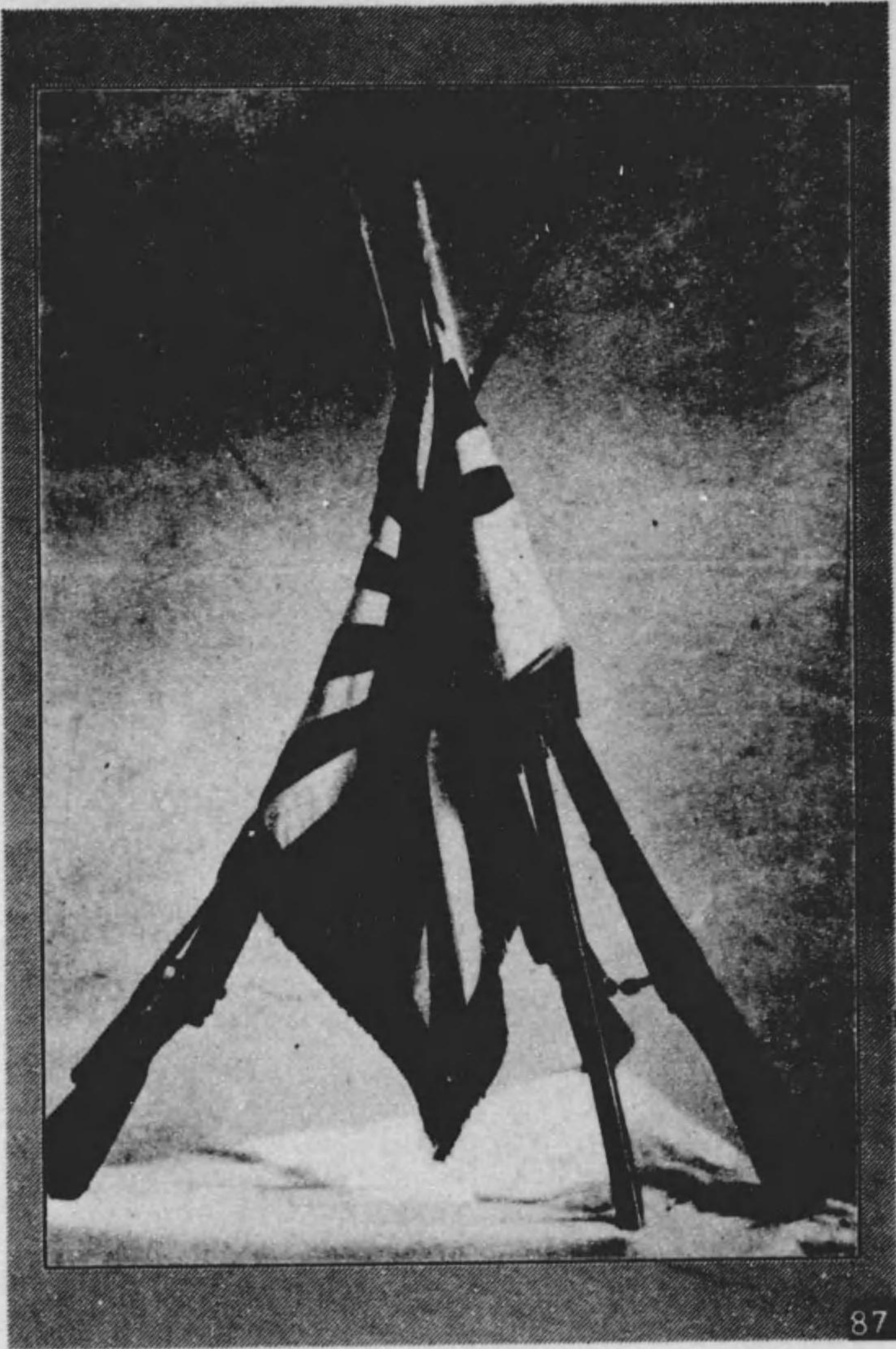
(88) 騎兵第二十七聯隊軍旗略歴

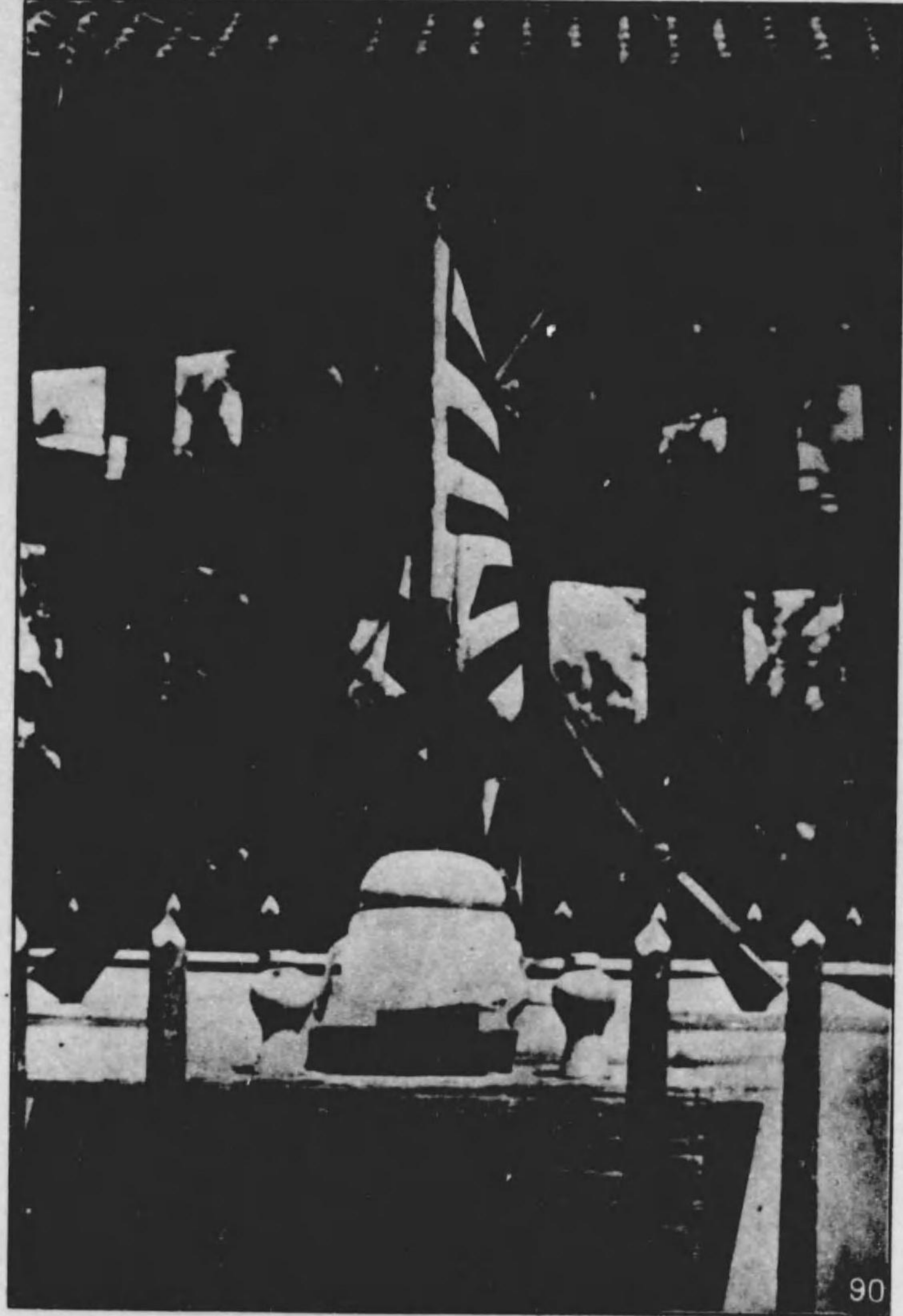
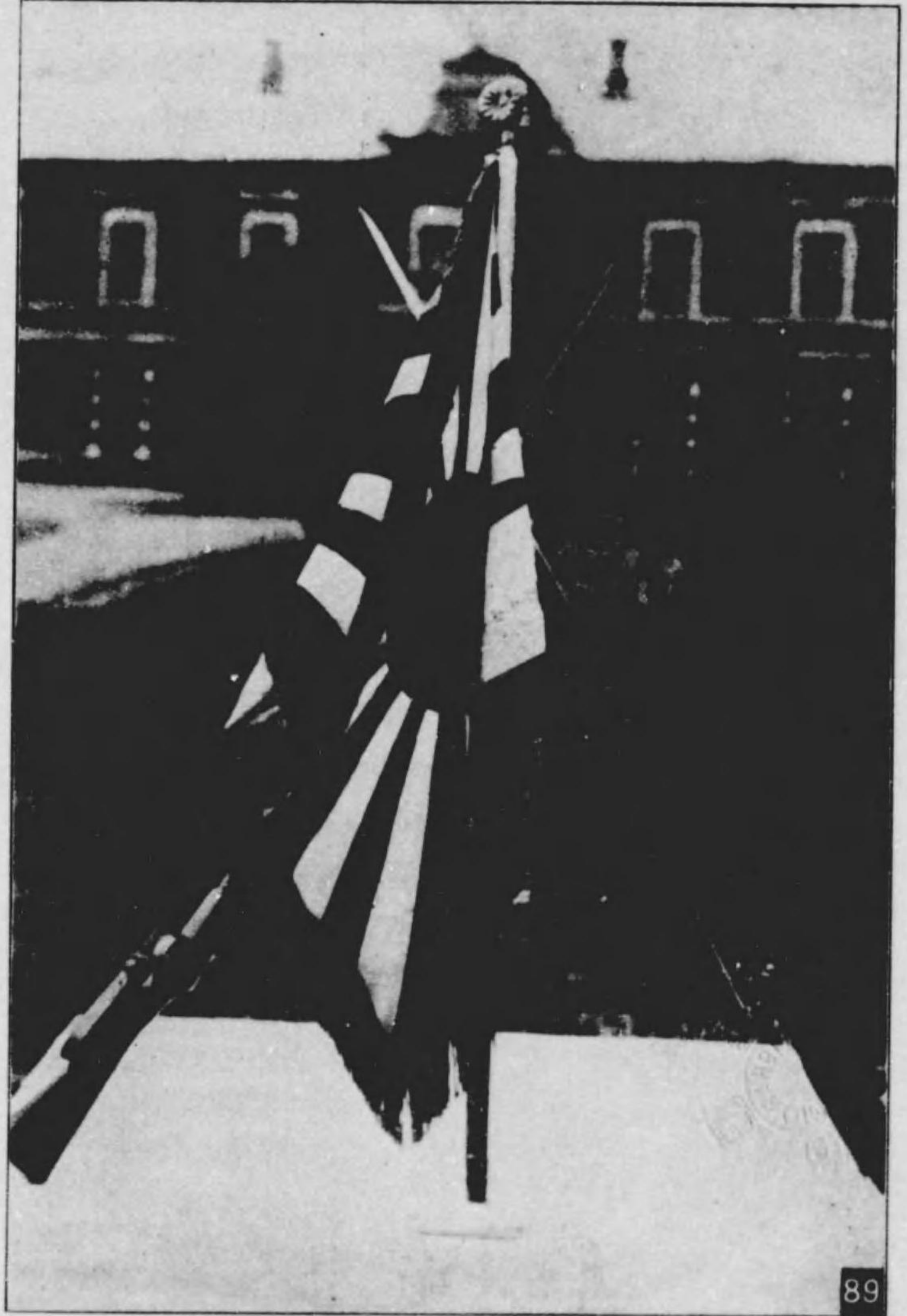
(備戊地 朝鮮 羅南第十九師團)

- 一、軍旗 親授 大正五年四月十八日。
- 一、間島事件参加 大正九年十月五日出征、同年十月二十二日支那間島遊朗村附近の戦闘に参加、同年十二月二十五日凱旋。
- 一、滿洲事變 昭和六年十二月二十八日出征、同七年一月九日奉天省錦西縣錦西附近戦闘に参加。

(騎兵第二十七聯隊殘留隊副官代理 鈴木氏報)

〔附記〕 我騎兵第二十七聯隊は衆知の如く今回の滿洲事變に際し、錦西附近に於て寡兵よく幾十倍の敵の大軍と戦ひ、古賀聯隊長以下殆ど全滅壯絶なる戦死を遂げ、國民をして切齒扼腕せしめたるは、世人の記憶新たなるところ、何人と雖もこの、軍旗眞影を拜さば萬感胸に迫るものあり。一時は軍旗の行方さへ案ぜられしも、旗手森下少尉等の決死的行爲によりて安全なるを得て國民は漸く安堵の思ひをなす。





(89) 歩兵第七十七聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 大正五年四月十八日。
- 一、滿洲守備 自昭和三年五月六日至同年九月五日。
- 一、滿洲守備 自昭和六年九月二十一日至今回滿洲に於て匪賊掃蕩に参加)

(備成地 朝鮮 平壤
所屬 電山第二十師團)

(歩兵第七十七聯隊殘留隊報)

(90) 歩兵第七十八聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗親授 大正五年四月十八日。
- 一、鴨綠江岸地方へ出動 自昭和三年五月二十七日至同年七月十八日。
- 一、滿洲守備に参加 自昭和六年九月十九日至目下〇〇中。

(備成地 朝鮮 電山
所屬 電山第二十師團)

(歩兵第七十八聯隊殘留隊副官 大桑茂男氏報)

(91) 歩兵第七十九聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 大正五年四月十八日。
- 一、支那事變の爲滿洲に派遣駐屯 自昭和三年五月六日至同年九月六日。

(所成地 朝鮮 龍山)

(步兵第七十九聯隊副官 小久少佐氏報)

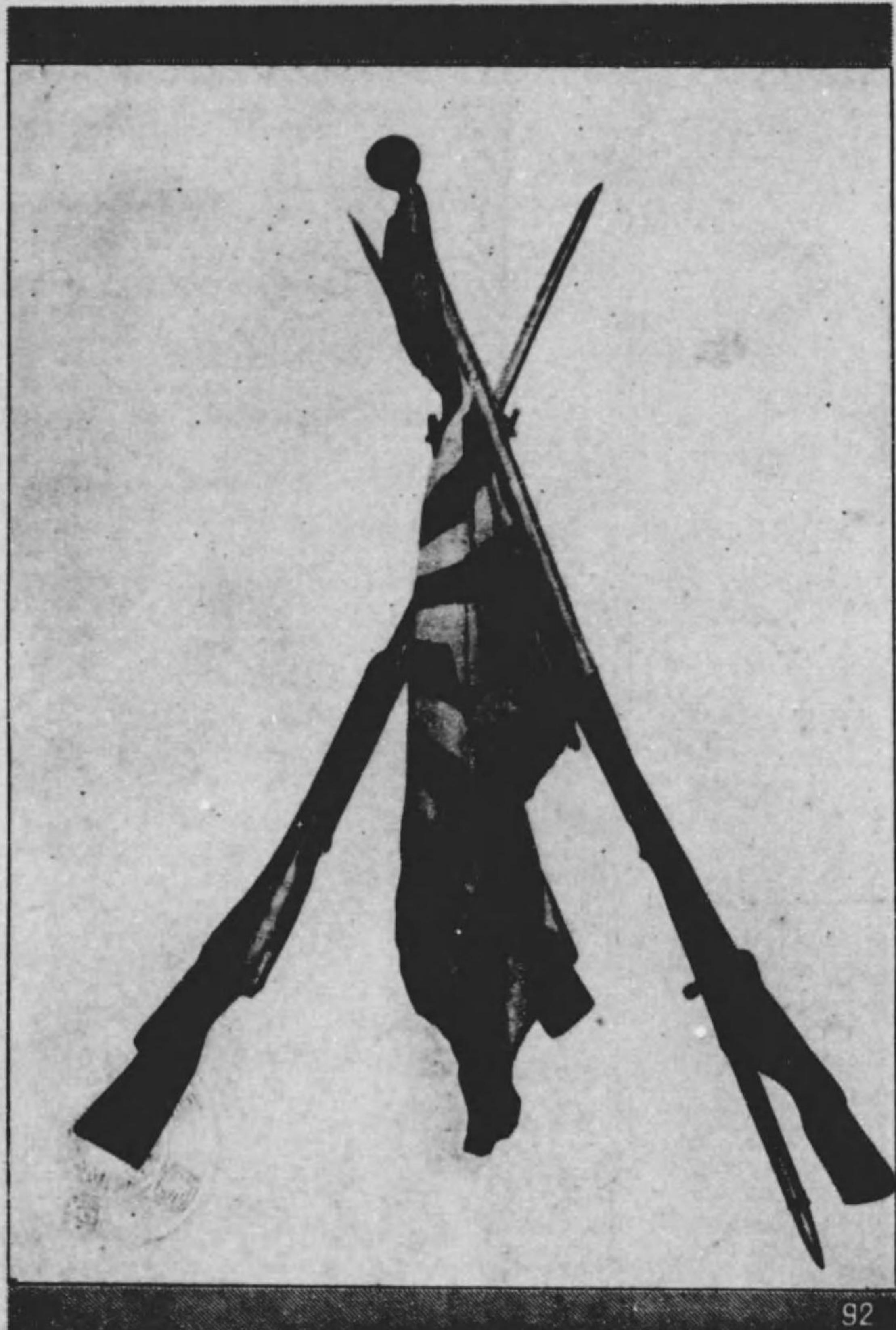
(92) 歩兵第八十聯隊軍旗略歴

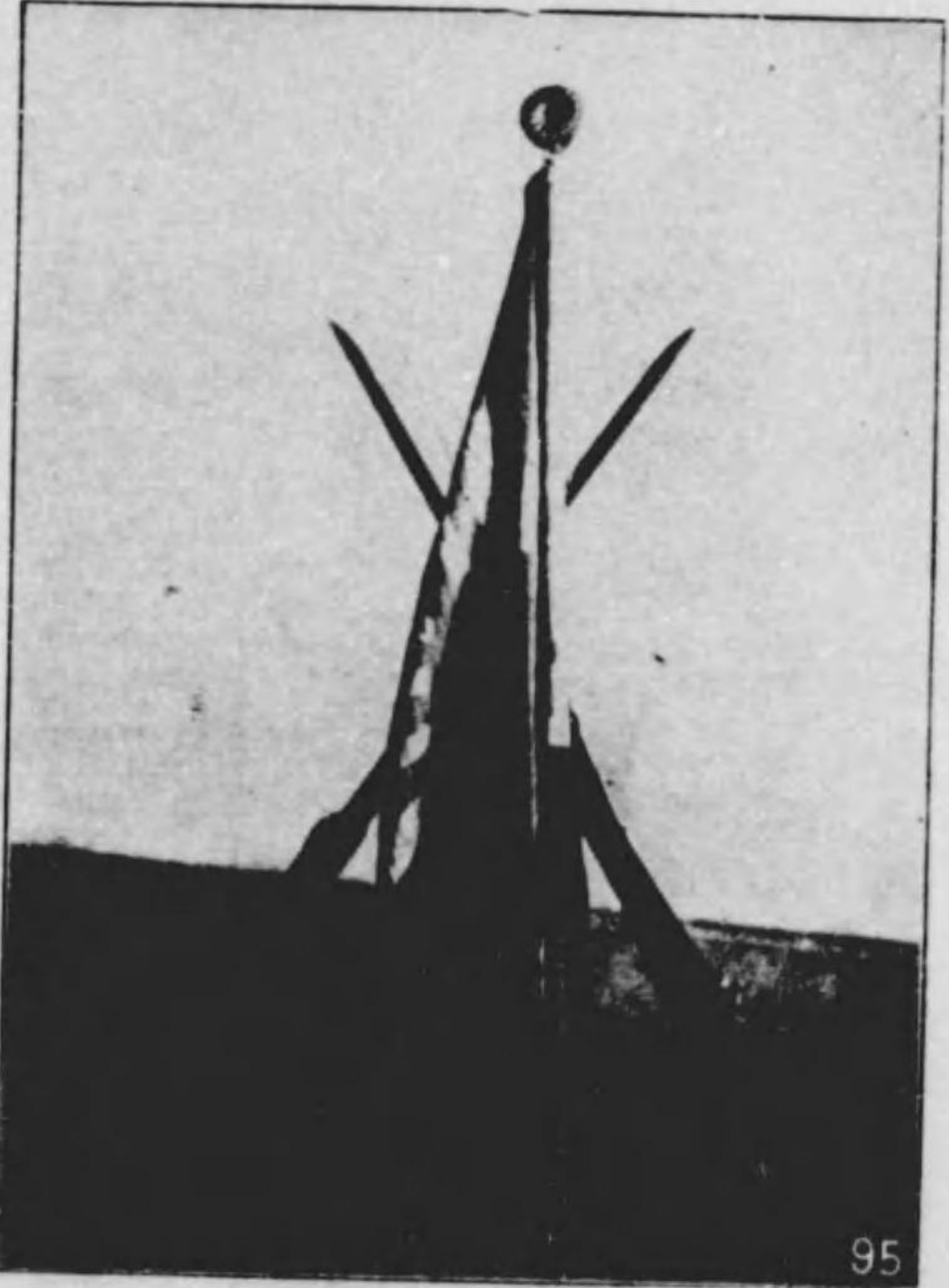
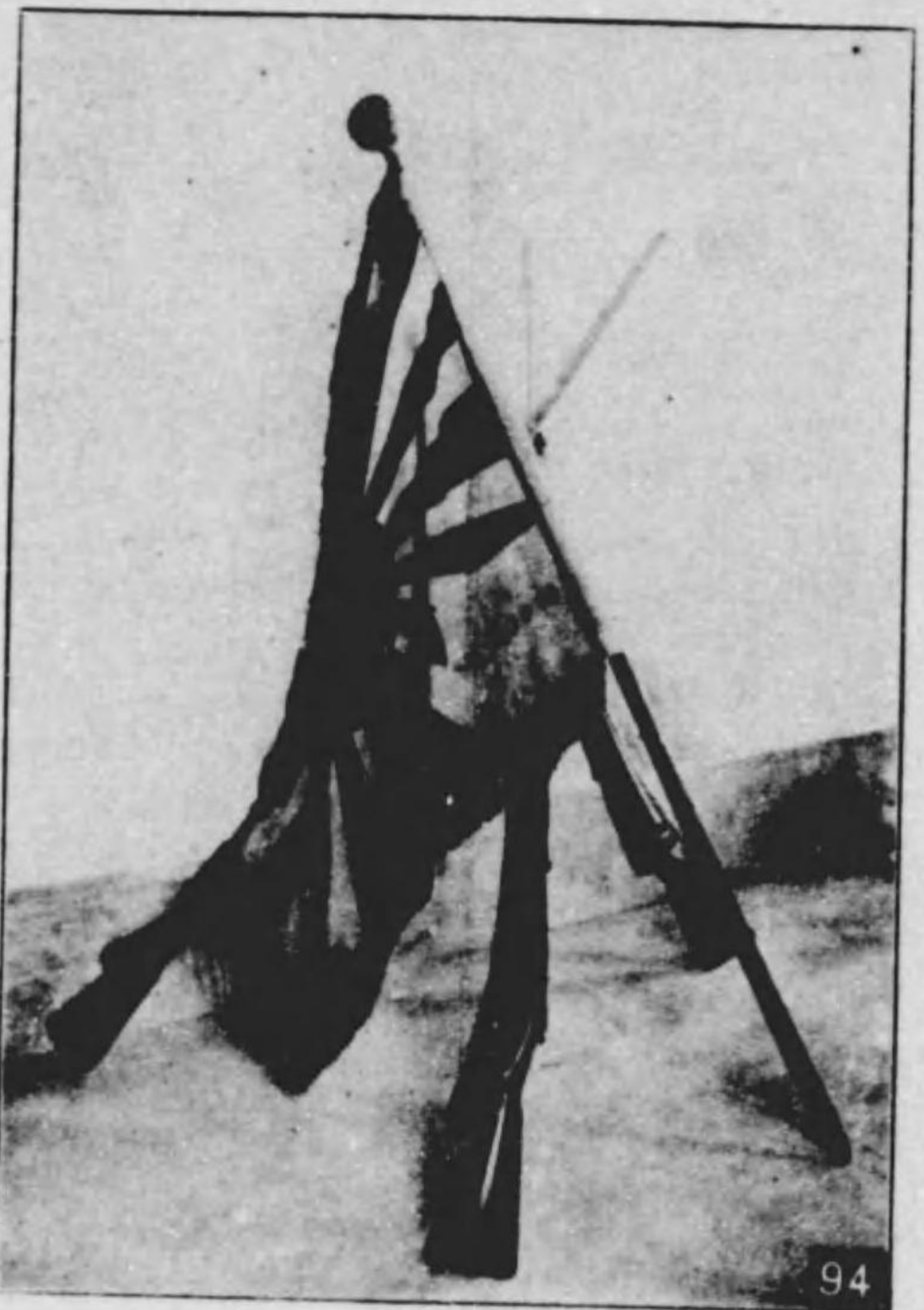
- 一、大正五年四月一日臨時朝鮮派遣歩兵第二聯隊を歩兵第八十聯隊と改稱。同年四月十八日軍旗を親授せらる。同年十二月二十五日聯隊本部を現在地大邱新築兵舎に移轉。
- 一、大正八年三月各地に蜂起せる暴民を兵力を派し鎮定。大正八年四月一日第二十師團長の隷下に入る。
- 一、大正七八年西比利亞出征部隊に對し鐵道守備の戰時勤務に服す。
- 一、爾後今日に至る。

(所成地 朝鮮 大邱)

(所屬 龍山第二十師團)

(步兵第八十聯隊報)





(93) 騎兵第二十八聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 大正九年七月九日。
- 一、其他毎年の隨時檢閲、秋季演習等に参加せるの外戦役参加の歴史を有せず。

(所在地 朝鮮 龍山)
(所屬 龍山第二十四團)

(騎兵第二十八聯隊報)

(94) 臺灣歩兵第一聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 明治四十年十一月七日。
- 一、ガオガン蕃討伐 自明治四十三年六月十五日至同年十一月十四日。
- 一、キナージ蕃討伐 自大正二年七月一日至同年九月五日。
- 一、太魯閣蕃討伐 自大正三年五月五日至同年八月二十六日。

(所在地 臺北市)

(臺灣歩兵第一聯隊副官報)

(95) 臺灣歩兵第二聯隊軍旗略歴

- 一、軍旗 親授 明治四十年十一月七日。
- 一、花蓮港廳下七脚川蕃討伐 自明治四十一年十二月十四日至同四十二年四月。
- 一、臺東廳下學堂蕃討伐 自明治四十二年四月二十四日至同年六月三日。
- 一、新竹州下ガオガン蕃討伐 自明治四十二年七月七日至同年十一月十四日。
- 一、宜蘭附近蕃人討伐 自大正二年六月三十日至同年八月三十日。
- 一、花蓮港廳下タロコ蕃討伐 (軍旗出動) 自大正三年五月五日至同年九月二十一日。
- 一、臺南州下タバニ土匪掃蕩 大正四年八月。
- 一、臺中州下霧社蕃討伐 自昭和五年十月二十七日至同年十二月一日。

(所在地 臺南市)

(臺灣歩兵第二聯隊副官清水喜代美氏報)

編輯を了へて

◆本書諸刊に際しては、時局多端にして寸暇なき御繁忙中、陸軍省副官部の御盡力を蒙りました事を、厚く此處に御禮申上ます。外、全国各聯隊副官、旗手諸氏にも或は〇中にも不拘、資料御貸與下さるとか又は、新規に軍旗御寫眞撮影して御貸下げ下さるとか、多大なる御手敷と御配慮を煩しました事を、深く々々御禮申上ます。

◆尙特筆大書して、本書の光榮を誇るは、卷頭奉戴の參謀總長宮殿下御染筆であります。民間發行書に宮殿下の御染筆を「題字」として奉戴出来るは、本書を以て嚆矢と致します。(二月二十四日閑院宮御殿御許可)

◆内地人の想像だに及ばざる酷寒の滿洲に、或は上海に、皇國の正義のため、光輝ある軍旗の下に數多尊き犠牲者を出し、寡兵よく敵の大軍を掃蕩されし忠烈なる各聯隊將士あるも、記事差止のため詳記出来ざるは遺憾なる次第、不惡御諒承下さい。

◆本書諸製の報、一と度び全国に傳へらるゝや、各地より賞讃の聲はごうぜんと集り、その熱誠溢るゝ國民の至情には、唯感激あるのみであります。

願くば、本書諸載の軍旗一旗々々につき、幾多の先輩同胞が、家を捨て、身を捨て、「陛下の高麗」を高呼して欣然瞑目されし將士のあるを深く心に止められて、謹んで感謝の意を表し、而して滿腔の敬意を盡されん事を切望してやまぬ次第であります。

「皇軍聯隊寫眞帖」編輯部

昭和七年三月十號日印刷
昭和七年三月十九日發行

版權所有
無斷複寫
嚴禁

編輯人 東京市芝區白金台八十三番地 森 本 富 藏
發行人 東京市芝區白金台八十三番地 森 本 伊 シ
印刷所 東京市芝區西久保町三十六番地 皇德奉贊會印刷所

發行所 皇德奉贊會高輪分會
東京市芝區白金台八十三番地
電話 東京七番〇九番
編輯用電話 芝二八七二番
頒布所 全国各地支部

419
269



